

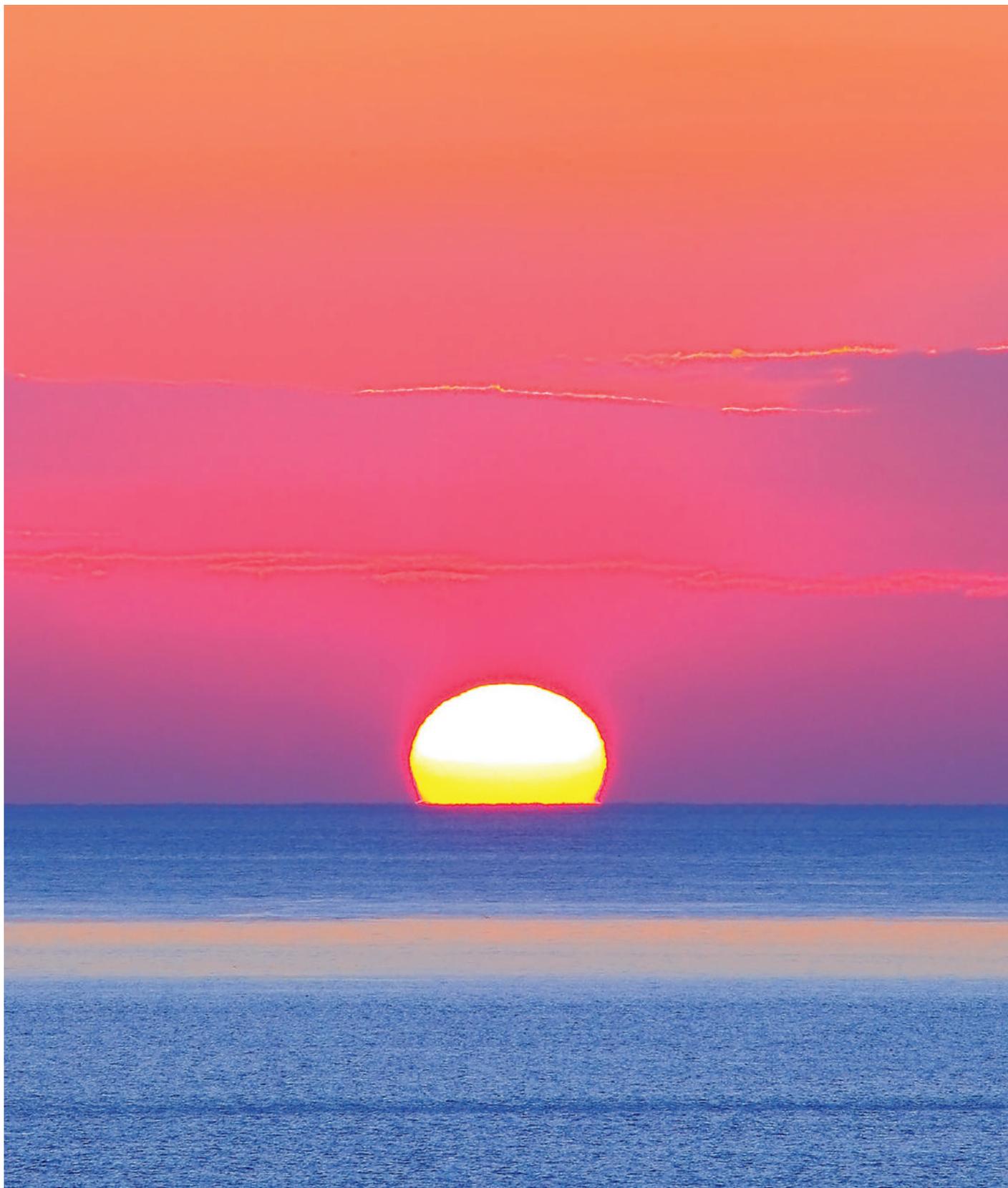
教室年報 2021



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2021

巖刀会(外科学講座同門会)



大船渡湾の日の出(大船渡市)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



こちらのQRコードを読み取ってホームページにアクセスできます



当科では我々がやっている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2021年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2021年を振り返って …… 外科学講座教授 佐々木 章

「教室年報」に寄せて

新時代へ向けた講座・医局のあり方 …… 学長 祖父江憲治

教室の今年1年

教室の一年 …… 外科学講座教授 新田 浩幸
2021年を振り返って 2022年のこれから …… 外科学講座准教授 大塚 幸喜
2021年を振り返って …… 外科学講座准教授・医局長 岩谷 岳

012 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

015 チーム紹介

上部消化管チーム/下部消化管チーム/肝胆膵・内分泌代謝外科チーム/
乳腺チーム/小児外科チーム/リサーチチーム《分子治療研究室》/
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

027 新教室員紹介

石井 勇吾/奥津 美里

028 2021年診療状況

入院患者分類/手術件数/関連病院手術件数/
関連病院発表業績件数/外科専門医制度修練指定施設・関連施設/
日本消化器外科学会専門医制度認定施設

030 表彰の栄誉

日本肥満症治療学会 第2回川村賞受賞 …… 佐々木 章
へき地医療貢献者表彰 …… 坂下 伸夫
令和3年度救急功労者表彰 総務大臣賞 …… 川村 秀司
2020年度日本クリニカルバス学会 論文奨励賞 …… 須藤 隆之
日本内視鏡外科学会 カールストルツ賞 …… 鈴木 信
外科侵襲とサイトカイン研究会 会長賞 …… 片桐 弘勝
2021年度巖刀会学術賞 …… 八重樫瑞典
日本外科学会 令和3年度「若手外科医のための臨床研究助成
(JSS Young Researcher Award)」 …… 八重樫瑞典
令和3年度圭陵会学術振興会学術賞 …… 二階 春香
日本肥満症治療学会学術集会最優秀演題セッション 会長賞 …… 宇夫方直子

038 寄稿

肥満症外科治療センターのご紹介 …… 佐々木 章
「日本人の肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に
関するコンセンサスステートメント」発刊のご案内 …… 佐々木 章
国内留学レポート …… 長瀬 勇人
「肥満2型糖尿病の肥満症外科治療の新指針」がMedical Tribuneに取り上げられました
岩手医科大学報

043 新聞記事紹介

046 2021年アルバム紹介

048 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
盛岡市立病院・岩手県立金石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・
岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・
八戸赤十字病院・かづの厚生病院

058 外科紹介医療機関

063 研究業績

078 スタッフ名簿

080 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2021年を振り返って

教室における2021年の振り返りと2022年の抱負を述べさせていただきます。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる中、各種自粛や行動制限などもあり、本当に辛抱の1年であったと思います。コロナ禍の影響による社会情勢、特に外科医療を取り巻く環境の変化は、外科学を志す学生や若手医師の意欲を低下させ、大学での研究活動や国内外の学会活動への逆風となっています。また新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年も巖刀会の通常開催が中止となり、残念に思っています。

診療では、コロナ禍の中で外科の総手術件数は、2020年の1,051件から2021年には1,071件と微増しました。稼働額(月平均)は、入院では197,742,000円(2017～2020年の最大稼働額は

190,092,000円)、外来では106,373,000円(2017～2020年96,560,000円)と増加しました。教室員一同が継続して努力した結果と思います。

教育では、2019年度から3年間、教務委員長を担当しました。担当前の第113回国師合格率(2018年度)は、新卒108/133名(81.2%)と低迷したことから、国試合格率の向上を目指した教育システムの再構築が短期目標でした。新卒合格率は、第114回で105/110名(95.5%)、第115回で142/132名(93.0%)と回復の兆しが見えました。2021年度は第6学年の留年者が減少、第116回における学生の自己採点では、マークミスがなければ合格率も昨年を超える見込みで、低迷していた合格率から脱しつつあります。第6学年後半の学生の気の緩みがないような対策を講じれば、国試

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

合格率は長期安定が期待できます。しかし、成績不振者に対する生活習慣の改善、医師を目指す資質向上、自己学修の確立などには、第1・2学年の教育が最も重要と思います。来年度の教務委員長には、低学年の学修支援の強化と学修支援委員会との連携から新教育体制の構築を期待します。今までは、教員が学修支援を行ってきましたが、低学年から学生同志が教え合うことが教育の理想と思います。最近では、国試に出ないことは CBT・OSCE で教えないでほしいと考える学生も多くおり、非常に残念に思います。これからは、自らが幅広い医学知識・態度・技能を身につけていく姿勢を持つ、正常な医学教育に移行していくことを切望します。また今後は、コロナ禍以前の大学教育に戻るのではなく、新しい教育の在り方向に向かった改革が必要です。知識を教えるのではなく、「問題解決能力、応用力と対応力」を身につけさせる、10年先を見据えた教育を考える必要があります。

人事では、本講座からは、下沖 収先生（救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野教授）、前沢千早先生（先端医療研究センター医療開発研究部門・腫瘍生物学分野教授）、肥田圭介君（医療安全学講座教授）、木村祐輔君（緩和医療学科特任教授）、西塚 哲君（医療開発研究所医療開発部門特任教授）、高原武志君（藤田医科大学総合消化器外科肝胆膵外科・肝移植担当臨床教授、2022年1月）、岩谷 岳君（臨床腫瘍学講座特任教授、2022年3月）、大塚幸喜君（藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術額講座臨床教授、2022年4月予定）

と、私も含めて9名の教授が輩出となりました。色々な領域・地域での活躍を期待します。

本講座関連の県内病院人事では、伊藤達朗先生（国民健康保険葛巻病院）、吉田 徹先生（県立中部病院）、坂下伸夫先生（県立釜石病院）、川村秀司先生（県立江刺病院）、葛西敏史先生（県立軽米病院）、川村英伸先生（県立宮古病院）、佐藤 一先生（県立千厩病院）、石川 徹先生（県立大槌病院）、遠野千尋先生（県立久慈病院）、瀧山郁雄先生（八幡平市立病院）、小原 眞先生（西和賀さわうち病院）が病院長として活躍されており、本講座と連携しながら地域医療を支えています。

第47回日本外科系連合学会学術集会を2022年6月15～17日に、第44回日本臨床栄養学会総会を2022年10月7～9日に、アイーナで開催します。コロナ禍を乗り越えたとしても、将来の学会は今までとは違った形態になるかもしれませんが、感染症状況を踏まえ、安心・安全な運営を心がけて準備を進めます。

還暦とは、十干十二支が一巡してもとの暦に還ることに由来し、生まれ変わりの年とも言われ、赤子に戻りもう一度生まれ変わって出直すという意味なそうです。今年は還暦を迎えますが、思えば1988年に入局して半分以上の人生を大学で過ごせたことにあらためて感謝したいと思います。外科学講座は、良質な最先端医療の提供と臨床研究中核講座として、医師の育成を目指してまいります。巖刀会と関連病院の皆様方には、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「教室年報」に寄せて



岩手医科大学
学長

祖父江 憲治

Kenji Sobue, M.D., Ph.D.
Professor

新時代へ向けた講座・医局のあり方

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の大流行は、2021年後半に第5波のピークが急激に減衰し終息かと思う間もなく、新たな変異株（オミクロン株）の感染が年末から2022年に入り世界中で急速に拡大し、スペイン風邪を凌駕する程の猛威を振るっています。今回の第6波急拡大に向けたコロナ対策についても、政府は早め早めの対応と云いながら、実際は常に後手後手とその場逃れの対応処置に留まっています。ワクチン・服薬・モノクローナル抗体・入院ベッド・野戦病院・検査キット…等々について、第4波と第5波の間と第5波と第6波の間に問題点は議論の俎上に上がり、成すべきことは多々あったはずですが。

本学の現況から将来への展望

コロナ対策は当面の医療において最重要課題ではありますが、高齢化・少子化・人口減少が顕在化している日本において、殊に地方において将来的な全方位的視野で地域医療を考え、行動に移す待ったなしの時に迫られています。本学の進むべき方向性については、その概要を「巖刀会ニュースレター2020」で「岩手医科大学の展望」として、日本の現状から

本学の将来展望としてすでに述べさせて頂きました。ここでは、その具体的方策を含めた詳細を追加させて頂きます。論点は、三田俊次郎先生が当時の北東北の医療の貧困を憂いて創設された本学が、今まさに北東北の中核医療拠点としてどのように発展し、その役割を完遂させていくかということです。

これ迄、折につけ申し上げてきたことですが、器造り、人造り、組織造りの三つの造りが今後ともに重要だと考えています。器造りは二年半前に矢巾新病院が開院し、順調にその役割を果たしております。次では、早い時期に内丸メディカルセンターの新改築が急がれる段階に入っています。新病院開院後に、コロナ流行による受診控えなどから本学では財政面で厳しい局面もありましたが、教職員皆様方の奮闘で財政面は好転の傾向にあります。しかしながら、まだ万全という状況には至っておらず、当初予定より若干遅れは出ますが、盛岡中心地で歯科医療センターを含む内丸メディカルセンターの新改築を出来る限り早期に行い、矢巾新病院と内丸メディカルセンターが相補的に機能補完を果しながら、北東北の中核医療拠点としての役割を果たしていくことが重要です。

次に、今後の本学発展にとって最重要となるのは

Kenji SOBUE

M.D., Ph.D. Professor

人造りです。本学は、矢巾・内丸の両病院のみならず、県内の県立病院や市立病院を含む各病院・さらに青森県（八戸・下北方面）、秋田県（鹿角・能代と県境地区）などが現在の守備範囲です。現状の本学で教員として在籍している医師数は366人、臨床研修医（1・2年次）20人、専門研修医（専攻医）140人（このうち大学院生（社会人選抜）37人）が、矢巾・内丸の両病院とこの広い医療圏を各地元の病院・医院の先生方と共に地域医療活動を行っています。医師の働き方改革などで行政からの制約が強まる中、上記の医師資源だけで広い医療圏を賄う事は難しくなっています。さらに今後は、北東北に限っても他医療施設の撤退などで、さらなる医療圏を広げる必要性が迫ってきます。この新たな必要性を含めて、現状の医師の絶対数が少な過ぎるのです。全国で人口当たりの医師数は岩手県と新潟県がもっとも少ないと言われていています。原因は様々ですが、これを追究しても即刻の解決につながりません。2～3年前から医学部教授会で教授の先生方に、この現実を念頭に置いて、さらに広い北東北の医療圏を担っていく為に、臨床講座へ入局する研修医・専門研修医を従来以上にリクルートして下さいとお願いしています。大学の力は、いかに多数の若い医師を養成し輩出するかにあります。この為には、魅力ある活力ある講座（医局）、実績を誇る講座（医局）造りが重要です。また、学生時代から、機会あるごとに学生に声を掛けてやって下さい。先生方の熱意は必ずや学生に伝わります。また、先生方御自身の講座（医局）のPRを大いにして下さい。研修医・専門研修医・大学院生にも同様です。入試方法も一計が必要となるかも知れません。また、本学学生や卒業生のみならず、他大学の若い医療人とその卵へのリクルート活動も非常に重要なことです。先述しました如く、研修医・専門研修医（大学院生を含む）は現時点で総計160人です。各講座・医局ではこれまでも大変な努力でリクルート活動をされてこられました。例えば、外科学講座では2016年以降現在までに、2～8人の新医師が毎年入局しています。これからは従に加え、さらに全学で各講座医局で1～2人多くの入局者を増やして頂きたいのです。研修医・専門研修医が全学で常時400人の大軍団にする必要があります（巖刀会ニュースレター2020では300

人と書きましたが、今後を見据えるとこれでは足りません）。この為には、各臨床講座（医局）にはさらなるご努力をお願いすることになりますが、この結果は必ず皆様にも返ってまいります。

最後は組織造りです。大学の拡大・発展に伴って、組織造りも出来る限り速やかに対応できる柔軟性を持つようにしています。時代の流れ、時勢の必要度などに応じ、講座再編なども弾力的に行っております。2022年には、この流れはさらに加速すると思います。これまではややもすると遅れ勝ちであった事務組織も、講座再編を始めとした組織改編に対応すべく即応可能な体制をとるようにしています。今後ともに、柔軟な組織造りに努力してまいります。

講座（医局）のあり方

講座医局のあり方も大きな変化が起こっています。かつては大講座制であったものが、医学・医療の細分化で徐々に小講座化する傾向にありました。本学においても一部講座で専門化して小講座化する傾向がありました。しかし、小講座化への反省点もあり、全国的にも小講座化の見直しが行われ始めています。また、小講座化したものを再編するのみならず、関連した臨床科が合体運営することもあり、これは講座間のみならず学会間でも合体・統合する例が散見されるようになりました。この中であって、本学の外科学講座は佐々木章教授を主任教授として、大講座体制の中で6人の教授を配して学外へも新教授を輩出しようとする大講座へと変身しておられ、大講座の成功例であります。活性化された講座内では人事の代謝・循環も活発化し、これがさらに講座運営にも反映してポジティブ効果を発揮しています。

私の思いを込めた散文になりましたが、外科学講座が地域医療のみならず全国区での益々の発展を祈念致します。

外科学講座「教室年報」に寄せてということで書かせて頂きましたが、脳神経外科・整形外科・形成外科・心臓血管外科・呼吸器外科など、外科系講座のいずれもが活躍いただいている事に、併せてお礼申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

新田 浩幸

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Professor

教室の一年

2021年も新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。我々肝胆膵チームの手術症例は1から3月までは少なく、4月からはその反動のように手術症例数が例年より増加しました。年間を通すと、肝移植を含め手術症例数はやや減少したのですが、4月以降の忙しさから体感的にはこれまで最も大変な一年であったように思います。肝胆膵チームだけで常時入院患者が40名前後おり、働き方改革はできるのかという状態でした。県内における肝胆膵疾患の医療体制が変化した訳ではなく、この手術症例数の波は新型コロナウイルス感染症の影響と考えています。肝胆膵チームに限らず、外科学講座がこの忙しさの中で大きなトラブルなく診療できたのは、チームスタッフの頑張りであり、限られた人数で効率的に仕事ができることが要因の一つだと思います。

学会などもほとんどがリモート、ハイブリッドに

よるものでした。何度経験しても味気なく、対面で感じていた熱量というものがありません。自分を含めた口下手な人間にとっては、考えていること、思いといったものが伝わりづらいのは如何ともし難い形式なように思います。感染症が比較的落ち着いたときには遠方の学会にも行くことができましたが、やはり対面が一番とあらためて感じました。プライベートでも遠くに行くことはなかったので旅気分も大いに含まれていたものと思いますが、2022年度中にはすべての研究会、学会が現地開催になることを願っています。

肝胆膵領域では2022年度からロボット支援下肝切除術、腹腔鏡下ドナー肝切除術（外側区域）が新たに保険収載される見通しとなりました。若手外科医の修練手術のこともあり、我々のチームではロボット支援下での膵切除術もまだ行っていなかったので、

royuki Nitta

M.D., Ph.D. Professor

ロボット支援下肝切除術の導入は新たな試みになります。腹腔鏡下肝切除術の豊富な経験と、CUSAを使用せずに肝実質切離を行っている手術手技から、漠然と我々の手術はロボット支援下肝切除術に合っているのではと思っていました。もちろん、簡単な手術ではないことは承知しておりますので、しっかりと準備をして望みたいと考えております。腹腔鏡下ドナー肝切除術はこれまでも症例に応じて行ってきましたが、体への負担の軽減だけでなく、ドナーだからこそ整容性のメリットもあると考えています。若い女性がドナーであることも多く、子供から親への移植の場合にはドナー手術を腹腔鏡で行ってくれるなら移植を受けたいという方も少なくありません。今回の保険収載により、安全に普及することを期待しています。

この二年間は新型コロナウイルス感染症の影響により不自

由な生活や診療を強いられました。失われた二年間だったのかと考えると、そうではなかったようにも思います。不要なもの、必要なものを考え直す良い機会であり、感染症が落ち着いたあとも継続されていくことが多いと思います。重要度の低い会議などはリモート参加でもいいでしょうし、ちょっとした食事会や飲み会もこれまでは多かったのかもしれませんが、限られた時間を効率的に過ごす習慣を身につける、そのような期間になったように思います。2022年は感染症が落ち着いてくると信じておりますが、元の生活に逆戻りではなく、次の年へのステップとなる一年になるよう、時間を効率的に使って実りある一年にしたいと考えています。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

大塚 幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2021年を振り返って 2022年のこれから

2021年もまた、2021年と同様にコロナで終わった年でした。そのような制限下でも、外科医局員たちは日常診療、教育、研究において必死に頑張り、例年以上に成果を出した1年だったと思います。下部消化管チームも、2021年4月に木村聡元先生が函館五稜郭病院に出向になった穴を八重樫、高清水、有吉、畑中がフル回転で頑張ってくれました。

診療においては、パンデミックから約1年経過した昨年は、大腸がん検診や受診控えの影響のためか進行癌が明らかに増え、大腸癌イレウスや穿孔、ステージ4の切除不能症例を多く経験しました。しかし、腹腔鏡手術は例年以上の症例数であり、当チームの手術のクオリティーの高さをあらためて確認しました。

研究に関しては、高清水清治先生、中村侑哉先生が大学院を無事卒業し、学位を取得しました。また、八重樫瑞典先生の研究論文がThe British Journal of Cancer (IF: 5.791) にアクセプトされ、巖川会学術賞を受賞しました。このように下部消化管チームの後輩たちは、確実に成長しております。

若手外科医への手術教育に関しても積極的にを行い、今年は2名が内視鏡外科技術認定医試験(大腸)に申請しており、4月の合格発表が楽しみです。ま

た、対外的な教育活動に関してはコロナ禍により施設間の往来が困難なため、webでのビデオクリニックや講演が中心でしたが、「360度カメラを使用したバーチャル手術見学」や「遠隔リモート手術指導」を開始し、腹腔鏡の安全な手術手技の啓蒙や技術の継承も積極的に行ってきました。学生教育に関しては大きな課題があります。矢巾新病院内での学生との物理的な距離感、さらにコロナの影響が拍車をかけて外科の魅力が伝えづらくなっています。医局員は危機的問題であることを自覚し、情熱ある教育と計画的な勧誘で外科の魅力を伝えてほしいと思います。

私事で大変恐縮ですが、同門の先生方にご報告があります。2022年3月をもって岩手医科大学を退職し、4月から藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座の臨床教授として赴任いたします。岩手医科大学在職中の29年間、同門の先生方には愛情あるご指導、ご支援をいただき心から感謝申し上げます。1993年に岩手医科大学を卒業し、同年齊藤和好教授が主宰する岩手医科大学第一外科に入局いたしました。入局から6年間は食道チームに属し、石田薫先生、佐藤信博先生、池田健一郎先生の元で、「食道癌術後の経腸栄養管理」について研究し、学位を取得しました。その6年間は、3ヶ月毎に関連病院と大

K o k i O T S U K A

M.D., Ph.D. Associate Professor

学の勤務を繰り返すトランク生活をしてきました。そのおかげで、同門の先生に接する機会は医局員の誰よりも多く、第一外科の手術の定型化（レーゲル）や患者を診る姿勢、考え方を学び、さらに大腸癌手術の楽しさや腹腔鏡手術の魅力、奥深さを教えて頂きました。その経験が、現在の私の財産になり、そしてライフワークとしている腹腔鏡手術の「教育」に大きく影響を与えていただいたと確信しております。同門の先生方にはこの場を借りて、心より感謝申し上げます。そして、長期出張を経験せずに現在に至った結果、光栄なことに大学勤続29年となりました。6年間のトランク後は、その当時の医局長である旭博史先生の勧めもあって下部消化管チームに配属されました。そして、1997年に腹腔鏡下大腸手術を佐々木章先生、樋口太郎先生と立ち上げ、さらには2002年に大阪医科大学に国内留学をさせていただきました。2004年に下部消化管チームのチーフとなってからは、優秀な後輩たちにも恵まれチームとしても成熟し、腹腔鏡手術の適応を徐々に拡大しながら確実に症例数を増やしてきました。学外からの国内留学生を含め、常に5～7名の下部消化管チームで1997年から2021年まで2828例の腹腔鏡下大腸癌手術と年間1000件以上の外来化学療法を行ってきました。これもひとえに、たくさんの患者さんをご紹介いただいた同門の先生方、県内および当院消化器内科、臨床病理、麻酔科の先生方、メディカルスタッフのおかげです。

外科医になって29年間、学生生活も含めると35年間という長い間、岩手の優しい環境で生活してきましたので、名古屋での単身赴任生活は想像以上に大変になることは覚悟しております。しかし、今はそれ以上に私が藤田医科大学でのやるべきことで頭がいっぱいです。

同門会事務局を任されて12年間、同門の先生方には本当にお世話になりました。つらい時期もありましたが、先生方の愛情ある言葉と心強い行動に助けられてこれまで続けることができました。これからは、これまでとは違う立場、角度から岩手医科大学外科に協力していきたいと思えます。そして、巖刀会総会と忘年会にはぜひ参加させていただき、元気な顔をお見せしたいと思えますので、先生方もどうかお体にお気をつけください。

最後に、2022年2月1日にご逝去された、私の恩師であ

る石田薫先生（享年73歳）に追悼の意を込めて思い出を書きます。薫先生との出会いは、私が大学5年のポリクリ時代にさかのぼります。外科の実習時に、「おめえー、能代出身だろ。山組（現在、能代厚生）に手術行くからついて来い」。



手術中の薫先生の表情や手術後に能代の居酒屋（千両）で、同門の小野雄司先生、別所啓司先生やその当時の外科の先輩たちとの楽しい会食は、今でも鮮明に覚えています。その後、私は能代の実家に久々に宿泊しましたが、母親が涙ながらに喜んでいたことを思い出します。その後も、その当時付き合っていた私の妻と会食させていただき、「はやく結婚するんだあ〜。その方が良い仕事できるから」と真剣な表情で話してくれました。薫先生の卓越した手術技術と人を魅了する人間力にあこがれて、そして薫先生のような「格好いい外科医」になりたいと第一外科入局を決めました。私がこれまで関連病院での手術応援の際に学生を同行させてきた理由は、薫先生とのこのような強烈な出会いが教訓となっています。外科の魅力を伝えられる一番の教育法だと確信しているからです。そして、薫先生の教えを守って入局後すぐに妻と入籍しました。

第一外科入局後は選択の余地もなく eso グループに入り、過大侵襲手術後の管理に明け暮れ、その仕事を学位研究させていただきました。学位取得後に医局人事で大腸グループへの異動に迷っていた私に、「これからは大腸癌が多くなるから、一人でも多くの患者を手術で治せる医者になれ」と背中を押してくれました。

今年1月、藤田医科大学への赴任が決まったことを入院中の薫先生に報告することができました。「おめでとう。良かったなあ」と、くしゃくしゃな笑顔で喜んでいただきました。その笑顔と言葉は一生忘れることはありません。薫先生が亡くなる前日にお会いできました。その機会を作ってくれた木村祐輔先生、そして繰り返す入退院に尽力してくれた小鹿雅博先生に心から感謝いたします。

薫先生、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

先生に教えていただいた、「患者を診る心」「手術に対する熱意」を新天地でも発揮して、先生がやってこられた「情熱ある外科医の育成」に励んでいきます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授・医局長

岩谷 岳

Takeshi Iwaya, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2021年を振り返って

はじめに医局長といたしまして、昨年中また本年度の人事異動につきましては、急なお願いや度重なる変更などもありましたが、巖刀会の皆様、関連病院の先生方、教室員の先生方にはご理解ご協力いただきまして誠にありがとうございました。2022年度は若手7名が新たに加わり、またベッドフリーで研究を行っていた大学院4年生3名の現場復帰もあり大幅な人員増かと思われましたが、7名が医局人事から離れることとなり、結局は長く減員のままでありました3施設の人員補充にとどまりました。医局も減員の状態であり、今後とも外来や手術など大学への診療応援の程何卒よろしくお願い申し上げます。さて、人事にも大きくかわる問題として、最近話題に上がることの多くなった「医師の働き方改革」が今後重くのしかかってきそうです。外科は守備範囲が広いと、どの施設でも先生方は少人数で多くの業務にあたり時間外労働が多くなっていることと思います。大学病院も人員は多いですが、矢巾

附属病院・内丸メディカルセンターでの診療の他、研究や学生指導などの教育にも大きな時間をさかれており、多くの医局員が連日かなりの超過勤務状態となっております。大学病院医師の勤務状態の改善を求められた場合、まず削減の対象になるのが関連病院への診療応援かと思われます。医局員の収入が減るというのも大きな問題ですが、大学からの診療応援の削減となればそのぶん周囲の病院の先生方の労働時間が増え、現在の診療継続が困難となる施設も増えるため、結局は大学・関連病院全体での医療の縮小につながってしまう可能性があります。しかし、「働き方改革」、難題ではありますが、実際過酷な勤務状況にある医師も多くおりますので、これを機会に仕事の効率化やタスクシフト・シェアにより外科医の労働環境を改善することで新入局員の増加など良いサイクルに入るよう考えていきたいと思っております。

k e s h i | W A Y A

M.D., Ph.D. Associate Professor

臨床面では、私が担当する領域としては、この1年で「遺伝子パネル検査」の対応する機会が増えました。2019年から遺伝子パネル検査が保険収載されがんゲノム医療が本格化し、全国での検査数が上昇しております。外科が担当するがん領域も多いため、当院の遺伝子パネル検査の3割は私に対応させていただいております。標準治療終了患者への遺伝子異常に基づく新規治療提案が目的とされる検査ですが、遺伝子異常に対応する保険適応薬はまだ少なく、治験参加や適応外使用が主な出口となっております。また適応が標準治療終了または終了見込み患者であり、検査時間もかかるため結果判明時には全身状態の低下がみられることも多いです。遺伝子パネル検査結果に基づき治療を行い劇的な効果得られた患者さんも経験しましたが、現在の治療到達率は5%程度です。患者さんにはこのような現状をお話して検査を受けていただいておりますが、皆さん希望を持って検査を受けますので、ネガティブな検査結果にはかなりの落胆をされます。研究面として、このようながんゲノム医療の問題点に対し、外科研究室で開発したがん患者

の腫瘍由来血中遊離DNA (ctDNA) モニタリングシステムが改善をもたらす可能性があります。われわれのシステムでは現在用いられている遺伝子パネル検査とは目的が異なり、治療提案に関連しない変異も含めすべての変異を検査対象とし、採血で治療効果判定、早期再発発見、無再発判定を正確に行うものです。ctDNAモニタリング検査は現在の遺伝子パネル検査と組み合わせることで、がん患者日常診療やがん研究を大きく変えうる可能性があり、岩手医大で自由診療で行えるよう準備しております。同門の先生方にもご協力いただき、岩手発のがんゲノム診療を世界へ発信できればと考えておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

最後になりますが、本年は外科学講座が主催する外科系連合学会学術集会、日本臨床栄養学会総会が開催されます。コロナ禍が早くに収束し、学会や巖刀会で皆様と対面でご一緒できることを期待しております。今度とも一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



- 助教(任期付)
長瀬 勇人
〔平成20年卒〕
- 助教
天野 怜
〔平成26年卒〕
- 専門研修医
石井 勇吾
〔平成31年卒〕
- 大学院生
奥津 美里
〔平成31年卒〕
- 大学院生
佐々木 智子
〔平成30年卒〕
- 大学院生
小泉 優香
〔平成30年卒〕
- 助教
二階 春香
〔平成23年卒〕
- 助教(任期付)
眞壁 健二
〔平成21年卒〕
- 助教
武田 大樹
〔平成20年卒〕
- 臨床腫瘍学講座
講師
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕
- 助教
菅野 将史
〔平成16年卒〕
- 講師
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕
- 准教授
鈴木 信
〔平成12年卒〕
- 准教授
秋山 有史
〔平成11年卒〕
- 准教授
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕
- 教授
新田 浩幸
〔平成5年卒〕



大学院生
伊藤 浩平
〔平成29年卒〕

大学院生
菊地 晃司
〔平成29年卒〕

大学院生
屋成 信吾
〔平成29年卒〕

助教
高清水 清治
〔平成22年卒〕

特任講師
八重樫 瑞典
〔平成21年卒〕

講師
馬場 誠朗
〔平成16年卒〕

助教
小松 英明
〔平成16年卒〕

助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

秘書
佐藤 育子

秘書
宗像 春菜

秘書
中新井田 沙希

教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕

医療安全学講座
教授
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

緩和医療学講座
教授
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

准教授
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

講師
梅邑 晃
〔平成17年卒〕

病棟風景



東10階緩和ケア病棟ラウンジ



西8階一般入院病棟ラウンジ

東側眺望サイン



西側眺望サイン



チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

チーム紹介

上部消化管チーム

STAFF: 秋山有史、馬場誠朗、遠藤史隆、二階春香

専門外来

食道・胃疾患
木曜
8時30分～17時
(矢巾新病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾新病院での入院は、化学療法と手術治療を当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリや栄養などに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術に加えてロボット支援下食道切除術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2021年の食道癌に対する胸腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は100%、胃癌に対する腹腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は77.0%でした。

2021年のニュース

- 4月▶ 上部消化管チームとして、岩手医科大学クリニカルパス大会で胃切除術に対する多職種(医師、看護師、薬剤師、管理栄養師、理学療法士、診療情報管理士)の取り組みを報告
- 4月▶ 馬場誠朗医師、日本ロボット外科学会 国内B級 専門医を取得
- 6月▶ 二階春香医師、第9回岩手腫瘍免疫研究会で、岩手医科大学における食道癌、胃癌に対するNivolumab療法の成績を報告
- 10月▶ 遠藤史隆医師、臨床腫瘍科講師に昇任
二階春香医師、圭陵会学術賞受賞
- 12月▶ 遠藤史隆医師、Infection Control Doctorを取得
COVID-19の感染対策において岩手医大に多大なる貢献をする

2021年 診療・研究状況報告

- 上部チーム入院数：713名
- 上部チーム手術数：134名
- 食道癌新規入院数：60名
- 食道癌手術：9名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術：9例)

疾患	術式	症例数
食道癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	7例
	胸腔鏡下食道切除術	2例
	左開胸開腹食道切除術	0例
	経裂孔の下部食道切除術	0例
他疾患	緊急手術、遊離空腸等	19例

《年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年
食道癌	18	12	9
胸腔鏡下	5	2	2
ロボット支援下	10	10	7

- 新規胃疾患入院数：142名
- 胃疾患手術数：107名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	15例
	左開胸開腹下部食道胃切除術	0例
	腹腔鏡下胃切除術	23例
	ロボット支援下胃切除術	28例
GIST	切除術	7例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	34例

《年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年
胃癌	89	100	66
GIST	1	5	7
計(悪性腫瘍切除数)	90	105	73

●2021年研究報告

《教室内》

- ・「脈絡膜悪性黒色腫の臍転移に対する腹腔鏡下臍体尾部切除術の一例」*Surg Case Rep, 2021*
- ・「皮膚転移をきたした食道 basaloid squamous cell carcinoma の一例」*Int J Surg Case Rep, 2021*
- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価(データ集積中)
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング(症例集積中)
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発(解析中)
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討(解析中)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(解析中)
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討(解析中)
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討(株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中)
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証(症例集積中)
- ・食道癌化学療法中のサルコペニアの検討(データ集積中)

《臨床試験》

- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌(NEC)を対象とした エトポシド/シスプラチン(EP)療法とイリノテカン/シスプラチン(IP)療法のランダム化比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF(シスプラチン+5-FU)療法と bDCF(biweekly ドセタキセル+CF)療法のランダム化第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1507「病理学的 Stage II/III で“vulnerable”な 80 歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量した S-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的

としたランダム化比較第 III 相試験」症例登録中

- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的放射線療法と導入 Docetaxel+CDDP+5-FU 療法後の Conversion Surgery を比較するランダム化第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel+Oxaliplatin+S-1 の第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0 食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例登録中
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化 II/III 相比較試験」症例追跡終了

《治験》

- ・胃癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法として MK-3475 及び化学療法(XP 又は FP)とプラセボ及び化学療法(XP 又は FP)を比較する二重盲検無作為化第 III 相試験(MSD 株式会社)：追跡中
- ・胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験(小野薬品工業株式会社)：追跡中
- ・進行性又は転移性固形がんを対象とした ONO-4578 単剤投与及び ONO-4578 と ONO-4538 の併用投与における非盲検非対照用量漸増及び拡大試験(小野薬品工業株式会社)：登録終了

《科研費獲得》

- ・「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」文部科学省科学研究費 基盤研究 C (研究代表者 馬場誠朗)
- ・「Circulating tumor DNA 検査の臨床導入における課題の克服」文部科学省科学研究費 基盤研究 C (研究代表者 遠藤史隆)
- ・「ctDNA 検査を用いた食道癌の免疫チェックポイント阻害剤の適正使用の検討」文部科学省科学研究費 若手研究(研究代表者 二階春香)

●今後の課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対する Salvage 手術、conversion 手術の増加。
- ・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証。
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成。
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進。

下部消化管チーム

STAFF: 大塚幸喜、八重樫瑞典、
清水清治、有吉 佑、畑中智貴

附属病院 (矢巾)

術後外来: 月曜8時30分～16時
新患外来 (他院・院内の紹介): 火曜8時30分～12時
外来化学療法: 月曜・水曜・金曜8時30分～12時
ストーマ外来: 千葉励子 (WOCN)、高橋咲子 (WOCN)、小笠原久美子 (WOCN)
月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時

内丸メディカル

新患外来 (他院の紹介): 月曜8時30分～12時



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2021年12月までに2828例となりました。2018年4月から開始したロボット支援下直腸癌手術は、2021年12月までに100例経験し、昨年はの直腸癌症例の約50%に対してロボット手術が行われました。今後、さらに適応を拡大し、根治性と機能温存を目指して、患者さんのQOLを重視した最新の医療を提供していきたいです。新型コロナウイルス感染症により昨年は局所進行直腸癌症例が多い状況でしたが、積極的に術前化学療法を行い腹腔鏡・ロボット手術による根治手術、さらには肛門温存手術を行っております。さらに、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科・循環器科にご協力いただき手術を行っております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子、小笠原久美子 WOCナース (皮膚・排泄ケア認定看護師) 3名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローしております。

潰瘍性大腸炎や Crohn 病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんの QOL を重視した腹腔鏡下手術を消化器内科と患者情報を共有し行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対する腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2021年までに12名 (初回合格率71%) の内視鏡外科技術認定医合格者 (大腸分野) を輩出してきました。また全国各地からの国内留学生 (これまで10名) に対しても指導を行っております。2021年は新型コロナの影響で他施設からの手術見学が制限された中でも、webを使用した手術ビデオ配信やビデオクリニックの他、VR手術見学や遠隔手術指導など関連病院以外の施設への発信も継続的に行っております。

2021年のニュース

- 3月 ▶ 清水清治先生、中村侑哉先生 医学博士号取得
- 4月 ▶ 木村聡元先生 函館五稜郭病院に異動
清水清治先生 日本ロボット外科学会 国内B級 専門医を取得
- 7月 ▶ 第36回岩手ストーマ研究会 初のWeb開催
- 11月 ▶ 八重樫瑞典先生 The British Journal of Cancer (IF: 5.791) にアクセプトされ、巖刀会学術賞受賞
八重樫瑞典先生 日本外科学会若手外科医のための臨床研究助成受賞

2021年 診療・研究状況報告

●手術数 (全麻) : 289例

※そのうち大腸癌手術 (切除) は221例 (再発手術 3例含む)

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌 (140例)	開腹	14例
	腹腔鏡	126例
直腸癌 (78例)	開腹	4例
	腹腔鏡	48例
	ロボット支援下	24例
	経肛門	2例
大腸癌再発 (3例)	開腹	1例
	腹腔鏡	2例

Crohn 病 (6例)	開腹	0例
	腹腔鏡	6例
潰瘍性大腸炎 (4例)	開腹	1例
	腹腔鏡下大腸全摘	3例
他全麻手術 (ストーマ造設・閉鎖、良性手術、他科手術応援など)		68例

《初発大腸癌の年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年
結腸癌全手術数	119	125	140
直腸癌全手術数	73	74	78
計	192	199	218
腹腔鏡下大腸癌手術 (ロボット手術含む)	170 (89%)	170 (85%)	198 (91%)

●2021年研究報告

《教室内》

- ・「肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡手術成績の検証」：腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量の効果を明らかにすることを目的とする。岩手医学会雑誌掲載。(学位論文 高清水清治)
- ・「腹腔鏡補助下及びロボット支援下直腸切除術の learning curve 形成期における難易度因子の検討」：腹腔鏡手術とロボット手術の手術難易度予測因子を解析し、learning curve 形成期に経験すべき症例を明らかにすることを目的とする。岩手医学会雑誌掲載。(学位論文 中村侑哉)
- ・「ctDNA モニタリングにおける大腸癌治療効果判定基準の検証」：症例集積中。(八重樫瑞典)
- ・「Frequent post-operative monitoring of colorectal cancer using individualised ctDNA validated by multiregional molecular profiling」：British Journal of Cancer (BJC) 掲載。(八重樫瑞典)
- ・「A novel difficulty scoring system for laparoscopic colorectal surgery for appropriate case selection according to mastery.」：海外 journal 投稿中(大学院 4 年 有吉佑)
- ・「Feasibility of reduction of computed tomography

scans during postoperative surveillance in patients with colorectal cancer by circulating tumor DNA test using individually designed digital PCR」：海外 journal 投稿中(大学院 4 年 佐々木智子)

《他施設共同》

- ・JCOG1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験(ENCORE Trial)」：症例集積終了
- ・JCOG1805試験「再発リスク因子を有する Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第III相比較試験」：症例集積中
- ・「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」：症例集積中

●今後の課題

▶臨床面

- ・ロボット支援下直腸癌手術の適応拡大と後進の指導

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・Web 下での腹腔鏡手術の技術指導法の探索

▶研究面

- ・海外ジャーナルへの研究成果報告(一人一編)
- ・大学院生への研究・学位指導

肝胆膵 内分泌代謝外科チーム

STAFF: 新田浩幸、片桐弘勝、菅野将史
梅邑 晃、武田大樹、天野 怜

内丸メディカルセンター
木曜/8時30分～12時30分
(新田教授、天野助教)
金曜/8時30分～12時30分 (菅野助教)

矢巾
火曜/10時30分～12時30分
(新田教授、菅野助教、梅邑講師)
木曜/8時30分～12時30分 (片桐講師)
金曜/8時30分～12時30分 (武田助教)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植(生体・脳死)など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。また、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術、体尾部切除術も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて130例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前放射線化学療法および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

2021年 診療・研究状況報告

●手術数：208例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除(肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く)95%、膵切除13%

●2021年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	26例
転移性肝癌	28例
肝内胆管癌	3例
胆管癌	23例 (肝門部5例、肝外18例)
胆嚢癌	7例
乳頭部癌	5例
膵癌 (IPMC含む)	45例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	38例
----------------------	-----

▶その他

副腎腫瘍など	33例
--------	-----

《術式別》

脳死肝移植	0例
生体肝移植	6例
肝切除	68例
PpPD	48例
膵体尾部切除	16例
膵全摘	4例
審査腹腔鏡	6例
胆管切除	1例
胆石、胆嚢良性疾患手術	16例
肝嚢胞天蓋切除	1例
副腎摘出	1例
後腹膜腫瘍摘出	5例
非切除	4例
その他	27例

《年次推移》

	2019	2020	2021
肝細胞癌	34	38	26
肝内胆管癌	3	6	3
転移性肝癌	34	32	28
胆管癌	20	25	23
胆嚢癌	3	5	7
乳頭部癌	2	5	5
膵癌	24	33	45
脳死肝移植	2	2	0
生体肝移植	8	8	6

●2021年研究報告

▶腹腔鏡下肝切除術

・安全に行うための手術手技(右葉切除における前方アプローチ、肝硬変症例における clamp-crushing 法の手技など)を報告した。

・肝細胞癌、転移性肝癌に対して再肝切除術を行うことは比較的多い。そこで、再肝切除例における腹腔鏡下肝切除の有用性を検討し報告した。

・患者の高齢化が進んでいる中で、80歳以上の超高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性について検討し報告した。

▶腹腔鏡下ドナー肝切除術

・腹腔鏡下ドナー肝切除術は新しい術式である。当院では腹腔鏡補助下から導入し、完全腹腔鏡に移行した。その成績を検討し報告した。

・腹腔鏡下ドナー肝切除術は胆道造影の手技が煩雑である。その問題を解決する手段として ICG 蛍光イメージングを用いた方法を考案し報告した。

- ・腹腔鏡下手術の動作制限を克服するために、グリソン一括処理法および肝実質切離後に動門脈を確保する手術手技を確立し報告した。

▶肝移植

- ・当院では2007年から生体肝移植を、2012年から脳死肝移植を導入し、合計135例を経験した。当院での肝移植の現況について検討し報告した。

内分泌代謝外科

専門外来 水曜 8時30分～12時

診療では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科手術を担当しています。主な研究課題は、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、閉塞性睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連健康障害に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序の解明です。当チームにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は96%で、特にreduced port surgeryを中心とした手術を行っています。

2021年のニュース

- 3月▶第41回日本肥満学会・第38回日本肥満症治療学会学術集会において、日本人肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関するコンセンサスステートメントを発表(日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会3学会合同委員会委員長)(佐々木 章)
- 3月▶日本肥満症治療学会 川村賞受賞(佐々木 章)
- 3月▶第38回日本肥満症治療学会 学会賞受賞(栄養部, 宇夫方直子)
- 4月▶講師昇任(梅邑 晃)
- 10月▶令和3年度圭陵会 学術賞受賞(二階春香)

2021年 診療・研究状況報告

- 入院数：173例
- 手術数：110例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	23
食道アカラシア	腹腔鏡下 Heller-Dor 手術	1
脾臓疾患	腔鏡下脾臓摘出術+胆嚢摘出術	1
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	4
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	1
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	2
	頸部切開甲状腺片葉切除術	3
副甲状腺疾患	頸部切開副甲状腺切除術	2
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術	18
鼠経ヘルニア	腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術(両側4例)	51
	開創鼠経ヘルニア修復術	4

《年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年
高度肥満症	6	16	23
鼠経ヘルニア	41	33	55

●2021年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：データ解析中
- ・高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術後の

- ・リピドミクス解析(2021年度岩手県地域医療研究事業)：データ解析中
- ・日本人高度肥満症患者におけるNASH肝線維化の予測スコアリングシステムに関する研究：Surgery Today 2021;51(9):1513-20.
- ・高度肥満NASH患者における耐糖能異常との関連に関する研究：Sci Rep 2021;11(1):15392.
- ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果に関する研究：J Diabetes Investig 2022;doi:10.1111/jdi.13755.online ahead of print.

《全国規模》

▶獲得研究費

- ・高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム(2019-2021年度科研費基盤研究C)：データ解析中
- ・高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序(2020-2022年度科研費基盤研究C)：データ解析中
- ・減量・代謝改善手術前後における非アルコール性脂肪性肝炎・2型糖尿病患者の脂肪酸代謝の変化(2021年度田辺三菱製薬株式会社奨学寄附金研究)(2021年度大鵬薬品奨学寄附金研究)：Biomedicines(2022,10(2):453)

乳腺チーム

STAFF: 小松英明、石田和茂、天野 総
川岸涼子(関連病院出向中)
松井雄介(関連病院出向中)、橋元麻生(大学院生)

矢巾専門外来
火・水曜
8時30分～17時
(再来のみ)

内丸専門外来
木曜 8時30分～12時
(紹介、新患のみ)



乳腺チームは、長らく小松、石田の二名の常勤スタッフと、若手医師のローテーター1名による3名体制で診療に当たっていましたが、2021年10月より、天野総先生が新たに3人目の常勤スタッフとして加わりました。また、毎週水曜日は県立二戸病院より松井雄介先生が、また火曜日は大学院生の橋元麻生先生に外来診療の応援を頂いております。それぞれの先生方、そして派遣を頂いている県立二戸病院、病理学講座の先生方には、大変感謝申し上げます。現在の乳腺診療は多岐に渡っており、様々な診療科、他職種との連携が不可欠です。病棟、外来化学療法室、乳房再建、HBOC、そして、順天堂大学乳腺科の斉藤光江教授の御高配の下、順天堂大学、順天堂大学浦安病院、順天堂大学静岡病院、順天堂練馬病院、鳥取大学、亀田総合病院とICTをつないで症例検討会も隔月で継続中です。HBOCについては東北初のJOHBOC（日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構）認定の「遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設」であり、岩手県内だけではなく、他県からの問い合わせも多くなってまいりました。今後HBOCに関して、東北地方の診療をリードするべく、関係各科との連携を強化してまいります。

研究面ではJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループ、また米国の臨床試験グループのNRG Oncology、さらには開発治験にも積極的に参加し、患者さんに最新、最良の医療を提供するよう、日々精進しております。同門の先生方には一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

2021年のニュース

- 3月 ▶ 第18回日本乳癌学会東北地方会 web 発表(小松、石田、橋元)
17th St.Gallen International Breast Cancer Conference web 発表(小松)
- 4月 ▶ 石田先生、乳腺専門医合格!!
第121回日本外科学会総会 web 発表(小松、石田)
- 6月 ▶ 2021 MASCC/ISOO Annual Meeting web 発表(小松)
- 7月 ▶ 第29回日本乳癌学会学術総会 web 発表(小松、石田)
- 10月 ▶ 2021いわてピンクリボンフェスタ web 講演(小松)

2021年 診療・研究状況報告

● 総手術数：127例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	60例
	胸筋温存乳房切除術	53例
	胸筋温存乳房切除術 + 組織拡張器留置	5例
	乳頭乳輪温存乳腺全摘術 + 組織拡張器留置	3例
	胸筋温存乳房切除術 + DIEP flap	3例
計		124例
その他(良性、追加切除等)		3例
合計		127例

● 2021年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella 研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローゼングループ、弾性ストッキングの nab-paclitaxel による末梢神経障害予防効果の検討(Phase II、SPOT trial)
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017(PRIM-BC)「薬物療法非抵抗性 Stage IV 乳癌に対する原発巣の意義(原発巣切除なし vs あり)に関するランダム化比較試験」
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204(INSPIRE)「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテ

ンシブフォローの比較第III相試験」

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1505 (LORETTA trial) 「エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除+内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1607 (HERB TEA study) 「高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1806 (AMATERAS-BC) 「薬物療法により臨床的完全奏効がえられたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的私見」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR) 「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (N-SAS BC 06)」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR) 「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験 (N-SAS BC 07)」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-C05 (B-SHARE) 「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M04 (BOOSTER) 「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ+パクリタキセル療法の治療最適化研究-多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-20 (Neo-Peaks) 医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討(ランダム化第II相試験)」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M05 (PRECIOUS) 「HER2陽性の進行・再発乳

癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第III相臨床研究-ペルツズマブ再投与試験-

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M06 (EMRALD) 「HER2陽性の進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法を比較する第III相臨床研究-
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-C08 (ATTRIBUTE) 「トリプルネガティブ乳癌患者に対するアテゾリズマブの前向き観察研究」
- ・OlympiA 試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」
- ・「HER2陽性の進行性/再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ(ペルツズマブに対し盲検)の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験(MARIANNE試験)」
- ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法+トラスツズマブ+プラセボと化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験(APHINITY試験)」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」

●今後の研究課題

- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・転移再発乳癌の化学療法における高密度ctDNAモニタリングによる逐次評価
- ・新たな乳腺外科医育成

チーム紹介

小児外科チーム

STAFF: 小林めぐみ、鈴木 信、田金 恵(大学院生)
藤村 匠(非常勤)、平井みさ子(非常勤、2021年10月迄)
矢内俊裕(非常勤、2021年3月迄)

一般小児外科外来
水曜全日

専門外来
第3水曜午後
小児ストーマ、
スキンケア外来



小児外科関連の教室人事は、2021年1月1日に鈴木が群馬大学小児外科より准教授として着任し、小児外科指導医不在の状況が解消されました。また、育休中だった小林君は2021年6月中旬より徐々に職場復帰し、現在、小林・鈴木の2名体制となっております。また、2021年6月までは2000年同様に肝胆膵・小児外科合同チームとして肝胆膵外科の先生方にマンパワー不足を補って頂きました。非常勤職については、指導医不在中の手術診療応援を引き受けていただいていた茨城県立こども病院第二医療局次長の矢内俊裕先生には2021年3月まで主に手術を担当していただきました。また、東京都立小児総合医療センター消化器科医長の平井みさ子先生には2021年10月まで気道疾患外来として外来を担当していただきました。平成19年岩手医大卒の国立埼玉病院小児外科部長の藤村匠先生には引き続き非常勤講師として外来（2021年3月まで）および手術を担当していただいております。

診療は、まだマンパワー不足から、紹介いただく関連の先生にはご迷惑をお掛けしておりますが、引き続き外来診療を水曜日に集約させて頂いております。今後、患者さまの利便性向上を目指し、なるべく早い時期に複数日での外来診療を開始したいと考えております。小児における外科診療の最後の砦として救急患児に24時間365日対応できる体制づくりを目指しております。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器（気管・肺など）・消化器（食道から肛門までの消化管・肝胆膵）・その他腹部臓器（腎臓・副腎・脾臓など）・皮膚軟部組織（皮膚・皮下組織・筋肉など）・泌尿生殖器（腎臓・尿管・膀胱・外陰部など）の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。2021年からは新生児も含め超緊急手術以外の待機的手術は内視鏡手術の適応とし、整容性を重視した治療に取り組んでいます。鼠径ヘルニア手術を除く内視鏡手術は2020年の19例に対して2021年は47例と増加しております。また、体重2000g以上の新生児に対する内視鏡手術を開始し、2021年は4例に施行しました。

すべての患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでおります。関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

2021年のニュース

- 1月 ▶ 鈴木信(群馬大学、平12年群馬大卒)が群馬大学小児外科より着任
指導医不在が解消され日本小児外科学会認定施設再認定
- 3月 ▶ 矢内俊裕先生(茨城県立こども病院外科部長)による手術指導終了
- 6月 ▶ 小林めぐみ先生出産後復帰
- 10月 ▶ 平井みさ子先生(東京都立)による外来指導終了
- 12月 ▶ 第23回日本内視鏡外科学会 カールストルツ賞受賞(鈴木 信)

2021年 診療・研究状況報告

- 手術数：225件(うち内視鏡手術48件)
- 入院数：212名(うち小児科併診56名)

《手術症例内訳》 重複あり

疾患	症例数(例)
新生児疾患	23
悪性腫瘍(生検を含む)	2
鼠径ヘルニア類縁疾患	61
消化器・肝胆膵疾患	68
呼吸器疾患	20
泌尿生殖器疾患	27
全麻下検査	9

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新生児	20	14	11	23	23
非新生児	232	191	155	182	202
計	252	205	166	205	225

● 2021年研究報告

- ・ JNBSG 日本神経芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・ JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・ JWITS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・ JCCG 日本小児がん研究グループ
- ・ JCCG 日本小児がん研究グループ

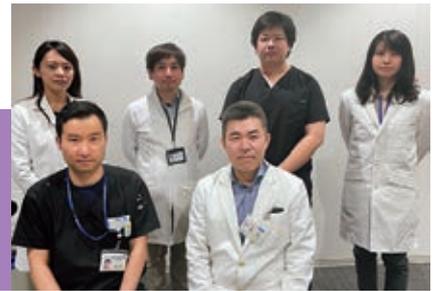
リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF: 岩谷 岳

藤澤良介・佐々木智子・伊藤浩平(大学院生)

研究進捗会
月曜18時30分～
(医療開発部門と合同)

抄読会
木曜18時30分～
(医療開発部門と合同)



外科研究室では現在、医歯薬総合研究所医療開発研究部門の西塚哲教授と共同でがんゲノム解析や血液検体からの癌の病勢診断（リキッドバイオプシー）に関する研究を中心に行っております。当院独自の腫瘍細胞由来DNA（ctDNA）のモニタリング法について検討を重ね、2021年は、食道癌（岩谷, *Gastroenterology*）、（藤澤良介, *Carcinogenesis*）、大腸癌（八重樫先生, *British Journal of Cancer*）についての報告をすることができました。現在、ctDNA検査を実際にどのように臨床現場で活用できるか検討を進めております。また昨年10月から大学院生の伊藤浩平先生が研究室常駐となり精力的に研究を行っています。

2021年のニュース

- 4月 ▶ 日本外科学会にて発表(藤澤)
藤澤先生、大学院修了
食道がん患者会、初の全国集会で特別講演(岩谷)
共同研究者：西塚哲教授、株式会社クオントディテクト設立
- 7月 ▶ 3年生研究室配属(3名)研究開始
- 10月 ▶ 伊藤浩平先生、リサーチグループに配属
- 12月 ▶ 3年生研究室配属：「神経膠腫におけるMGMTメチル化修飾と再発の関連に関する研究」に関し研究発表(本年は、脳腫瘍検体を用いて新しい実験を試みました)

2021年 診療・研究状況報告

●2021年研究報告

- ・ 血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発(岩谷)
- ・ 大腸癌・胃癌の原発巣heterogeneityがctDNA診断に及ぼす影響(八重樫、佐々木教之、千葉)
- ・ ctDNAの早期変動を用いた食道癌化学療法の効果予測(藤澤)
- ・ 食道癌治療抵抗性とNFE2L2遺伝子変異に関する検討(佐々木教之、秋山、岩谷)
- ・ 食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(佐々木教之)
- ・ ctDNAを用いた大腸癌術後サーベイランス法の開発(大塚、佐々木智子)
- ・ 肝芽腫発生に関わる遺伝子異常の解析(有末)

●今後の研究課題

各臓器グループのctDNA研究で早期再発・増悪予測、正確な治療効果判定、無再発状態の確認などで臨床的有用性を発揮する可能性を報告しました。今後は前向き研究により臨床現場でのctDNA検査の有用性を示していきたいと思います。また、がんゲノム医療による遺伝子パネル検査は当院でも100例を超え、3割は外科患者です。有効な治療につながる率はまだ低いですが、患者さんの診療に少しでも役立つよう臨床・研究を進めていきたいと思っています。

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座》
救急医学分野

専門外来

24時間体制

STAFF：小鹿雅博、石田 馨、佐藤寿穂、外科応援医師



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2021年 診療・研究状況報告

●入院数：132例

●手術数：60例

《内訳》

疾患（内因性）	症例数
上部消化管穿孔	1例
絞扼性腸閉塞	9例
下部消化管穿孔	4例
虫垂炎	6例
急性虚血性疾患	5例
嵌頓ヘルニア	3例
その他	25例

疾患（外因性）	症例数
管腔臓器損傷	2例
その他	5例

	症例数
Open Abdominal Management	8例

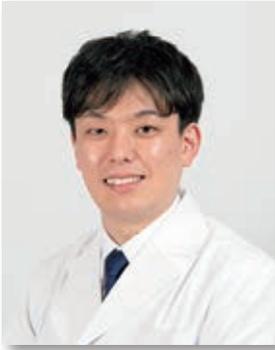
●2021年研究報告

《グループ内》

- ・ Open Abdominal Management の検討
- ・ 遅延吻合と早期吻合の病態に関する検討
- ・ 絞扼性腸閉塞に対する治療と管理
- ・ 虫垂炎の治療選択と管理

外科学講座

石井 勇吾



出身大学：昭和大学

大学卒業年：2019年

出身地：福島県

座右の銘：不撓不屈

岩手医科大学外科に入った理由：

研修医の時に岩手医科大学の外科を見学した際に美しい手術によって患者様が病気を克服し元気になっていく姿に感銘を受け志しました。

至らない点が多いとは思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

外科学講座

奥津 美里



出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2019年

出身地：岩手県

座右の銘：力必達

岩手医科大学外科に入った理由：

私は研修の最後まで何科に進もうか悩みましたが、諸先生方の背中をみて、自分も手術で命を救えるようになりたいと思い、外科医の道を選びました。

早く一人前に外科になれるよう精進いたします。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

◆入院患者分類

疾患	例数	
顔面・頸部	5	
甲状腺・上皮小体	良性	9
	悪性	4
乳腺	良性	1
	悪性	158
食道	良性	2
	悪性	318
胃・十二指腸	良性	1
	悪性	234
大腸・肛門	良性	43
	悪性	271
肝・胆・膵・脾	良性	110
	悪性	508
腸閉塞	37	
虫垂炎	11	
ヘルニア・腹壁・腹膜	83	
副腎	6	
病的肥満	99	
小児	152	
その他	155	
入院者合計	2207	

◆関連病院手術件数

	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	984	943	77	521	11	180	0	18	72	29	22	231
盛岡市立病院	750	679	91	482	10	6	0	0	30	15	11	117
盛岡赤十字病院	595	506	94	364	6	20	3	0	28	3	9	111
八戸赤十字病院	463	411	60	137	4	51	0	0	32	1	3	88
能代厚生医療センター	399	329	46	295	1	18	0	0	41	11	10	77
県立久慈病院	373	312	74	171	0	16	0	0	7	5	4	71
県立二戸病院	361	314	47	150	0	35	0	0	15	5	4	63
県立宮古病院	312	266	39	117	2	26	0	1	25	5	0	82
県立釜石病院	230	188	11	93	10	7	1	0	14	1	0	40
県立千厩病院	223	207	42	135	3	16	0	0	6	6	1	24
かつの厚生病院	181	153	24	122	1	5	0	0	8	3	1	32
北上済生会病院	154	125	5	82	3	0	0	0	8	0	0	17
県立江刺病院	38	32	0	16	1	1	0	0	1	0	0	3

◆関連病院発表業績件数

	英文	和文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
盛岡市立病院	4	0	0	1	0	0
函館五稜郭病院	2	2	0	10	1	6
県立千厩病院	1	3	0	4	0	2
県立宮古病院	0	1	0	3	0	0
県立久慈病院	0	1	0	3	0	0
県立釜石病院	0	1	0	1	0	2
能代厚生医療センター	0	0	0	5	0	0
県立二戸病院	0	0	0	4	0	0
盛岡赤十字病院	0	0	0	1	0	1
八戸赤十字病院	0	0	0	1	0	0
かつの厚生病院	0	0	0	0	0	0
北上済生会病院	0	0	0	0	0	0
県立江刺病院	0	0	0	0	0	0

◆手術件数

	件数
全身麻酔数	952
局所麻酔数	60
その他	6
全手術数	1018

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2023. 12	指定	岩手県立釜石病院	～ 2024. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2023. 12	指定	岩手県立千厩病院	～ 2024. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2023. 12	関連	能代厚生医療センター	～ 2022. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2024. 12	関連	八戸赤十字病院	～ 2022. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2023. 12	関連	かづの厚生病院	～ 2022. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2022. 12	関連	岩手県立江刺病院	～ 2022. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2024. 12	関連	北上済生会病院	～ 2022. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2023. 12			

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2024	指定	岩手県立中部病院	～ 2024
指定	函館五稜郭病院	～ 2023	指定	盛岡市立病院	～ 2024
指定	盛岡赤十字病院	～ 2024	指定	岩手県立宮古病院	～ 2022
指定	岩手県立久慈病院	～ 2024	指定	県立二戸病院	～ 2024

日本肥満症治療学会 第2回川村賞受賞 メタボリックサージェリーの普及と患者・内科治療への還元

佐々木 章

この度、日本肥満症治療学会の故川村功先生の名を冠した川村賞の榮譽に浴しました。本学会前理事長の白井厚治先生、理事長の龍野一郎先生をはじめ、ご指導いただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

2010年、第2回いわて肥満症治療セミナーに川村功先生をお招きし、高度肥満症に対する外科治療について、ご講演を賜りました。情報交換会では、川村先生から「若い外科医が肥満外科治療に興味を持ち、手術を行うことは嬉しい」とのお言葉をいただいたことを今でも思い出します。2017年には、第35回日本肥満症治療学会学術集会を盛岡で開催し、過去最多の参加者数で盛会裏に終えることができました。この3年後にCOVID-19感染症が世界的大流行となり、学会の開催形式もオンライン開催が主体になるとは誰も考えていなかったと思います。前理事長の白井厚治先生から学術集会会長にご指名いただいたことは、「運」と「タイミング」を感じます。

岩手医科大学では、多くの領域で内視鏡外科手術を積極的に実施しており、重篤な合併症も認めていませんでしたが、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (LSG) の2例目に術後出血・遅発性縫合不全という合併症を経験し、肥満症外科手術の危険性を認識することになりました。わが国における肥満症外科手術の安全性の確保と、チーム医療による質の高い患者ケアを目標とした本学会の果たすべき役割は大きいと考えます。2016年に肥満症外科手術認定制委員会委員長となり、認定施設の審査基準の見直しを行ってきました。高度肥満症の外科治療で特に重要な精神的・心理的サポート体制を認定施設の申請要件に入れ、チーム医療の構築と質の高い肥満症外科手術を目指して、2020年からは学会発表、論文業績と教育セミナー受講を加えています。

わが国の高度肥満症に対する外科治療は、本学会ガイドライン2013年版と、2014年度に保険収載されたLSGの手術適応基準に基づいて行われています。手術適応は、内科治療によっても十分な効果が得られないBMI35kg/m²以上で、

糖尿病、高血圧、脂質異常症、又は睡眠時無呼吸症候群のうち

1つ以上を合併した高度肥満症です。2020年度の診療報酬改定では、BMIが32.5~34.9kg/m²でHbA1cが8.4%以上の糖尿病患者に、LSGの算定が付加され



ました。しかし、この基準は、臨床的に手術適応が拡大されたとはいえない状況で、海外の基準と大きくかけ離れていました。そこで、日本人の肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する3学会合同委員会（日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会）が設置され、委員長を務めさせていただきました。外科医だけでなく、内科医とともに作成された本コンセンサスステートメントの意義は大きいと思います。

本コンセンサスステートメントにより、減量・代謝改善手術件数の増加が予測され、わが国における安全で有効な減量・代謝改善手術の普及には、手術患者のレジストリー、認定施設の拡充やチーム医療育成のための学会主導セミナーなどが重要と考えます。内科志望者が外科医となった時、心がけてきたことは安全で低侵襲な手術を患者に提供することです。糖尿病などの内科疾患が外科治療の選択肢となり、内科医に戻れたと思います。今後も内科医の視点を持った外科医として、減量・代謝改善手術から得られたエビデンスを患者・内科治療へ還元できるよう教育・研究・診療に誠心誠意努力してまいります。

へき地医療貢献者表彰を受賞して

坂下 伸夫 (岩手県立釜石病院)

この度、令和3年度へき地医療貢献者表彰を受賞いたしましたのでこの場をお借りしてご報告いたします。

この表彰は毎年、全国自治体病院協議会が行っているもので、医師で15年以上にわたって自治体立の病院または診療所に勤務し、山村・離島等医療に恵まれないへき地等の地域の医療確保に献身的に尽くしている者を表彰するものです。今年で41回を数え、今回選出された13名を加え、これまでに563名が表彰されています。

私は自治医科大学を卒業後、当時の岩手医科大学第一外科学講座に入局させていただき、岩手県立宮古病院を皮切りに37年間主に県立病院で外科医として働いてきました。特別なことを成し遂げたわけではありませんが、豪雪地帯の国民健康保険沢内病院や医師の少ない県北・沿岸部を中心に勤務してきたことがへき地に対する貢献として認められたということであり大変榮譽に感じております。振り返ればあつという間でありましたがそれなりに苦勞もあり、それと同じくらい喜びもあったと思います。「医療の谷間に火を灯す」という母校の精神を少しでも体現でき、岩手県の医療に自分なりの貢献ができたことを誇りに感じます。

また、今回の表彰は当然のことながら私個人のものでは

なく、同僚・先輩・後輩の先生、患者さんや多くのメディカルスタッフの方々のおかげであると考えております。特に、これまでご指導いただいた先生方や佐々木章教授を始めご協力ご支援いただいている外科学講座の皆様には心から感謝致しております。

今回の受賞を励みとして、今後も精進し地域医療に努めてまいりますので、これまで同様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



令和3年度救急功労者表彰 総務大臣賞を受賞して

川村 秀司 (岩手県立江刺病院)

この度、令和3年度救急功労者表彰総務大臣賞を賜りました。とても光栄に思うと同時に、私を評価し推薦して頂きました各関係者に厚く御礼申し上げます。今年度個人受賞者は私を含め全国で12名(当県では5人目)であり、名だたる病院の院長、救急センター長の名が連ねている中で地方の一中小病院の医師が頂いて良いものか大変恐縮しております。

推薦内容は、「平成11年に岩手県立江刺病院へ着任以来、救急隊員の資質向上を目的とした各種実習において積極的な指導をされている。また、平成15年の胆江地域メディカルコントロール協議会設立時から、地域医療でのメディカルコントロールの重要性を認識し、積極的に助言、指導に

取り組まれ、平成27年4月からは同協議会の会長として、さらに岩手県救急業務高度化推進協議会の委員として救急業務の高度化に尽力されている。」です。

当院勤務23年、長い間同じ



地で診療を行っていたことや、令和2年11月に厚生労働省「在宅医療・救急医療連携にかかる調査・セミナー事業」で岩手県と沖縄県がモデル地区として選ばれ、県内においては盛岡・宮古・釜石・奥州が選ばれそれに参加させて頂いたこと、さらに丁度同時期にACPを絡めた「人生の最終段階にある傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方」についても胆江地域メディカルコントロール協議会で検討し、地域への啓発を行っていたことも評価していただくに繋がったものと思われまます。

今後は、以前より懸念されていた当圏域での産科医不足がいよいよ今年3月末でお産施設ゼロとなるため、奥州金ヶ崎の周産期医療体制についての話し合いがようやく1月

に本格的に動き出したところです。直近の目標は、これからの少子高齢化の中、安心して子供を生み育てられるような地域とすべく奥州医師会地域医療・救急災害担当理事、メディカルコントロール協議会会長として周産期医療体制の確立にも力を注ぎたいと思っております。

今回は個人での受賞ではありますが、長年共に活動して頂いた関係者の皆様との積み重ねで頂いた賞と思っております。定年まであと4年、一外科医としても引き続き全力で地域医療を支えていきたいと思っております。診療応援をはじめ、私を支えて頂きました諸関係者の方々に改めて感謝申し上げますと共に、これからも引き続き宜しくお願いいたします。

2020年度日本クリニカルパス学会 論文奨励賞を受賞して

須藤隆之（盛岡市立病院）

この度は、2020年度日本クリニカルパス学会の論文奨励賞を受賞させて頂きました。

本来は、2020年に選出されましたので2020年の第21回日本クリニカルパス学会学術集会（岐阜県で開催予定）にて受賞講演と表彰式が行われる予定でありました。しかし、新型コロナウイルスの影響で2020年の日本クリニカルパス学会学術集会が中止となってしまう、論文奨励賞の受賞も延期となりました。2021年の第21回日本クリニカルパス学会学術集会は、現地開催（山形県）の予定でありましたが、新型コロナウイルスの影響で現地開催が困難となり、オンライン開催に変更となりました。当院の会議室でZoomを用いて受賞講演と表彰式の前撮りを行いました。無観客でパソコンの前でマイク付きイヤホンを使って発表を行いました。発表後に行われた表彰式も、無観客で学会より送られてきた賞状（Fig. 1）をパソコンのカメラに向けながら挨拶を行いました。以前に日本内視鏡外科学会の第19回出月賞受賞の際には、第29回日本内視鏡外科学会総会（2016年）のパシフィコ横浜において評議員会の壇上で日本内視鏡外科学会理事長、会長の北里大学外科教授渡邊昌彦先生より賞状とクリスタルの記念品を授与され挨拶と記念撮影を行いました。その記憶が強くありましたので今回は、非常に寂しい授賞式でありました。出月賞受賞の際には、評議員として参加されていた梅邑晃先生に写真撮影頂きましたが、今回はオンラインでしたので、表彰式の前撮りの際の市立病院会議室での写真（Fig. 2）と学会会期中のZoom

での画像（Fig. 3）を添付いたします。

今回の受賞論文は、「クリニカルパスを用いた大腸切除術後早期経口摂取開始の効果、患者満足度の前向き比較研究（日本クリニカルパス学会誌、第21巻第2号掲載）」であります。

内容は「Enhanced recovery after surgery (ERAS) を用いた周術期管理が注目されており、大腸切除術後早期経口摂取開始の効果、患者満足度を前向きに比較検討した。術後早期の経口摂取開始は、術後早期回復に寄与し患者満足度も高い周術期管理であると思われた。」という内容です。

当院では、日本クリニカルパス学会のパス指導者である沢内節子先生が下記論文にて2013年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞を受賞しております。「当科における開腹下と腹腔鏡補助下大腸癌手術症例の比較検討（日本クリニカルパス学会誌、第15巻第1号掲載）」。この論文の内容は、腹腔鏡補助下手術において 離床、腸管蠕動の回復が良好なことより、食事開始時期を早めることが可能と思われた。退院可能日の分析により、退院日のアウトカム設定を短縮することが可能と思われた。バリエーション分析により、従来、経験論的に常識として踏襲されてきた術後管理法の問題点を明確にすることができ、より安全で効率的な周術期管理が可能になると思われた。という内容です。この論文結果より、大腸切除術後において経口摂取開始時期を早めた前向き臨床試験を行ったのが本論文作成の経緯であります。

現在、本論文の結果を踏まえて更なる周術期管理の前向き臨床試験を行っておりますので結果が出来次第ご報告させて頂きたいと思っております。

欧米の雑誌あるいは商業誌と違って日本の学会は、学会発表、論文の筆頭著者のために、学会に入会しなければなりません。入会したからには、学会誌に論文を掲載して入会した足跡を残そうという強迫観念に似た感覚を持っておりました。大学院生時代に学会発表は、口から言葉が出たら直ぐに消えてなくなるけど、論文は永久に残るから、論文を書きなさいと指導されたことが今でも強く心に残っております。そのお陰で私がこれまで、日本の学会で共著を除く筆頭著者として日本外科学会雑誌に1編、日本消化器外科学会雑誌7編、日本臨床外科学会雑誌2編、日本内視鏡外科学会雑誌6編、日本外科系連合学会誌2編、日本腹部救急医学会雑誌1編、日本外科感染症学会雑誌1編、日本クリニカルパス学会誌1編、日本サイトメトリー学会1編を掲載いたしました。日本外科学会雑誌は、私の学位論文です。入局当時、学位は日本外科学会雑誌、ダメなら日本消化器外科学会雑誌に投稿するようにと指導されていたと記憶しております。現在、日本外科学会雑誌は原著を受

付しておらず、今となつては日本外科学会雑誌に掲載させて頂いた事は良い記念となりました。

2016年に、日本内視鏡外科学会の出月賞を受賞させて頂きました。それまでは、私が学会で表彰されるなど想像もしていませんでした。すべての学会に学会賞があるわけではありませんが、受賞が現実になってから、論文投稿の際には、学会賞の存在を意識するようになりました。

現在、学会賞の受賞を目指して手術術式に関する前向き臨床試験を進行しております、もし学会賞を受賞させていただいた際には、また本誌でご報告させて頂ければと思っております。

今年59歳になりました。定年まで後5年で何編書けるかわかりませんが、頑張りたいと思っております。

本内容は、本誌の関連病院だよりの盛岡市立病院の紹介で1月に投稿しておりましたが、3月に佐々木章教授より受賞内容を単独で掲載との依頼がありましたので内容が重複している部分がありますことをお詫びいたします。

最後になりましたが、今回の受賞を励みに、今後とも臨床に研究に全力を尽くす所存でございますので、皆様のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



Fig. 1 賞状



Fig. 2 市立病院会議室にて(表彰式)



Fig. 3 Zoomにて(表彰式)

日本内視鏡外科学会 カールストルツ賞を受賞して

鈴木 信

この度、第34回日本内視鏡外科学会総会（令和3年12月2日～4日：神戸市）におきまして、演題「年齢・膀胱容量が気膀胱下膀胱尿管新吻合術に与える影響」を発表し、大変名誉あるカールストルツ賞を受賞いたしました。カールストルツ賞は、日本内視鏡外科学会にて1999年から設けられた制度で、内視鏡外科手術の発展のために優れた研究成果を発表した会員に与えられる賞です。今回が第23回目で当教室からは中嶋潤先生、大塚幸喜先生、新田浩幸先生に次いで4人目の受賞となります。

本演題の膀胱尿管逆流症に対する気膀胱下膀胱尿管新吻合術は診療ガイドラインに開放手術と同等の手術成績が記載されていますが、低膀胱容量でワーキングスペースが極端に狭くなる幼少児では技術的難易度および合併症が増すため術者の技量に応じて行うように記載されています。私は2012年より小児の膀胱尿管逆流症に対して本術式を第一選択とし、手術手技安定のための工夫・改良を加えることで、安全性を保ちつつ、全年齢に本術式を施行してきました。今回の検討では本術式における主要手技毎の所要時間比較で年齢による所要時間の相違は認めず、年齢や体格は手術時間や合併症に影響を与えていないことが分かりました。このことから、年少児においても膀胱容量を最大限に

活用し、気膀胱を維持するためのポート挿入や膀胱固定の工夫を行い、狭小空間における鉗子操作の習熟を図ることで、年少児においても遜色なく本術式が施行可能であることを報告しました。

昨年に岩手医科大学へ赴任後も本術式を含めた年少児への内視鏡手術をスムーズに導入できるように尽力していただいた佐々木章教授をはじめとする当講座の先生および手術室スタッフの皆様に、この場を借りまして心より御礼申し上げます。



外科侵襲とサイトカイン研究会 会長賞を受賞して

片桐 弘勝

この度、第27回外科侵襲とサイトカイン研究会から令和3年度会長賞という大変名誉ある賞を「肝臓手術におけるMuse細胞動態とその意義」の演題で受賞しました。

同研究会は、外科侵襲に関する病態についてサイトカインを中心に検討する会として発足し、近年ではサイトカインに留まらず様々な指標やバイオマーカーを中心に多様な研究を発信する歴史と伝統ある会です。

当教室では、マウス肝切除後に移植したMuse細胞が損傷部特異的に集積し肝組織を構成する各細胞に分化することを報告しておりました。今回の研究は、ヒト肝臓手術におけるMuse細胞動態を明らかにし、Muse細胞と侵襲度お

よび肝再生との関連について検証したものです。この仕事は、主に外科侵襲学を専攻する大学院生の菊地晃司先生の研究であり、Muse細胞研究の発展に寄与するもの



と期待しております。本邦の外科侵襲学の礎を築いた先人が多く名を連ねる会において、このような名誉ある賞を受賞したことに大きな意義を感じております。この場におい

て、研究指導頂いています消化器内科肝臓分野の鈴木悠地先生、このような貴重な機会を与えて下さった佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。

2021年度巖刀会学術賞を受賞して

八重樫 瑞典

この度は栄えある巖刀会学術賞を賜りましたこと、皆様には深く感謝申し上げます。受賞論文の「Frequent post-operative monitoring of colorectal cancer using individualised ctDNA validated by multiregional molecular profiling」は2021年の春に British Journal of Cancer に掲載されました。

本研究は近年、がん研究の中で飛躍的に研究が進んでいる血中循環腫瘍DNA (circulating tumor DNA : ctDNA) を用いた臨床研究です。ctDNAは個々の症例のがん細胞に由来するため、それぞれの患者専用の血液バイオマーカーとして注目されています。ctDNAの活用法は①遺伝子パネル検査のようにがんの遺伝子異常に対応する治療薬の検索や、②CEAのように腫瘍マーカーとして体内腫瘍動態をモニタリングすることです。さまざまながん種でctDNAを用いた診断の有用性を期待する報告がされていますが、その実用性に関する検証は少なく、いまだ日常検査には至っておりません。日常診療に応用しにくい理由は、1) ctDNAの検査法である次世代シーケンサー (next generation sequencer : NGS) は非常に高額であり検査結果が出るまでに時間がかかり頻回に検査を行えないこと、2) 同一腫瘍内の不均一性 (heterogeneity) がありNGSで同定された多数の遺伝子変異の中からモニタリングすべきctDNAの選択が困難であることなどが挙げられます。

本研究では、Stage3-4の大腸癌12症例を対象に原発巣の3カ所の異なる腫瘍組織をNGSで解析し、安価で検査が頻回に行えるdigital PCRを用いての血漿中のctDNAをモニタリングしました。NGSによって同定された多数の遺伝子変異の中からPCRによる変異頻度の高い遺伝子変異が体内の腫瘍動態を最も反映する遺伝子変異であることを証明しheterogeneityの問題を解決、またdigital PCRを用いて頻回の検査を可能にしました。実際に血中ctDNAのモニタリ

ング結果より「再発・増大の早期予測」、「治療効果の正確な判定」、「無再発状態の確認」が証明され、ctDNAが新たな腫瘍マーカーとして臨床応用できることが示唆されました。今後より多くの患者さんに対して臨床応用できるように研究を進めて参りたいと思います。



本研究は2015年より外科リサーチチームによるctDNA研究グループが立ち上がったのがきっかけでした。本研究を進めるにあたり、研究計画書の作成から院内の検査システムの立ち上げ、そして実験における技術的サポートを頂きましたこと、リサーチグループの先生方や医歯薬総合研究所 医療開発部門スタッフの皆様にご感謝申し上げます。また本研究は国内外との共同研究 (理化学研究所、テキサス大学MD Andersonがんセンター、ジョージメイソン大学、オレゴン健康科学大学ナイトがんセンター) として行われました。岩谷岳先生、西塚哲教授には、本研究の立ち上げから論文作成に至るまで長期に渡り最後まで親身に指導いただきましたことは、私にとって今後の研究活動の基盤となるものになりました。佐々木章教授をはじめ、ご指導ご支援いただきましたすべての方々に深く感謝申し上げます。引き続き臨床・研究に精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しく御願いたします。

日本外科学会 令和3年度「若手外科医のための臨床研究助成 (JSS Young Researcher Award)」の獲得

八重樫 瑞典

この度、日本外科学会から令和3年若手外科医のための臨床研究助成 (JSS Young Researcher Award) を受賞しました。

研究課題名「Digital PCRによるctDNAモニタリングを用いた大腸癌遠隔転移切除症例の予後予測因子の検討」と題し、同年度に頂きました巖刀会学術賞の大腸癌におけるctDNA研究を基盤とした臨床研究になります。

大腸癌は遠隔転移症例でも転移巣切除により予後改善が得られるため、切除可能であれば積極的に切除を行うケースは多いですが、遠隔転移巣切除後の再々発は60%以上と

高率になります。大腸癌におけるctDNAの先行研究では切除後長期無再発となった遠隔転移症例のctDNAの特徴的な経過を辿る症例を数例経験しました。本研究では、転移巣切除後の再々発リスク因子や予後予測因子としてのctDNAによる層別化に基づいた臨床応用が可能かを検証していきます。岩手医科大学外科におけるctDNAの臨床研究結果は各臓器で報告され、今後さらに日常の臨床診療に生かされる研究に発展できるように邁進していきたいと思っております。数回の応募にあたり、厚いご指導と貴重な機会を与え下さった佐々木章教授に心より感謝申し上げます。

令和3年度圭陵会学術振興会学術賞を受賞して

二階 春香

この度は、令和3年度の圭陵会学術賞を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。本論文、Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on non-alcoholic steatohepatitis and liver fibrosis in Japanese patients with severe obesityは、Obesity Surgery 30巻7号2579-2587頁に掲載されました。非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) に対する減量代謝手術の臨床成績、術後の肝組織学的変化と肝線維化改善の予測因子を検討しました。2008年6月から2019年3月までに当院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (LSG) を施行した高度肥満症79名のうち術中肝生検を施行した68名を対象とし、NASHと診断された患者に対して術後6・12か月に超音波下肝生検を施行しました。

術中肝生検で68名中43名 (63%) がNASHと診断され、10名は脂肪化のみが消失し線維化は残存しているという特徴的な病理像を示し、これらは良好な術前減量により脂肪化が消失し、初診時にはNASHであったと推測されました。術後12か月でNASHの89%が改善しNASHの診断基準を満たしませんでした。肝組織学的所見では、脂肪化・炎症は術後6か月から有意な改善を認めましたが、肝線維化は術後12か月から有意な改善を認めました。肝線維化改善

の術前予測因子の検討では、単変量解析では初診時体重、HbA1cと血清インスリンで有意差を認めました。多変量解析では、HbA1cのみが独立した線維化改善の予測因子であり (p=0.004, odds比0.440、95%CI 0.229-0.842)、カットオフ値はHbA1c 8.1%でした。

本研究では、効果的な体重減少と代謝改善とともに、肝組織学的所見では脂肪化と炎症は術後早期に改善し、線維化はそれに続き改善することが示されました。外科治療は高い減量効果が維持でき、NASHの予後規定因子である肝線維化の改善が期待できます。線維化改善予測因子として初診時のHbA1cが最も重要であったことから、2型糖尿病に対しての効果が確立しているLSGは、NASHにも考慮される治療選択肢となる可能性を示すことができた意義のある論文と考えています。本論文に関しまして、佐々木章教授をはじめ、ご指導ご支援いただきました先生方に深く感謝申し上げます。今後とも診療・研究に邁進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



日本肥満症治療学会学術集会最優秀演題セッション 会長賞を受賞して

宇夫方 直子（栄養部 管理栄養士）

この度、第38回日本肥満症治療学会学術集会（2021年3月21日、オンライン開催）において、「日本肥満症治療学会最優秀演題セッション 会長賞」を受賞しました。演題は、「減量・代謝改善手術後の減量・代謝改善効果と腸内細菌叢の変化」で、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた高度肥満症患者において、減量良好群では腸内細菌叢のFirmicutes/Bacteroides比が低くなることを証明しました。同日には、肥満2型糖尿病患者に対する手術適応基準のコンセンサスステートメントが発表され、減量・代謝改善手術の対象患者数の増加が見込まれることから、内丸メディカルセンターでは肥満症外科治療センターを開設しました。今後も、栄養指導を通じて減量のサポートを行いながら、データの蓄積とエビデンスの還元に努めてまいります。

受賞にあたり、ご指導いただきました佐々木章教授、梅邑晃講師、ご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。



左から梅邑晃講師、宇夫方直子管理栄養士

肥満症外科治療センターのご紹介

佐々木 章

岩手医科大学内丸メディカルセンター 肥満症外科治療センター センター長

肥満は、内臓脂肪の蓄積によりインスリン抵抗性を獲得し、糖尿病、高脂血症や高血圧などの肥満関連健康障害を伴いやすいことが報告されています。現在、世界中で肥満者が増加するとともに、肥満関連健康障害の重篤化、医療費の増大やオベシティ・スティグマ（肥満に関する社会的偏見・差別や自己スティグマ）などが問題となっています。肥満症の治療は単に体重減少が目的ではなく、肥満関連健康障害の解消あるいは軽減によるQOLの向上と健康寿命の延伸を目指すことにあります。しかし、高度肥満症患者に対する内科治療は一般的に困難であり、外科治療は内科治療に比較して長期的な体重減少が維持でき、肥満関連健康障害の改善も良好であることが高いエビデンスレベルで証明されています。最近では、肥満症外科手術は体重減少だけではなく、2型糖尿病などの代謝疾患が術後早期に改善することから、メタボリックサージェリー（減量・代謝改善手術）として注目されています。

第41回日本肥満学会・第38回日本肥満症治療学会において、2021年3月21日に企画された合同シンポジウムで、日本肥満

症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会より、「日本人の肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関するコンセンサスステートメント」が発表されました。今後は、肥満2型糖尿病に対する外科治療の適応拡大が見込まれることが予測され、肥満症患者の総合的診療体制と最先端治療を目的に、岩手医科大学内丸メディカルセンターに肥満症外科治療センターを開設する運びとなりました。

肥満症の治療では、患者個人の複合的病因と病態を理解した上で、減量・代謝改善手術も選択肢に入れた統合的な治療が必要です。減量・代謝改善手術では、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、公認心理師などの医療スタッフによる多職種参加型チーム医療による術前合併症の評価、手術適応の検討と術後の栄養障害やメンタルヘルスの長期フォローアップなどの診療体制が必須です。当センターでは、肥満関連健康障害に関連した13診療科、管理栄養士や看護師などが連携して、最先端医学と強固なチーム医療により、北海道・東北地区における拠点病院としての役割を果たしていきます。

「日本人の肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント」発刊のご案内

佐々木 章

2015年にロンドンで開催された第2回糖尿病外科サミットにおいて、2型糖尿病に対する治療アルゴリズムが発表されました。この中で、アジア人の2型糖尿病患者においては、BMI37.5kg/m²以上では血糖コントロールの如何に関わらず、BMI32.5~37.4kg/m²では血糖コントロールが不良な患者に対して、メタボリックサージェリーが推奨されました。この指針については、日本糖尿病学会も今後のエビデンスに基づいて決めていく必要があるという条件付きで支持しています。わが国の「糖尿病治療ガイドライン2019」では、肥満外科療法は減量効果や糖尿病改善効果などを有し、

手術前後における適切なサポート体制と安全性が確保されれば減量に難渋する高度肥満を伴う2型糖尿病患者に対して有効である（推奨グレードB・弱い推奨）と記載されています。しかし、「糖尿病治療ガイド2020-2021」では外科治療についての記載がなく、日本糖尿病学会の中でも肥満2型糖尿病患者に対する外科治療について、十分なコンセンサスが得られていないのが現状でした。

わが国の高度肥満症に対する外科治療は、2014年度に保険収載された腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（laparoscopic sleeve gastrectomy, LSG）の適応基準で行われています。

適応基準は、6か月以上の内科治療によっても十分な効果が得られないBMI35kg/m²以上で、糖尿病、高血圧、脂質異常症、または睡眠時無呼吸症候群のうち1つ以上を合併した高度肥満症です。2020年度の診療報酬改定では、BMIが32.5～34.9kg/m²でHbA1cが8.4%以上の肥満糖尿病患者に、LSGの算定が付加されました。しかし、手術時における肥満関連健康障害の基準は厳しく、臨床的にLSGの適応が拡大されたとはいえない状況です。

このような背景から、日本人の肥満2型糖尿病患者に対するメタボリックサージェリーに関するコンセンサスステートメントを作成するために、日本肥満症治療学会、日本糖尿病学会および日本肥満学会による合同委員会が設置されました。検討メンバーは、3学会理事長から指名され、私は委員長を務めさせていただきました。作成されたコンセンサスステートメントは、2021年3月21日に富山で開催された第41回日本肥満学会・第38回日本肥満症治療学会学術集会の合同学会で発表され、2021年7月15日に発刊されました。

コンセンサスステートメントでは、メタボリックサージェリーは、減量作用と代謝改善作用の両者が存在することから、対応する日本語は減量・代謝改善手術とすることが委員会で決定されました。またコンセンサスステートメントの作成では、科学的根拠としてできる限り日本人のデータを用いて適応基準を考えること、推奨が可能な項目ではrecommendationとconsiderationの2種類の推奨グレードを設定しました。検討内容は、肥満症の診療、手術導入要件と手術適応基準（第1分科会）、周術期管理とフォローアップ体制（第2分科会）、減量・代謝改善手術の効果予測と術式選択（第3分科会）として作成が進められました。減量・代謝改善手術の適応基準は、日本肥満症治療学会単独や外科医が中心となったものではなく、3学会合同で作成したことは重要な意義を持ち、海外のガイドラインと比較しても素晴らしい内容と思います。

- 受診時BMI35kg/m²以上の2型糖尿病で、糖尿病専門医や肥満症専門医による6か月以上の治療でもBMI35kg/m²以上が継続する場合には、血糖コントロールの如何に関わらず減量・代謝改善手術が治療選択肢として推奨される（推奨グレード recommendation）。
- 受診時BMI32kg/m²以上の2型糖尿病では、糖尿病専門医や肥満症専門医による治療で、6か月以内に5%以上の体重減少が得られないか得られても血糖コントロールが不良（HbA1c8.0%以上）な場合には、減量・代謝改善手術を治療選択肢として検討すべきである（推奨グレード consideration）。

わが国では、保険収載されている術式がLSGのみであること、減量・代謝改善手術の適応基準が海外と大きく異なることから、2021年に実施された減量・代謝改善手術は890件（69施設）であり、LSGが93%を占めています。今回作成されたコンセンサスステートメントを基に、肥満2型糖尿病患者に対してインフォームド・コンセントが適切に行われた場合には、減量・代謝改善手術が対象となる患者数増加の可能性がります。しかし、日本肥満症治療学会の肥満症外科手術（減量・代謝改善手術）認定施設は、2021年3月現在で23施設に留まっています。今後は、減量・代謝改善手術を導入する施設の増加が予測されることから、安全な手術の提供とチーム医療による質の高い診療体制の構築が重要であり、日本肥満症治療学会としても認定施設を増やすような取り組みを進める必要があります。教室年報をご覧いただいている皆様方にも、本コンセンサスステートメントが、肥満2型糖尿病の治療向上で活用されることを強く願っています。

国内留学レポート

長瀬 勇人（弘前大学消化器外科学講座）

この度、岩手医科大学外科学講座にて2021年4月より1年間国内留学をさせていただきました。このような貴重な機会を与えていただきました佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。また、快く受け入れてくださいました医局の先生方、大学院生の皆さん、医局秘書の皆さん、その他大勢のコメディカルスタッフの皆様にもこの場を借りて御礼申し上げます。

私は平成20年に弘前大学を卒業し、同大学の消化器外科学講座に入局しました。平成30年より肝胆膵外科を専攻しております。当講座では腹腔鏡下肝切除術の導入が遅く、まだ成熟していない部分があり改善策をチーム内でよく議論をしていました。しかし、問題をなかなか解決できないことも度々あり、もどかしさを感じていました。そんな折、突然、当講座 袴田健一教授より今回の国内留学のお話を頂きました。「やります！ぜひお願いします！」とその場で即答し、私の異動が決まりました。その結果、有意義な1年間を過ごすことができ、心からよかったと感じています。

肝胆膵グループで1年間研修させていただき、様々なことを学ばせていただきました。定型化された腹腔鏡下肝切除術はまさに私が求めていたものでした。術前セッティング、ポート配置、鉗子操作（グリソン確保、肝切離）、術中のリスクマネジメント、症例に応じた対応、手術に関わるすべてが新鮮で刺激的に感じられました。4月に初めて腹腔鏡下肝右葉切除を体験した時の衝撃は忘れられません。これから徐々に自施設でも実践していき、岩手医大のqualityに近づけるようにと決意を新たにしております。

また、肝切除に限らず腹腔鏡への積極的な姿勢は見習うべきと思いました。時折見学させていただいた胃や大腸の腹腔鏡手術や、鼠径ヘルニア手術（TAPP）、腹壁癒痕ヘル

ニア手術などでは、自施設にはない手術のコツを学ぶことができました。腹腔鏡への意識が高いためか若手の先生たちの腹腔鏡手技も上手で、率直にこれは凄いなと感じました。これはぜひ参考にさせてもらって、自施設の後輩たちと一緒に腹腔鏡手術の普及・技術向上を頑張っていきたいと思えます。

唯一の心残りはコロナウイルスのためなかなか外出できなかったことでしょうか。盛岡市内の名店をあまり巡ることができなかったことは残念です。そんな中、秋頃から岩手のソウルフード“じゃじゃ麺”にどっぷりとはまってしまう。弘前に帰ってから味が恋しくなったらまた岩手に来ようと思えます。

最後になりますが、ご指導いただきました新田浩幸教授はじめ肝胆膵グループの先生方に改めて感謝申し上げます。この1年間での経験は私の見識を大きく広げ、新たなモチベーションを与えてくれました。この経験を活かし、より一層外科医として精進していこうと思えます。お隣の県ですので研究会などでお会いすることも多いと思えます。今後とも何卒よろしく願いいたします。



（著者：中央）

「肥満2型糖尿病の肥満症外科治療の新指針」が Medical Tribuneに取り上げられました

肥満2型糖尿病の肥満(症)外科治療に新指針 3学会がBMIに基づき適応基準示す

日本肥満症治療学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会は合同で、肥満2型糖尿病患者において糖尿病の寛解、薬物治療の減量・中止などの効果が期待される肥満(症)外科治療のコンセンサスステートメント(以下、ステートメント)を検討してきた。岩手医科大学外科学講座教授の佐々木章氏は、BMI値に基づく外科治療の適応基準について第41回日本肥満学会/第38回日本肥満症治療学会(3月20~21日、ウェブ開催)で公表した。

Metabolic surgeryを「減量・代謝改善手術」に名称を統一

わが国では2014年に、6カ月以上の内科的治療で十分な効果が得られないBMI値35以上の高度肥満症で糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群のうち1つ以上を有する患者への腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が承認された。2020年にはBMI値32.5~34.9の肥満症およびHbA1c値8.4%以上の糖尿病患者への適応が追加されたが、合併症の基準にしばりがあり手術の恩恵が受けられる肥満2型糖尿病患者はいまだ限定的である。

そのため3学会は、日本人の肥満2型糖尿病患者における肥満(症)外科治療の適応基準を検討する合同委員会を2019年11月に設置。①手術導入の要件と適応基準②周術期管理とフォローアップ体制③手術における効果予測と術式選択—について、分科会を設け検討を進めてきた。佐々木氏は①の第1分科会会長を務めた。

肥満2型糖尿病に対するMetabolic surgery〔肥満(症)外科治療〕には減量および代謝改善作用があり、ステートメントでは日本語の名称として「減量・代謝改善手術」を採用した。また推奨グレードは「recommendation」と「consideration」で表した。

サポート体制と安全性を確保した場合の手術は有効

佐々木氏によると、可能な限り日本人のデータを用い適応基準を検討したという。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後2年以上が経過した日本人肥満症患者322例を後ろ向きに検討したJ-SMART研究では、平均BMI値が43.7から30.3に低下し、総体重減少率は29.9%であった(*Ann Gastroenterol Surg* 2019; 3: 638-647)。また同研究のサブ解析(203例)では、高度肥満症患者に加えてBMI値32.0~34.9の肥満症患者でもベースラインと比べたHbA1c値、糖尿病薬の使用数、インスリン使用率のいずれも有意な低下が認められた(各 $P < 0.001$ 、*Diabetol Int* 2021年1月2日

オンライン版)。

ステートメントでは、手術前後の適切なサポート体制と安全性が確保された減量・代謝改善手術は、減量に難渋する高度肥満症および肥満症を伴う2型糖尿病に有効であり、推奨レベルは高度肥満症がrecommendation、肥満症がconsiderationとした。

また、減量・代謝改善手術では医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、公認心理師などの多職種参加型チーム医療による術前の合併症評価や、手術適応を検討することに加え、術後の生涯にわたる栄養障害やメンタルヘルスへのフォローアップなど診療体制の整備が必須であるとした。

血糖コントロール不良例などへの推奨レベルは consideration

減量・代謝改善手術の適応基準は、2つの受診時BMI値に基づき推奨グレードを提示した。

1つは受診時のBMI値が35以上の2型糖尿病患者。糖尿病専門医、肥満症専門医による6カ月以上の治療でもBMI値35以上が継続する場合は、血糖コントロールの状況にかかわらず減量・代謝改善手術が治療選択肢として推奨される(推奨レベル: recommendation)。

もう1つは、受診時のBMI値が32以上の2型糖尿病患者で、糖尿病専門医や肥満症専門医による治療で6カ月以内に5%以上の体重減少が得られない、または得られても血糖コントロールが不良(HbA1c値が8.0%以上)な場合は、同手術を治療選択肢として検討すべき(推奨レベル: consideration)としている。

BMI高値と血糖コントロール不良の長期持続は、肥満症および糖尿病、合併症の進展・悪化を助長する。この点に鑑み、佐々木氏は「専門医による6カ月間の治療で改善が得られないのであれば、BMI値が32以上35未満の肥満症も手術対象とすべきとの結論に至った」と説明した。

一方、適応の除外基準に関しては①薬物やアルコール依存・乱用例②未治療または治療中の不安定な精神疾患例—とし、複数の自殺未遂歴または最近の自殺念慮・企図、食事管理や運動、禁酒へのアドヒアランス不良、重度の精神遅滞などを有する場合は、手術の延期または中止を慎重に考慮するとした。

なおステートメントは近く刊行される予定である。

(田上玲子)

トピックス
TOPICS

プラス
PLUS

肥満症外科治療センターが開設されました

4月1日(木)、内丸メディカルセンターに肥満症外科治療センターが開設されました。日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会より、「日本人肥満2型糖尿病患者の手術適応基準に関するコンセンサスステートメント」が発表され、これに伴い、肥満2型糖尿病に対する外科治療の適応拡大が見込まれることから、総合的な診療体制と最先端治療を目的に、肥満症外科治療センターが設置されました。

■肥満症外科治療センターの紹介

外科学講座の佐々木章教授がセンター長を務め、外科や糖尿病・代謝・内分泌内科、消化器内科等、肥満関連健康障害に関連した13診療科と管理栄養士、看護師等が連携して強固なチーム医療を継続して行っています。

外来診療は月曜日と水曜日の午前中に行われ、月曜日は糖尿病・代謝・内分泌内科、水曜日は外科で診療されています。当センターの受診は完全予約制となりますので、詳細は本学附属病院ホームページをご確認ください。



水曜日の診療 (内丸メディカルセンター1階フロア)



月曜日の診療 (内丸メディカルセンター2階フロア)

■記念式典・記念講演会を実施しました

4月3日(土)、ホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGでセンター開設に寄せて、記念式典・記念講演会が行われました。新型コロナウイルス感染対策として、会場には学内関係者と講演者のみが集まり、残りの参加者はオンラインにて出席しました。当日は、下沖内丸メディカルセンター長の開会の挨拶で始まり、小川理事長の祝辞、祖父江学長の祝辞に続き、3名の方による記念講演が行われました。最後に、小笠原病院長からの閉会の挨拶をもって式典が終了しました。



会場の様子

記念講演 1



「肥満とコロナ ～2つのパンデミックに立ち向かう～」

日本肥満症治療学会 理事長、
千葉県立保健医療大学 学長

龍野 一郎

記念講演 2



「国際的視野からみた岩手医科大学内丸メディカルセンター肥満症外科治療センターの重要性」

国際肥満代謝外科連盟アジア太平洋部会理事長、
四谷メディカルキューブ減量・糖尿病外科センター長

笠間 和典

記念講演 3



「岩手医科大学における減量・代謝改善手術の成績と肥満症外科治療センターの役割」

岩手医科大学外科学講座教授、
肥満症外科治療センター長

佐々木 章

■開設に寄せて

肥満症、とくに高度肥満症の治療は難渋を極めます。減量・代謝改善手術は大変有効な治療手段ですが、その効果を引き出して継続させるためには、安全な手術の提供と多職種によるチーム医療が求められます。北海道・東北地区における日本肥満症治療学会の肥満症外科手術認定施設は、北海道大学病院、岩手医科大学附属病院と東北大学病院の3施設であり、当センターは、北海道・東北地区における拠点病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

(肥満症外科治療センター長 佐々木 章)

肥満症治療を強化

盛岡・岩手医大 内丸M.C 外科センター開設

盛岡市内丸の岩手医大内丸メディカルセンター（M.C）に今月、肥満症外科治療センターが開設された。糖尿病や高血圧など多くの病気に影響する高度肥満症の手術の拡大を見据え、13診療科と管理栄養士、看護師が連携を強化。安全な手術の提供と患者の心身のサポートを行い、肥満に伴う健康障害の改善を図る。

「肥満症」は糖尿病や高血圧など健康障害を引き起こしうる肥満の状態。体格指数（BMI）25以上が肥満で、35以上は高度肥満と定義される。

日本肥満症治療学会などは3月、肥満2型糖尿病に対する減量・代謝改善手術

の適応基準を公表。例えばBMI32以上の場合、服薬や食事など内科的治療で6カ月以内に5%以上の減量ができないか、血糖コントロールが不良ならば、手術が検討されるとした。岩手医大付属病院は2008年、肥満2型糖尿病な

とを合併する患者に対し、胃の80%を切除する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を導入。今年3月までに106件を実施し、多くの患者に病状の改善が見られた。手術の適応基準が示されたことで外科治療の適応拡大が見込まれることから、総合的な診療体制を構築するセンターを設置した。

岩手日報
2021年4月4日掲載

タルヘルス面のフォローなどを行う。センター長を務める同大外科学講座の佐々木章教授は「最先端の医学とチーム医療で減量と健康障害の軽減をサポートし、得られた臨床成績を患者と内科治療に還元したい」としている。

3日は盛岡市内で記念式典・講演会が開かれた。肥満症外科治療センターは完全予約制。問い合わせは内丸M.C（019・613・6111）へ。

肥満症外科センター開設

岩手医大 条件緩和で手術増見込む



肥満症外科治療センター開設の意義を述べる初代センター長の佐々木教授（3日、盛岡市で）

岩手医大が1日、盛岡市内丸メディカルセンター内に「肥満症外科治療センター」を開設した。肥満治療の指針が変わり、増加が見込まれる手術に対応するほか、各診療科と連携し、術後の患者の栄養管理やメンタル面でのサポートを行う。

同大は、2008年に肥満症外科治療を導入し、腹部に穴を開けて胃を切除する「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」を実施。体格指数（BMI）が35以上の「高度肥満」の患者を対象に、3月までに106件の手術を行ってきた。

一方、日本肥満症治療学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会の3学会は3月、新たな指針を公表した。これまで受診時にBMIが35以上の患者で、6か月以

上の食事療法や運動療法の内科治療を行っても効果が得られず、糖尿病や高血圧などの病気が一つ以上ある場合に手術が適用された。今回の指針では、基準が引き下げられ、同大でもBMIが32以上で2型糖尿病の患者であれば、その他の病気がなくても、手術が受けられるようになった。

このため、手術を受ける患者の増加が見込まれることから、同大はセンターを開設し、受け皿を整備。肥

満によって発症する様々な疾患にも対応できるよう、精神科や脳神経内科・老年科など13診療科と連携し、総合的な診療体制を整えた。

初代センター長となった同大外科学講座の佐々木章教授は「肥満症には様々な原因が複雑に絡む。これまでの経験を患者の治療に還元し、北海道・東北地方の拠点病院としての役割を果たしたい」としている。

早期でも術前化学療法

病院の実力

～岩手編 163

膵臓がん

今回は、「膵臓がん」を取り上げる。自覚症状に乏しく、早期発見が難しい。かなり進行してから見つかることが多いからだ。治療は、手術、抗がん剤などの薬物治療（化学療法）が基本で、放射線治療を行うこともある。がんの進行度に応じ、これらを組み合わせる。一覧表には、2020年の①手術件数②術前化学療法

病院の実力「膵臓がん」

医療機関別2020年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	治療実績		
	手術件数 (件)	術前化学療法 (人)	単独化学療法・化学放射線療法 (人)
岩手			
岩手医大	34	9	41
県立中央	26	5	34
青森			
弘前大	38	7	25
八戸市立市民	13	0	42
十和田市立中央	1	0	8
秋田			
市立秋田総合	13	2	10
秋田大	12	5	16
宮城			
東北大	46	33	28
仙台オープン	42	12	25
東北医科薬科大	21	4	35
県立がんセンター	20	10	39
仙台厚生	20	5	15
石巻赤十字	18	13	23
国・仙台医療センター	12	9	3
東北労災	10	2	12
大崎市民	9	5	29
みやぎ県南中核	6	5	13

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター

全国の調査結果は15日の「安心の設計面」に掲載しました。

法を受けた患者数③単独化学療法・化学放射線療法を受けた患者数——を並べた。がんが膵臓内にとどまる早期の場合は、手術を行う。術後の合併症としては、消化酵素を含む膵液がおなかの中に漏れ、周囲の組織を溶かすことがある。こうした合併症を極力回避するためにも、手術を検討する際は、経験豊富な施設を選びたい。

多くの患者は、薬物治療を受ける。日本膵臓学会の最新の治療指針では、手術を受ける早期患者でも、再発のリスクを抑える狙いで、術前に薬物治療を行う「術前化学療法」が推奨されるようになった。

がんが他の臓器に転移している場合は、がんの進行を遅らせる目的で行う。がんが膵臓と周辺の血管にとどまる場合には、放射線治療を併用する「化学放射線療法」が行われることもある。

膵臓がんは、男女ともに60歳から罹患が増え始め、自覚症状が少なく発見することが難しい。初期段階のステージIで発見される患者は全体の約15%にすぎず、多くは進行した状態で発見される。親族で膵臓がんになった人がいれば、発症率が13倍に上がると言われており、注意が必要だ。膵臓は、食べ物を消化する膵液を作り、糖の量を抑えるインスリンを分泌する役割を担う。がんが進行すれば栄養が吸収できず体重が減少したり、糖尿病が悪化したりするほか、皮膚が黄色っぽくなる黄疸や、背中

の痛みを伴う場合もある。いずれもがんが進行した場合に表れる症状だ。当院ではまず、おなかががんが転移していないかを確認する審査腹腔鏡手術を必ず行い、本格的な手術が可能かを判断した上で、患者に最適な治療法を選択している。また、術後だけでなく、術前にも抗がん剤を使う治療を取り入れ、血液やリンパ液などに潜むがん細胞をあらかじめ取り除いている。がんが進行した場合には、放射線治療を組み

合わせる場合もある。膵臓がんは依然として死亡率が高いが、医学の進歩で生存率も少しずつ上がっている。膵臓は胃の後ろにあるため、健康診断の超音波検査では発見が難しい。早期発見のため60歳近くになったら、少なくとも2年に1度は人間ドックなどでコンピュータ断層撮影法(CT)や磁気共鳴画像法(MRI)で調べ、詳しい精密検査を受けることが望ましい。(聞き手・有村瑞希)



県内の膵臓がんの治療法について、岩手医大外科学講座・肝胆膵疾患チームの新田浩幸教授(52)の写真

読売新聞
2021年12月20日掲載

June

6

巖刀会 WEB開催 (2021.6.5.)



September

9

遠藤 史隆 講師 送別 (2021.9.28.)



December

12

ごみ落とし WEB開催 (2021.12.28.)



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

2021年度の岩手県立二戸病院の近況をご報告申し上げます。4月から私、御供が副院長心得から副院長になりました。石橋正久先生が異動され、佐々木教之先生が消化器外科長として着任しました。他は前年度と変わらず、外科長、松井雄介先生、外科医長、瀬川武紀先生の4人体制で診療にあたっております。

外来診療応援は昨年度と変わらず、毎週月曜日に遠藤史隆先生、毎週木曜日に山田裕彦先生（高度救命センター准教授）、毎週金曜日に新田浩幸教授、第3月曜日に小松英明先生（乳腺外来）、小児外科外来は第1金曜日に鈴木信准教授にお手伝いいただいております。緩和ケアの診療応援には毎週金曜日に木村祐輔教授、手術応援には毎週火曜日に武田大樹先生に来ていただいております。肝胆膵症例におきましては、新田浩幸教授、片桐弘勝講師にお越しいただきました。医局の先生方には度重なるご支援賜りまして誠に有難うございます。また、当科からは松井先生が毎週水曜日に大学乳腺外来応援（来年度からは隔週金曜日の大学手術応援も追加）、佐々木先生が毎週金曜日に軽米病院へ外来応援に行っております。

2021年の手術件数は全手術数361件でした（前年度358件）。全身麻酔手術数314件（309）、鏡視下手術数150件（145）、緊急手術数は47件（50）でした。昨年度と比較しますと全体的にほぼほぼ変動はないかと思われます。

当科のトピックスとしては、石橋先生がついにこの二戸の地で運命の出会いを果たしご結婚されたことです。現在は能代で公私ともに充実した日々を過ごされていることと

思います。末永くお幸せに！

専門医につきましては、松井先生が乳腺専門医、瀬川先生が消化器外



写真2

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

医局の皆様、新年あけましておめでとうございます。
令和4年となり一時は終息するかに見えたコロナ渦でし



写真1

科専門医を取得し、嬉しいダブル合格でした。学会認定施設に関しましては、私が2020年に着任した際に日本外科学会の指導医を申請中でしたので一度関連施設へ降格しましたが、昨年無事に指定施設へ戻すことができました。また、日本消化器外科学会専門医修練施設へ申請し認定されました。日本外科感染症学会外科感染症周術期認定施設へも現在申請中です。

また昨年末には、遠隔手術システムを用いた大塚幸喜准教授の指導下で腹腔鏡下大腸切除術を当院で施行しました。瀬川先生が執刀し、大塚先生は盛岡からの遠隔指導となりました。県内で第1例目のパイロット的なものでしたが、術者、助手ともに指導が受けられる非常に画期的なシステムでありますので今後も難易度の上がる症例につきましてはご指導いただきたく思っております。（写真2 遠隔手術指導風景：足側、頭側それぞれに通常のモニター（左）と指導モニター（右）が2面ずつ、他に映っておりませんが術野カメラが設置されております）

コロナ対応の方は、当圏域には感染症指定病院の一戸病院があるため、陽性患者は基本一戸病院入院となっておりますが、昨年7月についてオーバーフローしたことにより当院でも入院受け入れを開始しました。中等症2までは当院で治療しましたが、重症として県調整班に依頼する患者さんはいませんでした。年末にかけてようやく落ち着いてきたかと思いきや、この原稿を書いている現在、第6波の真っ只中です。早くピークアウトしてほしいものです。

今年度も引き続き二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、旧浄法寺町から成る「カシオペア連邦」、他に葛巻町、青森県三戸町、田子町までを含む広い医療圏の外科診療に貢献していきたいと思っております。

今後ともご指導、ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。
（文責：御供真吾）

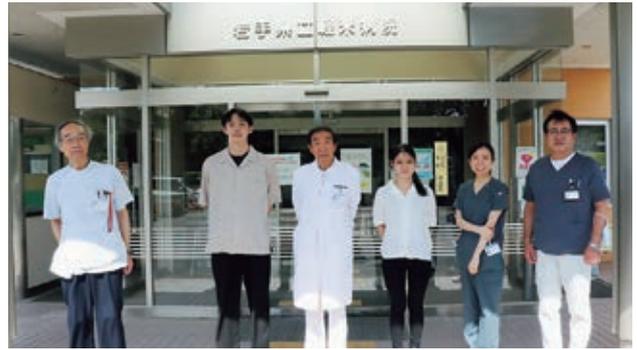
たが、オミクロン株が出てきて再び猛威を振るっております。カシオペア圏域の調整会議では当院はコロナ担当から外れることとなり、その代わりに担当病院から慢性期の患者さんを引き受けることとなりました。もちろん、PCR検査・抗原検査などは行なっておりますが、コロナ陽性患者

の入院は引き受けておりません。担当されている先生方には頭が下がります。

現在、「医師の働き方改革」が進められており2年後の2024年4月からは今までより時間外のチェックがより厳しくなりますことをご存知かと思えます。当院自体は年960時間のA水準でいけると考えていますが、大学病院の皆様はB・C水準になると思いますし、今後2035年までには時間外労働の引き下げが必要になってきます。そこで、出張先の時間外までカウントされると労働時間がオーバーしてしまう危険性を持つため、現在当院では「宿日直許可」をとるべく労働基準監督署と掛け合っております。これが認められますと、先生方が軽米出張の際は時間外のカウントをする必要性がなくなり、安心して大学の業務に携われるものと考えます。

当院は、現在4名の常勤医（内科2、外科1、小児科『定年後』1）しかおりませんので、大学からの外来・当直応援は非常に助かっており（菊地先生、伊藤先生、天野怜先生、天野総先生、畑中先生、有吉先生など有り難うござい

地域医療研修で訪れてくれた学生さん2人を迎えて。私の右隣は実は横島院長の娘さん。滝川教授の計らいで、親子で1年間病院を支えてくれています。その院長もこの春には定年、娘さんは大学に戻ります。



ます）、今後とも生活関連病院としてその役割を果たさせていただきたく思っております。

横島院長も3月で定年ですし、内科の若先生も春で終了という予定でしたので途方に暮れておりましたが、新年度からは、肝臓内科と糖尿病・代謝内科から若手の先生が1人ずつ派遣予定という嬉しいニュースも入ってきましたので、ホッと胸を撫で下ろしている次第です。

地域枠の先生方には「小規模病院」の勤務予定もあると聞きますので、是非とも短期間でも軽米病院をよろしくお願ひして、挨拶を終えたいと思います。

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院



令和3年度の久慈病院の近況報告をさせていただきます。

外科スタッフとして 院長 川村英伸先生、藤井仁志、佐々木秀策先生、畑中智貴先生、中村侑哉先生、救急医学講座 皆川幸洋 救急センター長の6名で診療にあたり、9月からは畑中智貴先生が盛岡市立病院に異動となり、藤澤良介先生が赴任されました。

外来診療には、小児外科外来に鈴木信准教授、乳腺外来に小松英明先生が毎月1回の応援診療、手術応援には、佐々木章教授、新田浩幸教授、大塚幸喜准教授、秋山有史准教授、片桐弘勝講師に来て頂き、最新の手術術式を学ぶ機会もいただいております。医大医局からたくさんの派遣

をいただき医局の先生方には大変感謝しております。

2021年の手術件数は全手術件数 373件（前年度 376件）、全身麻酔下手術数 312件（309件）、鏡視下手術数 171件（145件）、緊急手術数 74件（73件）でした。新型コロナウイルス感染症の影響から診療体制の抑制・手術抑制があった中、昨年度と手術件数に変動はありませんでしたが、鏡視下手術が増加傾向であり、今後も低侵襲での手術提供を目指していきたいと考えております。

今年のお話として、2022年1月5日に藤澤先生に第1子が誕生しました。藤澤先生似？のかわいい女の子であり、穏やかで楽しいご家庭になることと思います。また、2021年5月に佐々木先生が尿管結石を発症し、大変苦しい思いを経験しました。次第にスタッフの体型が大きくなってきていますので健康にも気をつけていきたいところです。

令和3年も新型コロナウイルス一色でしたが、その中で診療はもちろんのことそれぞれが趣味（ゴルフ、釣り、サーフィン、eスポーツ…etc）を充実させ、日々生活しております。大変な状況は続きますが、久慈市、洋野町、野田村、普代村からなる医療圏のニーズに外科診療で貢献していきたいと思ひます。

今後とも医局先生方、関連病院の先生方のご指導・ご鞭撻、ご支援の程、何卒よろしく願ひ申し上げます。

（文責：藤井仁志）

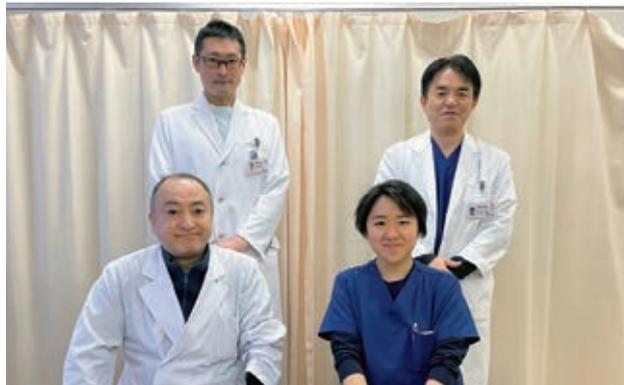
Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

2021年度の盛岡赤十字病院の近況を報告します。

人事としては高橋正統先生が3月から山形で開業され、3月末に有末篤弘先生が八戸赤十字病院へ、岩崎崇文先生が盛岡市立病院に転任されました。4月からは能代厚生医療センターから加藤久仁之先生、八戸赤十字病院から川上亜紀子先生が赴任され、常勤4名のスタッフで診療にあたりました。また大学から橋元麻衣先生に週2回の手術応援に来ていただきました。

手術件数は、全麻件数506件と昨年と昨年比8件減少、腹腔鏡下手術は364件で昨年比5件増となっており、昨年とほぼ同数の手術件数となりました。大腸癌の件数は111例で昨年より26件増え、コロナによる受診控えの影響か高度進行癌の割合が増加しております。



2021年度も引き続きコロナ患者受け入れ病院として、我々外科も感染対策チームして入院患者の対応にあたりました。感染の波が来るたび多忙の波も押し寄せてくるので、デルタ、オミクロン、次は何がやってくるかと戦々恐々としております。

2022年度も黙々と日常診療を行いつつ、忙しい中でもモチベーションを保って乗り切りたいと考えております。

今年在籍した常勤医

杉村好彦、大山健一、加藤久仁之、川上亜紀子

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

令和3年度は、須藤隆之（昭和63年卒）、藤原久貴先生（平成10年卒）の2名と令和3年4月より盛岡赤十字病院から岩崎崇文先生（平成30年卒）と令和3年10月より東山手メディカルセンターから松尾鉄平先生（平成17年卒）の2名に長期出張頂き計4名で勤務しております。令和3年4月から松尾先生に赴任頂くまでの半年間は、藤澤良介先生、有吉佑先生、高橋真人先生、屋成信吾先生、畑中智貴先生に交代で短期出張頂きました。松尾医師と岩崎医師は、手術はもちろん術後には筋トレの聖地モリトレにて切磋琢磨しております（図1）。



図1

須藤が日本クリニカルバス学会において2020年度の論文奨励賞を受賞いたしました。2020年度というのは、2020年の日本クリニカルバス学会が新型コロナウイルス感染症のため急遽中止となったため、論文奨

励賞の受賞も延期となりました。翌2021年11月に第21回日本クリニカルバス学会がハイブリッド開催となり、Zoomにて受賞口演と事前に送付された表彰状と副賞を手にして表彰式が行われました。以前、日本内視鏡外科学会にて出月賞を受賞させて頂いた時のような壇上で行われる表彰式と違って無観客で非常に淋しい表彰式となりました。

昨年も世界中がコロナ一色で、学会、研究会、歓送迎会、忘新年会などが自粛せざるを得ませんでした。しかし、そんなコロナ禍で手術規制があったにも拘らず、令和3年の全身麻酔手術は679件と令和2年の676件と比べてわずか3件ではありますが増加いたしました。減少しなかっただけでも頑張ったと思います。今年こそは、全麻手術700件越えを達成したいと考えております。令和3年の腹腔鏡下手術は、482件で腹腔鏡下手術率は71.0%（482/679件）でした。

学術活動は、英文論文4編が掲載されました。コロナ禍で学会、研究会の中止が相次ぎ学会発表はZoomによる発表1編のみでありましたが、新型コロナウイルス感染症に影響されない執筆活動は順調に行うことができたと思っております。来年度も当科で行なっている臨床試験結果を原著で順次掲載し、全国に当科の学術面もアピールしていきたいと思っております。今後も当院に勤務頂く先生には、臨床のスキルアップはもちろんのこと、老若問わず活発な学術活動を継続して頂きたいと思っております。

当科の恒例行事でありましたキッズセミナーは、13回目

の予定でありましたがコロナの影響で昨年も中止せざるを得ませんでした。

当院は、来年度初めて臨床研修医を迎えることが出来そうです。以前はマッチングまではいっても、国家試験に不合格となり受け入れ出来ませんでした。今年のマッチングは3名(岩手医大、弘前大学、東北医科薬科大学、各1名)でした、そのうち1名は外科志望で外科専門プログラムを選択しています。晴れて国家試験に合格し当院に迎えられたいことを楽しみにしております。

令和4年度は、コロナ禍でかなり遅れてしまいましたが大ダヴィンチ Xiの導入が決定いたしました。当院は泌尿器科、産婦人科が無いので消化器外科に特化したロボット手

術の導入は全国的にも珍しいと思われれます。岩手県で3台目の導入で、本年4月の保険改定でロボット手術の保険適応が拡大されるとの噂もあり、様々な手術でロボット手術を導入したいと考えております。

当科は、4人で毎日全身麻酔手術を午前中から3-4件と超多忙ですが、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後もご指導よろしくお願いたします。(文責：須藤隆之)

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

令和3年度 岩手県立釜石病院の診療状況を報告させていただきます。

外科スタッフは、院長 坂下伸夫先生 副院長 石川徹先生、外科長 箱崎将規 外科医師 木村拓先生の常勤医4名で診療にあたりました。

外来診療は、一般診察は、2名体制で行い、専門外来は、毎週木曜日 甲状腺外来 小笠原聡先生、月1度の食道専門外来 岩谷岳先生、乳腺外来は県立中部病院から、診療応援をいただいております。

水曜日には県立大槌病院 院長 佐藤一先生に、診察、手術指導いただき医局の先生方にも、月、火、金の午後の手術応援をいただいております。

週末の当直、救急対応も応援もいただき、若手常勤医が少ない中で大変助けられております。

また、専門疾患について、各グループの先生方に手術指導や診療方針のアドバイス等ご教示いただき当院での治療につなげております。

癌化学療法、人工肛門管理、創傷処置、緩和ケア、嚥下障害、放射線治療など、認定看護師スタッフとの協力も必要不



可欠で、みんなで日常診療にあたっております。

医療クラークさんたちにも、外来診察時の業務や診



断書などさまざまな面で協力いただいております。

手術においては、230件施行し、うち全身麻酔は190件でした。緊急手術11件、鏡視下手術93件でした。大腸、胃、乳房、胆嚢、ヘルニア、甲状腺手術が疾患の中心となっております。

木村先生には、積極的に執刀医の経験を積んでいただいております。腹腔鏡下大腸切除や、胃切除なども、初執刀から経験していただき、いまでは進行癌の執刀まで任せられるようになっております。

2020年から続くコロナ禍の影響も今年度になっても続いており、外来では、発熱外来を中心に、PCR検査の施行や、看護師の県立病院間での派遣協力などを行っております。

病棟では、軽症例ではありましたが入院対応をしたりと、コロナ対応のノウハウも学んでいます。面会制限が続き、患者、家族の要望に十分に答えることが難しいことありましたが、Zoom面会などを導入したり、地域での感染拡大防止を第一に職員一丸となって取り組んでおります。今後も地域のニーズに答えられるようにスタッフ一同で診療に臨んでいきたいと思っております。

これからもよろしくお願いたします。

(文責：箱崎将規)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

令和3年の県立宮古病院外科の近況を報告します。

やはり最初はCOVID-19関連の話題から。令和3年8月に宮古市内での大規模クラスターの発生により当院へも連日感染患者が入院となりました。計17床ある感染症病室もすぐに満床となりましたが、他医療圏とも連携しベッド調整を行い呼吸器内科・ICD・ICNなどの院内関係スタッフ、他施設の関係部署の皆様が尽力で何とか対応することができました。当院でも、宮古市以外の沿岸部医療圏など近隣からの感染患者入院も受け入れていました。また、感染管理室を中心に院内での市民へのワクチン個別接種、市の集団接種への医師・看護師・薬剤師派遣、保健所からの依頼によりICTによる院外での大規模接触者検診への協力など宮古市とも協力してこの困難な状況への対応を現在も継続しています。

次に働き方改革です。2024年4月からの医師の時間外労働規制への対策が急務となっていますが、当院でも医師の時間外勤務を年間960時間以内にするため、宿日直許可の取得など様々な対応をしなければなりません。宮古病院医局の医師数は研修医4名を含め、以前よりは増加し40名前後となっていますが、なんといっても三次医療圏の医師偏在指数で最下位が岩手県、二次医療圏では宮古は全国で下から6番目と医師数が非常に少ない地域です。勤務間インターバル9時間の確保や当直翌日の休み、代償休息などマンパワーがなければ実現には難しい問題が山積みです。

さて、通った方も多いと思いますが宮古盛岡横断道路が全線開通しています。全長4998mと岩手県内で1番長い新区界トンネルを筆頭にトンネルだらけの印象はありますが、盛岡 - 宮古間が今までより30分程度短縮され冬道も比較的安心して移動することが可能となりました。四季を問わずに、ぜひ宮古に仕事や遊びに来て下さい。

診療体制は、病院長の吉田徹先生をはじめ、阿部薫（副院長兼診療情報管理室長兼医師事務支援室長）、藤社勉（第



1 外科長兼緩和医療科長兼救急医療科長)、石黒保直 (第2 外科長兼医療研修科長兼感染管理室長)、川島到真 (外科医長) と前年度と同じメンバーで診療に励んでいます。

診療応援では、毎週水曜日午前の外来診察では藤澤良介先生、田金恵先生、石井勇吾先生に、火曜日の手術および診療応援で長瀬勇人先生に来て頂きました。月一回の乳腺外来に小松英明先生、毎月第三金曜日の午後小児外科准教授・鈴木信先生にも診療応援を頂いています。また吉田院長のご尽力で昨年4月から半年間、国立国際医療研究センターから外科専攻医の中村真衣先生が研修に来てくれました。今年も春から一年間の予定で同センターから外科専攻医が来てくれることになっているようです。

昨年 COVID-19による患者さんの受診控えや入院・手術制限などの影響はありましたが、令和2年に比較すると救急搬送件数や外来・入院患者数は増加傾向にありました。外科全手術件数は312件で前年より11例減少しましたが、全身麻酔件数は266件で1例の増でした。緊急手術件数は前年より11件の減少でしたので、予定手術件数は前年とほぼ同じでした。癌の手術は各々2～5例ずつ増えていましたが根治が得られないような高度進行癌が増えていた印象です。依然として検診控えや病院への受診控えが影響していたように感じられます。

研修医の指導など、例年近隣の先生方には非常にお世話になっております。今後とも引き続きの同門の先生方、医局の先生方のご指導・ご支援をお願いいたします。

(文責：阿部 薫)

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

北上済生会病院2021年度のご報告をさせていただきます。当院は一昨年2020年11月24日より新病院での診療開始と

相成りました。

手術室も以前より室内が広くなり使い勝手も良好です。

消化器科増員の影響もあつてか紹介患者数も増加傾向であり2022年1月時点で既にイレウス等緊急手術を数例行いました。

当科は2018年10月より常勤外科医師1名体制で運営する事となり、手術・外来応援を複数の施設より多数頂いております。

外来応援には大塚先生、鈴木先生（月1回小児外科外来）、小松先生（乳腺外来）、伊藤千絵先生、小林めぐみ先生に診療応援を頂いています。

手術応援には鈴木先生、鴻巣先生、塩井先生、伊藤千絵先生、小林めぐみ先生、中村聖華先生に執刀やお手伝い頂きました。

金曜日の病院当直に関しましても隔週で大学病院より派遣を頂き病院としても大変助かっています。

新病院開院2年目も手術を含めた診療内容の充実を図るべく、励んでいきたいと思っております。



今年度も医局・関連病院・市内外で開業されている先生方からのご支援、ご協力を賜ります様何卒宜しくお願い申し上げます。
（文責：細井信之）

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2021年4月から、遠野千尋院長が当院に着任され、当院の外科常勤医師数は2→3名と増員となり、遠野（平成30年卒）塩井（平成13卒）石岡（平成27卒）の3人体制でスタートいたしました。

2021年の当院の全手術件数は、全身麻酔手術件数が207件（昨年151件、37%増）と千厩病院史上過去最高を記録し、腹腔鏡下手術件数も135件（昨年89件、51.6%増）と例年より大幅に増加いたしました。腹腔鏡下手術率も65%と昨年以上の割合でした。これらは、遠野院長先生が赴任されて3人体制になったこと、院内が一丸となり救急車受け入れ率を年間通して9割以上にキープできたこと、そして塩井-石岡のコンビネーションが3年目で熟成されたことなどの効果があります。また、外科症例の増加には、地道に一関



※写真は、当院外科の地域医療研修をした国立国際医療研究センター研修医の小島原知大先生、塩井義裕、石岡秀基先生、遠野千尋先生の4人です。

市の地域病院とのパイプを太くし病診連携を密接にしたことにも大きく寄与し、関係の皆さまにご協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。

2021年の当院では虫垂炎、ヘルニア、尿管管遺残症、胆石症、胆管結石、胃癌、直腸脱、大腸癌、胃癌に対して腹腔鏡下手術を行いました。とくに胃癌は肥田教授にご指導いただきまして、胃平滑筋肉腫を除く全ての症例で腹腔鏡下胃切除術（LADG、 δ 吻合）を行えたことは大きな成果でした。また、右側結腸癌やラバ胆を外科医2人で行えるようになったことは手術件数増加に大きく貢献しました。

2021年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、オミクロン株の出現もありましたが、当院では遠野院長が完全に感染制御しその影響が最小限に抑えられたことも大きな功績でした。

岩手医科大学の佐々木章教授には私の手術指導を、新田浩幸教授にはPpPDおよび肝切除を執刀していただき、大塚幸喜准教授には腹腔鏡下直腸切除術を執刀していただきました。また、診療応援いただきました下沖収教授、西塚哲教授、西成尚人先生、小原真先生、松谷英樹先生、藤井大和先生、大学の先生方には大変お世話になりました。また、TAPPの技術認定試験のための指導として、盛岡日赤の大山健一先生に適切な剥離層を教わったことは目から鱗でした。誠にありがとうございました。

2022年は、千厩病院総合外科診療の質と量をよりパワーアップし、岩手県の外科診療をリードしていく形で岩手県の医療の均てん化を目指したいと考えております。

（文責：塩井義裕）

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巖刀会の先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。令和3年度の岩手県立江刺病院の近況をご報告申し上げます。

今年度は川村院長と伊藤の二人体制で診療を行ってまいりました。外来応援として水曜日に中部病院から伊藤達郎院長、金曜日に大学病院から肥田圭介教授、そして手術応援として北上済生会病院から細井信之先生に来て頂いております。日直、当直応援にも大学病院から複数の先生方に来て頂いており、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症患者の県内での増加が顕著になり、当院では昨年4月からGW明けまで手術を停止してまいりました。もともと毎週木曜日のみ手術ができる状況で手術件数は少ないのですが、コロナ禍でさらに手術件数は激減しました。手術が少ない代わりに、外科疾患以外の診療に大半の時間を費やしました。腰椎圧迫骨折などの整形外科疾患や褥瘡

処置、誤嚥性肺炎や廃用症候群、老衰、癌終末期患者などなど、医師になって15年目で初めて診る疾患もありました。

この1年程、高齢の患者さんに囲まれていつも頭に浮かぶ言葉は、「健康寿命」です。人生100年が誇らしいのではなく、健康で自立して過ごした80年のほうが尊いと思います。100年生きていても最後の20年が寝たきりでは…賛否両論あることは重々承知しておりますが、思わずにはいられない当院の現状です。

令和4年も大学病院の先生方、関連病院の先生方からのご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。
(文責：伊藤千絵)



Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

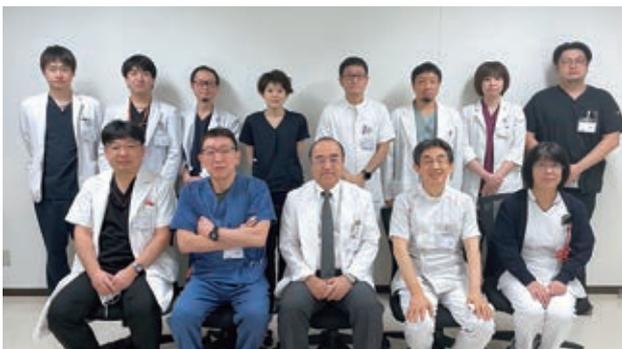
巖刀会の先生方、ご無沙汰しております。函館五稜郭病院の近況報告を、今回は佐藤慧が担当させていただきます。

いよいよアフターコロナの時代到来かと思えた日々もつかの間、オミクロン株の登場とともに日本も世界と変わらず、第6波に飲み込まれてしまいました。当院におきましても、ちょうど第5波の時期である2021年8月に院内クラスターが発生しました。外科の隣の病棟の入院患者より始まり、外科病棟にも感染が広がりました。幸いにも外科スタッフに感染はなく、病院一丸となり対策を講じたおかげ、最小

限で食い止めることができました。院内クラスターが終息するまでの約2週間は手術はもちろん、新規入院も原則中止となり、コロナ禍による医療崩壊を身近に感じたときでした。

当院外科は高金明典副院長、小林慎診療部長、船渡治診療科長、米澤仁志主任医長、木村聡元主任医長、千葉丈広主任医長、河野剛主任医長、川岸涼子先生、及能拓朗先生、吉田瑛司先生、そして佐藤慧の計11名の大所帯です。さらに外科に入局を決めた大塚観喜先生、清川真緒先生、口田脩太先生の研修医3人がおります。2019年度より札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座との合同チームとなっておりますが、医局による違いをお互いにいろいろと取り入れることで、当院外科のレベルアップはもちろん、これから大学に戻る3人も多くのことを学べる機会を得ることができたと思います。

2021年度の総手術件数は984件（CVポート造設は除く）、そのうち全身麻酔下手術が943件、また緊急手術が77件でした。悪性疾患につきましては、甲状腺癌11件、食道癌18件、胃癌72件、大腸癌231件、肝胆膵癌51件、乳癌180件でした。当院でもCOVID-19による患者さんの受診控え、紹介患者の減少、入院・手術制限、院内クラスターによって顕著に



手術件数が減少しました。

高金先生は相変わらずパワフルです。以前のような縦2件、3件というのはなくなったものの、どんな進行癌でもどんな体型の患者さんでもいつもかわらず同じQualityで手術を終えます。また今年度も北海道予選を突破し、全日本アマチュアゴルフ選手権に出場されておりました。還暦を過ぎても衰え知らずの日々です。

小林先生は食道癌・甲状腺疾患を中心に外来、手術とされておりますが、救急科診療部長も兼務のためドクターヘリや救急診療もご尽力されております。働き方改革の中では少し働きすぎのような気がするので健康が心配です。

船渡先生は肝胆膵の悪性疾患の全手術に執刀、もしくは第一助手として入っておりますが、長時間手術に耐えられる体力・筋力を函館駅前のゴールドジムで鍛えております。タンパク質の摂取はかかせません。

以前函館にいたときは毎晩のように一緒に飲み歩いていた米澤先生はご結婚され、すっかりパパです。勉強会などで外に出られたときはそのまま飲みに行けるようですが、コロナの影響もあり、全然一緒に飲みに行けておりません。

木村先生の異動に伴い、ロボット支援下直腸がん手術を当院でもスタートすることが出来ました。道南では当院のみです。また大腸悪性疾患に限らず、良性疾患も含め今まで困っていた症例についても問題なく解決出来るようになりました。

千葉先生は合併症多めの胃癌症例を中心に手術をされております。クセが強めの患者さんも多く、A型の精密さと根気強さには感嘆させられます。だからこそ何か困ったときは千葉先生に相談していますし、いつ御実家の千葉医院に戻られしまうのか、ドキドキしてしまいます。

河野先生はどうやら今年度で異動になってしまいます。いつもきれいで早い手術が素敵でした。教えていただくことがまだまだたくさんありましたし、先生の釣ったヒラメの昆布締めをもっと食べたかったです。

川岸先生は卓球やバドミントンなど意外と運動をしているようです。体脂肪率や骨格筋率もわかる体重計を購入したようで、やはり筋量が少ないとのこと。だからこそいつも筋トレ、特にスクワットをすすめているのですが……。

及能先生はいつも穏やかであり、面倒なことも快く引き受けてくれ、何でもやってくれます。そのせいなのか、お酒を飲むとわかりやすく2日酔いになっていることも。コロナで飲む機会が減っているのでいつかス



トレスで爆発してしまうのではと心配です。

吉田先生はこの3年間で見違えるように素晴らしい外科医へと成長しております。外科専門医、消化器外科専門医、がん治療認定医など立て続けに資格を取り、英語論文もacceptされ、学会活動の積極的です。また自分のことだけではなく、医局は違えど、当医局に入局する研修医たちにたくさん指導してくれました。彼らの財産になったはず

です。そして私佐藤ですが、赴任して丸3年経ちました。今年度の出来事と言えば、da Vinci（直腸）を執刀することが出来ましたが、まだまだ腹腔鏡下手術との違いに戸惑っております。そして、実は初めて全身麻酔下手術を受けました。昔から悩まされていた扁桃腺を摘出したのです。術後の激痛がとんでもなかったです。最後にいつものことですが、今年も何もかわることなく同級生の川岸先生と仲良く独身生活を謳歌させていただいております。

研修医の先生方は1年目に2ヶ月間、2年目に4ヶ月間の外科ローテートでした。大塚観喜先生は執刀数18件（全麻11件/局麻7件）、学会発表4回（全国学会3回/地方会1回）、論文和文1編（指導医：吉田先生）、口田脩太先生は執刀数37件（全麻31件/局麻6件）、学会発表4回（全国学会3回/地方会1回）、論文和文1編（指導医：佐藤）、清川先生は現在ローテート中ですが執刀数11件（全麻6件/局麻5件）、学会発表5回（全国学会2回/地方会3回）でした。ローテートしてきた時期で多少の差があるものの、厳しい指導であったため、他科とのギャップもあり、大変だったと思います。研修医の指導は前述の通り札医大の吉田先生が中心に頑張ってくれました。私も吉田先生が先輩ではなく後輩で良かったと思えるぐらい厳しく、そして優秀な若手有望な外科医として研修医たちに将来あるべき姿を見せてくれました。まだまだ教育が行き届いていないところが多くありますので、巖刀会の先生方にもさらなるご指導をお願い出来ましたらと思います。必ずや今後医局を支えてくれる外科医となるはず

です。2023年には函館で消化器外科学会総会が開催される予定です。東北新幹線に乗ればすぐ着きますので、COVID-19が落ち着き、笑顔で楽しく、また皆様とお会い出来ればと願っております。函館に是非お越しください。



Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター



当院の2021年は全手術件数399例、全身麻酔件数329例、腹腔鏡手術が295例と前年度と同程度でありました。全手術件数は400例を切る状況でしたが、胃・大腸直腸・肝胆膵症例は例年よりもかなり増加しており、1件に対する手術時間自体はかなり労力を要する状態でした。しかしコロナ禍の影響余波により超高齢化や切除不能進行癌の割合も増加し、例年よりも化学療法適応患者が少なくCV Port造設も例年に比べ10例弱少ない現状でした。また急患手術に関しても通常よりも20~30例程度少なく、穿孔やイレウス患者が特に減少をしておりました。

スタッフは西成悠、石橋正久、棚橋洋太の3人体制で診療

を行いました。外科医の人数が他病院と比較少ない状況ではありますが、手術件数100強/人という忙しい環境の中、石橋先生は消化器外科専門医試験に合格、棚橋先生は外科専門医試験に合格されました。棚橋先生は石橋先生の指導により、着実に手術手技や治療の勉強も進んでおり、大学へ戻った際に後輩に指導ができるように今後も教育・指導の継続をしていきます。また手術パスや治療に関しましても他病院での良い部分や新規エビデンスなどパスや治療経過なども含め再度一新した部分もあり、臨機応変に対応する若年で構成された病院の特性を生かしている状態となりました。肝胆膵領域に関しまして、引き続き新田教授や片桐先生などの応援を頂き、例年よりも多い22例を施行しました。遠方かつ僻地ではあるものの、秋田県内で随一の治療を患者様に提供できたことも非常にありがたく思っております。

遠方の関連病院ではありますが、症例はかなり豊富にあり、若年外科医にとって手術修練施設として充実しております。一方で3人という人数制限があり、定型の手術を指導できないのはかなり難点であり、元来野戦病院で各々が外科医として習熟していく過程で、他の関連病院よりは時間や指導内容などはかなり厳しい条件ではあります。しかし今後もヤングアンドチャレンジ精神のまま、どのような症例に対しても先人の先生が築き上げた当院の意向を崩さずに精進致します。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後も宜しくお願い致します。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

巖刀会の皆様、いつもお世話になっております。

八戸赤十字病院の今年度の活動を報告いたします。

今年度は玉澤佳之、藤澤健太郎、野田宏伸、有末篤弘の常勤4名体制でした。

盛岡赤十字病院から有末が赴任し（5年ぶり3回目）、小児外科専門医として小児症例を充実すべく力を注いでおります。

また、これまでと同様に近隣の先生型と大学医局からの応援を頂きながら業務を行っております。青森県南部町で開業しておられる川守田究先生、普代村診療所の荒谷宗光先生より手術応援を、大学医局からは小松英明先生、片桐弘勝先生、武田大樹先生、佐々木智子先生に外来および手術応援にいらしていただきました。大変感謝申し上げます。



当外科チームもCOVID-19感染症の病棟診療担当チームとして診療に当たっておりますが、特に2021年初秋の第5波の猛威はすさまじく、感染病棟の増床を余儀なくされました。HCU病棟が閉鎖となり、重症症例であっても一般病棟で管理せねばならないという状況に陥りました。外科病棟とCOVID-19感染病棟の2病棟分の患者様を受け持た

ねばならない時期もあり、予定手術を縮小せざるを得ない状況ではありましたが、結果的に手術件数を減少させることがなかったのは幸いといえます。検診控え、受診控えの影響もあるのか、進行症例やイレウス、穿孔などの緊急症例の増加を実感しています。

また通常の診療業務以外にも副院長業務、病院経営、医局長業務、研修医指導、化学療法、緩和、NST、感染、クリニカルパス、災害対策等、病院全体の業務に関して外科スタッフが中心となって担当している分野が多く、より責

任感を持ち地域に貢献しなければならないと、身が引き締まる思いです。

未だCOVID-19の収束は見えず、原稿執筆現在は第6波の真っ直中であり、厳しい状態はまだまだ続くと思われませんが、スタッフ一丸となって頑張っていきたいと考えております。

同門の先生方におかれましては、今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

Kazuno Kosei Hospital

かつの厚生病院

いつも大変お世話になっております。かつの厚生病院外科の近況を報告致します。

2021年、手術件数は全手術数181件（前年：234件）、全身麻酔手術は153件（174件）、急患手術24件（14件）、腹腔鏡手術122件（136件）でした。前年から手術件数は人口減少とCovid19感染症による受診控えなどの影響を強く受けているものと考えます。その影響か、進行が進んだ癌患者さんの初診が多いこともあるせいか急患手術は増えておりました。2021年の10月に天野 総先生が大学に帰局されスタッフが3名から2名となりました。忙しい日常業務の中、小川雅彰副院長は感染対策委員も兼任されており、日々変わ

るCovid19感染の状況の中、先陣を切って力強く我々を牽引して頂いております。実際に院内からも感染者が出ており、呼吸器内科の常勤医がいない当院としては当科で感染者の治療にもあたっております。また通常の入院や化学療法などの診療も滞る局面が出てきており、担癌患者を多くみる当科としては患者さんと共に粘り強くやっているところでもあります。そんな中、佐々木章教授、肥田圭介教授、新田浩幸教授、大塚幸喜准教授、岩谷岳准教授、鈴木信准教授、天野総先生、毎週大学から当直の応援に来ていただいております先生方には心から感謝申し上げます。今後ともご指導を頂きたく存じます。

今年も積雪量が多い鹿角の厳しい冬となっております。実際に、雪下ろし中の事故や低体温患者を治療する機会もしばしばあります。高齢化が進むなか、地域のニーズ・個々の病態に

応じられるように日々診療を行っております。

Covid19感染症に打ち勝ち平穏な日常を取り戻す日も必ず来ると思いながらこの文章を書いております。またいつか先生方に直にお会いし挨拶できる日を心待ちにしております。皆様方におかれましても、どうかお体に気をつけてお過ごしください。

（文責：安藤太郎）



※写真は隣町の大館市にある、御成座という映画館（日本で2館しかないフィルムで映写している映画館）でのイベントに参加した様子です。小川先生、天野先生、私と娘で参加した技や知識を伝授してもらえるイベントに参加しました。映画好きの我々としては貴重な体験でした。

外科紹介医療機関

2021年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
青森労災病院	玉澤直樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
赤坂医院	赤坂隆之	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4
赤坂病院	赤坂俊幸	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町29-2
秋田厚生医療センター	遠藤和彦	011-0948	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
秋田市立秋田総合病院	伊藤誠司	010-0933	秋田県	秋田市	川元松丘町4-30
安部医院	安部彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ菜園内科クリニック	阿部弘一	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園2丁目5番29号 菜園志和ビル2F
あべ内科消化器科クリニック	阿部礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
飯島医院	飯島信	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼狐洞1-277
池田外科・消化器内科医院	池田健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
一関病院	佐藤隆次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
岩手医科大学附属病院(矢巾)	小笠原邦昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通ニ丁目1番1号
岩手県対がん協会 すこや館	村上晶彦	028-3390	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1-6
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩野敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田巻健治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	勝又宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立磐井病院	佐藤耕一郎	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立江刺病院	川村秀司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立大船渡病院	測向透	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	坂下伸夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立軽米病院	横島孝雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立久慈病院	川村英伸	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	遠野千尋	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	宮田剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	伊藤達朗	024-8507	岩手県	北上市	村崎町17-10
岩手県立遠野病院	郷右近祐司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	小笠原敏浩	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	吉田徹	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶽ヶ崎1-11-26
いわてリハビリテーションセンター	大井清文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田内科消化器科医院	植田修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
宇賀神内科外科	宇賀神智	322-0051	栃木県	鹿沼市	久保町1618-5
内丸病院	宮川朋久	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
内丸メディカルセンター	下沖収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1
奥州病院	佐藤直夫	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
鶯宿温泉病院	瀬川泰幸	020-0573	岩手県	岩手郡雫石町	南畑32-265

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
あ おおうち消化器内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
黄木医院	黄 木 天 輝	024-0071	岩手県	北上市	上江釣子15-60-2
大澤クリニック (医科)	大 澤 宏 之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2-8-3
大手先内科循環器クリニック	織 笠 俊 樹	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-8-9
大日向医院	高 橋 麻 依	020-0114	岩手県	盛岡市	高松2-9-9
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
岡三沢診療所	亀 田 邦 彦	033-0032	青森県	三沢市	緑町1丁目2-5
おばら内科・消化器科クリニック	小 原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
織笠内科医院	織 笠 長 俊	028-0114	岩手県	花巻市	東和町土沢8-332
か 開運橋消化器内科クリニック	遠 藤 昌 樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠 井 良 彦	024-0011	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かつら内科クリニック	桂 永 行	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
金沢大学医学部附属病院	蒲 田 敏 文	920-8641	石川県	金沢市	宝町13番1号
金子胃腸科内科	金 子 博 純	020-0403	岩手県	盛岡市	乙部13-135-3
金子クリニック	金 子 卓 司	028-0021	岩手県	久慈市	門前第2地割26番地
亀田総合病院	亀 田 俊 明	296-8602	千葉県	鴨川市	東町929番地
川上医院	川 上 格	028-0516	岩手県	遠野市	穀町1-27
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川越胃腸病院	望 月 智 行	350-0034	埼玉県	川越市	仙波町2丁目9番地2
川守田医院	川守田 安 彦	028-3309	岩手県	紫波郡紫波町	日詰駅前1-8-2
菊池俊彦内科クリニック	菊 池 俊 彦	028-0522	岩手県	遠野市	新穀町5-19
木澤内科・脳神経内科クリニック	木 澤 英 樹	027-0076	岩手県	宮古市	栄町2-5 カリヤビル5F
北秋田市民病院	神 谷 彰	018-4221	秋田県	北秋田市	下杉字上清水沢16番29号
北上済生会病院	一 戸 貞 文	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33
杏林大学医学部付属病院	市 村 正 一	181-0004	東京都	三鷹市	新川六丁目20番2号
工藤医院 (七戸町)	工 藤 裕 康	039-2832	青森県	上北郡七戸町	道ノ上63-4
栗原クリニック	土 井 秀 之	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
気仙沼市立病院	横 田 憲 一	988-0181	宮城県	気仙沼市	赤岩杉ノ沢8-2
孝仁病院	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
国保川内診療所	山 崎 総一郎	039-5200	青森県	むつ市	休所42-62
国保葛巻病院	遠 藤 秀 彦	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
国立がん研究センター中央病院	島 田 和 明	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立がん研究センター東病院	大 津 敦	277-8577	千葉県	柏市	柏の葉6-5-1
小坂内科消化器科クリニック	小 坂 崇	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1

か

さ

た

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
こずかたクリニック	川 口 雅 一	020-0839	岩手県	盛岡市	津志田南3-14-88	
このの神経内科・脳神経外科クリニック	紺 野 敏 昭	020-0632	岩手県	滝沢市	牧野林1010-4	
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1	
齋藤外科クリニック	齊 藤 穂 積	988-0066	宮城県	気仙沼市	東新城1丁目12-1	
彩の国東大宮メディカルセンター	藤 岡 丞	331-8577	埼玉県	さいたま市	北区土呂町1522	
坂の上野田村太志クリニック	田 村 太 志	024-0021	岩手県	北上市	上野町4丁目2-15	
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836	
さとう胃腸科内科	佐 藤 治	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野一丁目11-25	
佐藤循環器内科医院	佐 藤 伸 孝	021-0011	岩手県	一関市	山目町1-6-27	
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7	
澤田内科医院	澤 田 哲 伸	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-6-11	
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15	
三愛病院附属矢巾クリニック	藤 島 幹 彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2	
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2	
循環器内科 金矢クリニック	金 矢 宣 紀	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-7-7	
順天堂大学医学部附属浦安病院	田 中 裕	279-0021	千葉県	勝浦市	富岡2丁目1-1	
順天堂大学医学部附属練馬病院	児 島 邦 明	177-8521	東京都	練馬区	高野台3丁目1番10号	
湘南記念病院	井 上 俊 夫	248-0027	神奈川県	鎌倉市	笛田2-2-60	
白井眼科クリニック	白 井 淳 一	025-0098	岩手県	花巻市	材木町6-3	
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1	
紫波地域診療センター	小 野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32	
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1	
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1	
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17	
住田地域診療センター	工 藤 正一郎	029-2311	岩手県	気仙郡住田町	世田米字大崎22-1	
せいてつ記念病院	加 藤 哲 夫	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7	
聖隷浜松病院	岡 俊 明	430-8558	静岡県	浜松市	住吉2-12-12	
仙台厚生病院	畑 正 樹	980-0873	宮城県	仙台市	青葉区広瀬町4-15	
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号	
総合水沢病院	菊 池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1	
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	巢子1186-14	
高松赤十字病院	西 村 和 修	760-0017	香川県	高松市	番町4-1-3	
高松病院	高 松 正 之	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8	
滝沢中央病院	山 内 広 平	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼笹森42番地2	
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19	

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
た たにむらクリニック	谷村 武宏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
足澤整形形成外科	足澤 國男	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰中新田252-2
東京都立多摩総合医療センター	榎山 鉄矢	183-8524	東京都	府中市	武蔵台2-8-29
東北公済病院	仁尾 正記	980-0803	宮城県	仙台市	青葉区国分町二丁目3番11号
遠山病院	千葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	富澤 勇貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16 岩手教育会館1F
な なおしま医院	直島 淳太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5
中館内科クリニック	中館 一郎	025-0038	岩手県	花巻市	不動町2丁目1-4
中津川病院	高橋 進	020-0003	岩手県	盛岡市	下米内2-4-12
なかの消化器内科クリニック	中野 修	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2
ながの脳神経クリニック	長野 隆行	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田16-17-2
菜の花クリニック千厩	菅原 正磨	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字東小田90番地 千厩ジョビングモールエス7内
成田内科胃腸科医院	成田 知史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
南昌病院(帰厚堂)	木村 宗孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181
西松園内科医院	齊藤 恵子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園三丁目22番1号
日本医科大学付属病院	汲田 伸一郎	113-0022	東京都	文京区	千駄木1丁目1番5号
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野崎内科・神経内科医院	野崎 有一	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字大坊183-1
能代厚生医療センター	太田原 康成	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内
は はちのへ99クリニック	内海 謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8
八戸市立市民病院	今 明秀	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1
八戸赤十字病院	紺野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八戸平和病院(平成会)	濱田 和一郎	031-0823	青森県	八戸市	湊高台2-4-6
八幡平市立病院	瀧山 郁雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更25-328-1
花巻市石鳥谷医療センター	似内 郊雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
林整形外科・内科医院	林 節	027-0061	岩手県	宮古市	西町3-3-7
原田内科脳神経機能クリニック	原田 達男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
日高見中央クリニック	岡本 秀樹	024-0072	岩手県	北上市	北鬼柳22-46
平井医院	平井 博夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字下丸森138-2
ひらた外科内科クリニック	平田 雄大	023-1131	岩手県	奥州市	江刺区愛宕字観音堂沖401-6
平野医院	平野 繁	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山2-18-60
ひろし外科肛門科	吉田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
藤島内科医院	藤島 敏智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
富士病院	園田 紀夫	412-0043	静岡県	御殿場市	新橋1784
ふじまる内科医院	藤丸 潔	026-0301	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌町上町1-16

外科紹介医療機関

は

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
船山内科クリニック	佐藤 由香子	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町4-15	
古川星陵病院	小野 玲子	989-6155	宮城県	大崎市	古川南町3-1-3-5	
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加藤 典博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1	
プレスト齋藤外科クリニック	齋藤 純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6	
宝陽病院	後藤 振一郎	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀15-23	
堀江医院	堀江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143	
本田胃腸内科外科	本田 健一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号	
松浦脳神経外科	松浦 秀樹	024-0012	岩手県	北上市	常盤台1-21-10	
松園第二病院	石川 洋子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3	
真山池田医院	池田 富好	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通3-19-32	
三浦医院	三浦 良雄	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町2-5-21	
三田記念病院	磯野 寿育	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1	
みつわ台総合病院	中田 泰彦	264-0021	千葉県	千葉市	若葉区若松町531-486	
南東北がん陽子線治療センター	菊池 泰裕	963-8563	福島県	郡山市	八山田7丁目172	
みなみ内科クリニック	南 仁貴	024-0056	岩手県	北上市	鬼柳町荒高35-1	
見前ファミリークリニック	岩見 大二	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳12-20-1	
三本柳かんのクリニック	菅野 公德	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5	
みやもと内科クリニック	宮本 康弘	020-0143	岩手県	盛岡市	上厨川字杉原101-4	
未来の風せいわ病院	田嶋 宣行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1	
メディカルコート八戸西病院	高橋 通宏	039-1103	青森県	八戸市	長苗代字中坪77	
もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤 邦彦	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2	
もりおか往診ホームケアクリニック	木村 幸博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡3-20-3	
盛岡観山荘病院	小泉 幸子	020-0114	岩手県	盛岡市	高松4-20-40	
もりおか静眠堂医院	櫻井 伴子	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通9-5 佐川ビル2階	
盛岡市立病院	加藤 章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	久保 直彦	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡つなぎ温泉病院	関 博文	020-0055	岩手県	盛岡市	繫字尾入野64-9	
盛岡友愛病院	佐々木 達哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
や						
八角医院	阪川 肇	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2	
八角病院	八角 有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190	
山形大学医学部附属病院	佐藤 慎哉	990-9585	山形県	山形市	飯田西2丁目2-2	
やまだ胃腸内科クリニック	山田 宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31	
ゆとりが丘クリニック	高橋 邦尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541	
ら						
六ヶ所村地域家庭医療センター	松岡 史彦	039-3212	青森県	上北郡六ヶ所村	大字尾駱字野附986-4	
わ						
わたなべおしりのクリニック	渡邊 正敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	
渡辺病院（相馬郡新地町）	渡辺 泰章	979-2611	福島県	相馬郡新地町	駒ヶ嶺字原92	

獲得研究費

科学研究費助成事業

1. 2018-2021 基盤研究 (C)
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索」
研究代表者：石田 和茂 研究分担者：佐々木 章, 岩谷 岳, 小松 英明
2. 2019-2021 基盤研究 (C)
「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」
研究代表者：馬場 誠朗 研究分担者：佐々木 章
3. 2020-2022 基盤研究 (C)
「ctDNA を用いた新規大腸癌サーベイランス法の開発」
研究代表者：大塚 幸喜 研究分担者：岩谷 岳, 西塚 哲
4. 2020-2022 基盤研究 (C)
「消化器癌における症例特異的変異を用いた ctDNA モニタリングの臨床的意義の検討」
研究代表者：岩谷 岳
5. 2020-2022 基盤研究 (C)
「高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序」
研究代表者：佐々木 章 研究分担者：石垣 泰, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 石田 和之
6. 2021-2022 若手研究
「ctDNA 検査を用いた食道癌の免疫チェックポイント阻害剤の適正使用の検討」
研究代表者：二階 春香
7. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Helicobacter pylori 免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響」
研究代表者：肥田 圭介 研究分担者：西塚 哲
8. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Circulating tumor DNA 検査の臨床導入における課題点の克服」
研究代表者：遠藤 史隆 研究分担者：岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲
9. 2021-2023 基盤研究 (C)
「臓器横断的観察研究による再発形式依存性腫瘍由来血中 DNA 動態の解明」
研究代表者：西塚 哲 研究分担者：岩谷 岳, 開 勇人

その他の外部資金（奨学寄附金）

1. 大鵬薬品
「非アルコール性脂肪性肝炎患者におけるの減量・代謝改善手術後の脂肪酸代謝」
研究代表者：佐々木 章
2. 中外製薬
「ctDNA を用いた大腸癌術後新規サーベイランス法の開発」
研究代表者：岩谷 岳
3. アボットジャパン
「食道癌術後の早期経口摂取の安全性の検討」
研究代表者：秋山 有史
4. 旭化成ファーマ
「食道切除術前のサルコペニア対策は術後合併症の肺炎を減少させるか」
研究代表者：秋山 有史
5. 科研製薬
「側彎を伴った神経・筋疾患患児における腕頭動脈気管瘻の危険因子の検討」
研究代表者：鈴木 信
6. 田辺三菱製薬
「減量・代謝改善手術前後における非アルコール性脂肪性肝炎・2型糖尿病患者の脂肪酸代謝の変化」
研究代表者：梅邑 晃
7. 塩野義製薬
「乳房切除後疼痛症候群に対する術前デキサメタゾン投与の有効性の検証」
研究代表者：石田 和茂

英文論文

1. Iwaya T, Endo F, Takahashi F, Tokino T, Sasaki Y, Nishizuka SS. Frequent Tumor Burden Monitoring of Esophageal Squamous Cell Carcinoma With Circulating Tumor DNA Using Individually Designed Digital Polymerase Chain Reaction. *Gastroenterology* 2021 ; 160(1) : 463-465
2. Umemura A, Nitta H, Suto T, Fujiwara H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Ando T, Sasaki A. Indocyanine green fluorescence imaging via endoscopic nasal biliary drainage during. *J Minim Access Surg* 2021 ; 17(1) : 131-134
3. Matsuo T, Otsuka K, Kimura T, Yaegashi M, Takashimizu K, Hirata Y, Nakamura Y, Sasaki A. Laparoscopic colectomy for persistent descending mesocolon in sigmoid colon cancer: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2021 ; 78 : 307-309
4. Saiki A, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I. Background characteristics and diabetes remission after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with type 2 diabetes stratified by BMI: subgroup analysis of J-SMART. *Diabetol Int* 2021 ; 12(3) : 303-312
5. Ohta M, Seki Y, Ohyama T, Bai R, Kim SH, Oshiro T, Jiang T, Sasaki A. Prediction of Long-Term Diabetes Remission After Metabolic Surgery in Obese East Asian Patients: a Comparison Between ABCD and IMS Scores. *Obes Surg* 2021 ; 31(4) : 1485-1495
6. Takahashi N, Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Ariyoshi Y, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Sasaki A. Aggressive Laparoscopic Cholecystectomy in Accordance with the Tokyo Guideline 2018. *JLS* 2021 ; 25(1) : 1-7
7. Kakeji Y, Yamamoto H, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Miyata H, Konno H, Gotoh M, Kitagawa Y, Mori M, Seto Y. Development of gastroenterological surgery over the last decade in Japan: analysis of the National Clinical Database. *Surg Today* 2021 ; 51(2) : 187-193
8. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Kobayashi M, Sasaki A. Pure Laparoscopic Living Donor Left Lateral Sectionectomy Using Glissonean Approach and Original Bridging Technique. *Surg Laparosc Endosc Percutan Tech* 2021 ; 31(3) : 389-392
9. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Kobayashi M, Ando T, Sato A, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Laparoscopic Left Hepatectomy with Middle Hepatic Vein Resection for Hepatocellular Carcinoma with Extrahepatic Portal Vein Obstruction. *Am J Case Rep* 2021 ; 22:e928801. doi: 10.12659/AJCR.928801.
10. Endo F, Akiyama Y, Onishi M, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Cutaneous metastasis from esophageal basaloid squamous cell carcinoma: A case. *Int J Surg Case Rep* 2021 ; 80 : 105621
11. Yaegashi M, Otsuka K, Tono C, Yoshida T, Kawamura H. Realizing the Wishes of Terminal Patients: Caregiving Transport Efforts for End of Life in the Kuji Area of Japan. *Palliat Med Rep* 2021 ; 2(1) : 40-47
12. Yaegashi M, Iwaya T, Sasaki N, Fujita M, Ju Z, Siwak D, Hachiya T, Sato K, Endo F, Kimura T, Otsuka K, Sugimoto R, Sugai T, Liotta L, Lu Y, Mills G, Nakagawa H, Nishizuka S. Frequent post-operative monitoring of colorectal cancer using individualised ctDNA validated by multiregional molecular profiling. *Br J Cancer* 2021 ; 124(9) : 1556-1565
13. Sugimoto R, Habano W, Yonegawa N, Akasaka R, Toya Y, Sasaki A, Matsumoto T, Sugai T. Molecular alterations in gastric cancer and the surrounding intestinal metaplastic mucosa: an analysis of isolated glands. *Gastric Cancer* 2021 ; 24(2) : 382-391
14. Nikai H, Sasaki A, Umemura A, Takahashi N, Nitta H, Akasaka R, Kakisaka K, Kuroda H, Ishida K, Takikawa Y. Predictive scoring system for advanced liver fibrosis in Japanese patients with severe obesity. *Surg Today* 2021 ; 51(9) : 1513-1520
15. Marubashi S, Takahashi A, Kakeji Y, Hasegawa H, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Goi T, Saiura A, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Tanaka C, Hashimoto M, Hiki N, Horiguchi A, Masaki T, Yoshida K, Gotoh M, Konno H, Yamamoto H, Miyata H, Seto Y, Kitagawa Y. Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2019. *Ann Gastroenterol Surg* 2021 ; 5(5) : 639-658
16. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Sugai T, Sasaki A. Central hepatic bisectionectomy with hepatic artery and biliary tracts reconstruction for the patient with nodular type intrahepatic hilar cholangiocarcinoma: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2021 ; 82:105868. doi: 10.1016/j.ijscr.2021.105868
17. Takabe N, Tanno K, Ohmori H, Hangai M, Oda T, Hasegawa Y, Takanashi N, Sasaki R, Shimizu A, Sasaki A, Sakata K, Sasaki M, Ishigaki Y. Weight gain after 20 years of age is associated with unfavorable lifestyle and increased prevalence of metabolic disorders. *Diabetes Metab Syndr Obes* 2021 ; 14 : 2065-2075
18. Matsushita Y, Hasegawa Y, Takebe N, Onodera K, Shozushima M, Oda T, Nagasawa K, Honma H, Nata K, Sasaki A, Ishigaki Y. Serum C-X-C motif chemokine ligand 14 levels are associated with serum C-peptide and fatty liver index in type 2 diabetes mellitus patients. *J Diabetes Investig* 2021 ; 12(6) : 1042-1049
19. Iwaya T, Nishizuka SS. Reply: Circulating Tumor DNA Detection Using Digital Polymerase Chain Reaction-Promising But Needs Improvement. *Gastroenterology* 2021 ; 161(1) : 367-368

20. Kakisaka K, Sasaki A, Umemura A, Nikai H, Suzuki Y, Nishiya M, Sugai T, Nitta H, Takikawa Y. High frequency and long persistency of ballooning hepatocyte were associated with glucose intolerance in patients with severe obesity. *Sci Rep* 2021 ; 11(1) : 15392
21. Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Sasaki A. Invention of novel scoring system for reduced port laparoscopic colorectal surgery to secure surgical safety and quality: A prospective clinical trial. *Asian J Surg* 2021 ; 44(8) : 1120-1122
22. Hashimoto M, Uesugi N, Osakabe M, Yanagawa N, Otsuka K, Kajiwara Y, Ueno H, Sasaki A, Sugai T. Expression Patterns of Microenvironmental Factors and Tenascin-C at the Invasive Front of Stage II and III Colorectal Cancer: Novel Tumor Prognostic Markers. *Front Oncol* 2021 ; 11 : 690816.
23. Takahashi N, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Amano S, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Pancreatic ductal adenocarcinoma in a patient with pancreas divisum and gastrointestinal duplication cyst: a case report. *Surg Case Rep* 2021 ; 7(1) : 193
24. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Sasaki A. Pure Laparoscopic Donor Hepatectomy: Right Posterior Section Graft. *J Gastrointest Surg* 2021 ; 25(10) : 2718-2719
25. Fujisawa R, Iwaya T, Endo F, Idogawa M, Sasaki N, Hiraki H, Tange S, Hirano T, Koizumi Y, Abe M, Takahashi T, Yaegashi M, Akiyama Y, Masuda M, Sasaki A, Takahashi F, Sasaki Y, Tokino T, Nishizuka SS. Early dynamics of circulating tumor DNA predict chemotherapy responses for patients with esophageal cancer. *Carcinogenesis* 2021 ; 42(10)1239-1249
26. Yaegashi M, Otsuka K, Nakamura Y, Hatanaka T, Takashimizu K, Sasaki A. Advanced synchronous rectal and prostate cancers diagnosed by lateral lymph node dissection: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2021 ; 88 : 106494.
27. Sasaki A, Yokote K, Naitoh T, Fujikura J, Hayashi K, Hirota Y, Inagaki N, Ishigaki Y, Kasama K, Kikkawa E, Koyama H, Masuzaki H, Miyatsuka T, Nozaki T, Ogawa W, Ohta M, Okazumi S, Shimabukuro M, Shimomura I, Nishizawa H, Saiki A, Seki Y, Shojima N, Tsujino M, Ugi S, Watada H, Yamauchi T, Yamaguchi T, Ueki K, Kadowaki T, Tatsuno I. Joint Committee in the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, the Japan Society for the Study of Obesity. Metabolic surgery in treatment of obese Japanese patients with type 2 diabetes: a joint consensus statement from the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, and the Japan Society for the Study of Obesity. *Diabetol Int* 2021 ; 13(1) : 1-30
28. Shioi Y, Osakabe M, Yanagawa N, Nitta H, Sasaki A, Sugai T. Analysis of somatic copy number alterations in biliary tract carcinoma using a single nucleotide polymorphism array. *Future Sci OA* 2021 ; 8(1) : FSO766
29. Baba S, Sasaki A, Otsuka K, Umemura A, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Kimura Y. Successfully completed laparoscopic splenectomy for young woman with immune thrombocytopenic purpura during pregnancy in reduced port surgery: a case study. *Int Surg* 2021 ; in press.
30. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Kikuchi K, Kimura T, Yanari S, Sasaki A. Standardized single-incision plus one-port laparoscopic left lateral sectionectomy: a safe alternative to the conventional procedure. *Langenbecks Arch Surg* 2021 ; doi: 10.1007/s00423-021-02340-4. Online ahead of print.
31. Baba S, Akiyama Y, Endo F, Nikai H, Sugimoto R, Umemura A, Katagiri H, Hasegawa Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Sugai T, Sasaki A. Laparoscopic distal pancreatectomy for metastatic melanoma originating from the choroidal membrane: a case report. *Surg Case Rep* 2021 ; 7(1) : 268
32. Yoshimoto-Haramura T, Hidaka M, Hasegawa K, Suzumura K, Takemura N, Hama N, Mizuno T, Nomi T, Kobayashi T, Sano K, Yokomizo H, Nitta H, Kurata M, Hasegawa Y, Nagayama M, Tani M, Fukumoto T, Ohta M, Hayashi H, Taniguchi H, Ishino S, Aihara T, Murase T, Tsuchida A, Shimamura T, Marubashi S, Kaneko J, Hara T, Matsushima H, Soyama A, Endo T, Eguchi S. National survey of hepatobiliary and pancreatic surgery in hemophilia patients in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2021 ; doi: 10.1002/jhbp.1073. Online ahead of print.
33. Aoki T, Kubota K, Matsumoto T, Nitta H, Otsuka Y, Wakabayashi G, Kaneko H. Safety assessment of laparoscopic liver resection: A project study of the Endoscopic Liver Surgery Study Group of Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2021 ; 28(6) : 470-478
34. Kato H, Kamei K, Suto H, Misawa T, Unno M, Nitta H, Satoi S, Kawabata Y, Ohtsuka M, Rikiyama T, Sudo T, Matsumoto I, Okano K, Suzuki Y, Sata N, Isaji S, Sugiyama M, Takeyama Y. Incidence and risk factors of nonalcoholic fatty liver disease after total pancreatectomy: A first multicenter prospective study in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2021 ; doi: 10.1002/jhbp.1093. Online ahead of print.
35. Miyama A, Morise Z, Aldrighetti L, Belli G, Ratti F, Cheung TT, Lo CM, Tanaka S, Kubo S, Okamura Y, Uesaka K, Monden K, Sadamori H, Hashida K, Kawamoto K, Gotohda N, Chen K, Kanazawa A, Takeda Y, Ohmura Y, Ueno M, Ogura T, Suh KS, Kato Y, Sugioka A, Belli A, Nitta H, Yasunaga M, Cherqui D, Halim NA, Laurent A, Kaneko H, Otsuka Y, Kim KH, Cho HD, Lin CC, Ome Y, Seyama Y, Troisi RI, Berardi G, Rotellar F, Wilson GC, Geller DA, Soubrane O, Yoh T, Kaizu T, Han HS, Ekmekcigil E, Dagher I, Fuks D, Gayet B, Buell JF, Ciria R, Briceno J, O'Rourke N, Lewin J, Edwin B, Shinoda M, Abe Y, Hilal MA, Alzoubi M, Tanabe M, Wakabayashi G. Multicenter Propensity Score-Based Study of Laparoscopic Repeat Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma: A Subgroup Analysis of Cases with Tumors Far from Major Vessels. *Cancers (Basel)* 2021 ; 13(13) : 3187

36. Kobayashi M, Asakura R, Ehama Y, Hirayama S. Impact of Anticoagulant Therapy on Mortality for Sepsis-Associated Disseminated Intravascular Coagulation Depending on the Source of Infection. J Intensive Crit Care 2021 ; 7(3) : 621
37. Kobayashi M, Yoshida E, Kyuno T, Kawagishi R, Sato K, Kono T, Chiba T, Yonezawa H, Funato O, Takagane A. A Study on the Impact of Surgical Duration on Esophageal Cancer. Open Access Surgery 2021 ; 14 : 59-65

和文論文

1. 塩井 義裕, 石岡 秀基, 伊藤 浩平, 松谷 英樹, 大塚 幸喜. 人工肛門造設部位を用いた 単孔式腹腔鏡下人工肛門閉鎖術 —バリウムによる S 状結腸穿通術後の 1 例—. 日本内視鏡外科学会雑誌 2021 ; 26(2) : 150-153
2. 鈴木 信. 【小児外科疾患における公費負担医療の種類と申請方法】胆道拡張症. 小児外科 2021 ; 53(3) : 296-301
3. 高橋 真人, 加藤 久仁之, 西成 悠. ゲフェチニブ投与中に腸管囊腫様気腫症を発症した肺腺癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2021 ; 82(4) : 702-706
4. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 平田 勇一郎, 有吉 佑, 高橋 智子, 中村 侑哉, 畑中 智貴, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における超音波凝固切開装置の使い方とコツ. 消化器外科 2021 ; 44(4) : 409-415
5. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 平田 勇一郎, 畑中 智貴, 中村 侑哉, 有吉 佑, 高橋 智子, 佐々木 章. 双孔式結腸ストーマ造設法の定型化. 外科 2021 ; 83(5) : 636-642
6. 佐々木 章, 梅邑 晃, 高橋 真人, 屋成 信吾, 石岡 秀基, 二階 春香, 新田 浩幸. 【肥満外科 A to Z】腹腔鏡下スリーブ状胃切除術. 臨床外科 2021 ; 76(4) : 441-446
7. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐々木 章. 肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡手術成績の検証. 岩手医学雑誌 2021 ; 73(2) : 73-84
8. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 安藤 太郎, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 臍頭十二指腸切除後 17 年の挙上空腸に生じた非閉塞性腸管虚血 (NOMI) に対して外科治療で救命し得た 1 例. 手術 2021 ; 75(8) : 1345-1350
9. 木村 拓, 高原 武志, 鈴木 悠地, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 幹細胞移植における脾臓 side population 細胞の移植細胞としての有用性. 岩手医学雑誌 2021 ; 73(3) : 109-116
10. 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 有吉 佑, 畑中 智貴, 平田 勇一郎, 中村 侑哉, 高橋 智子, 伊藤 浩平, 松尾 鉄平, 佐々木 章. S 状結腸下行結腸接合部 (SDJ) 近傍の S 状結腸癌に対する手術手技. 外科 2021 ; 83(10) : 1101-1106
11. 岩谷 岳. ctDNA 検査とは. Medical Technology 2021 ; 49(10) : 1014-1015
12. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 新田 浩幸, 佐々木 章. 【Step ごとに要点解説 標準術式アトラス最新版】ヘルニア 腹壁癒痕ヘルニアに対する腹腔鏡下手術 (図説 / 特集). 臨床外科 2021 ; 76(11) : 290-296
13. 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 高橋 智子, 中村 侑哉, 畑中 智貴, 佐々木 章. 【Step ごとに要点解説 標準術式アトラス最新版】大腸 直腸癌 腹腔鏡下低位前方切除術. 臨床外科 2021 ; 76(11) : 104-110
14. 吉田 瑛司, 佐藤 慧, 千葉 文広, 船戸 治. 特殊な腸回転異常症を伴う上行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸右半切除術の 1 例. 日本外科系連合学会誌 2021 ; 46(5) : 594-598
15. 大塚 観喜, 吉田 瑛司, 口田 脩太, 佐藤 慧, 河野 剛, 計良 淑子, 高金 明典. 腹腔鏡下と前方アプローチにて完全切除した子宮内膜症併存 Nuck 管水腫の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2021 ; 82(7) : 1423-1429

著 書

1. 佐々木 章. 排液からわかる合併症と正常・異常のみかた 01 術後ドレーン. 決定版! 図解でもれなくみえる・わかる まるごと消化器ドレーン・チューブ管理 2021 ; 338 : 148-153
2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 右肝切除 (2) 前方アプローチを採用する立場から (開腹下). 新 Digestive Surgery NOW No.10 ディベートから学ぶ 手技の選択と秘訣 [肝臓編] 2021 ; 10 : 83-94
3. 鈴木 信, 村田 将人. 小児外傷. ひと晩待てない外科系当直疾患 2021 ; 176-183
4. 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 佐々木 章. 体腔外吻合 (FEEA 吻合). 手術力が必ず向上する 内視鏡外科 消化器再建術のすべて 2021 ; 180-185
5. 佐々木 章, 高原 武志. 15 移植治療 1 臓器移植 (骨髄移植, 肝移植). 歯科医師のための内科学 2021 ; 1(1) : 292-295
6. 佐々木 章. 脾臓が大きく視野展開が十分でないときの対処法. 消化器内視鏡外科手術トラブルシューティング 2021 ; 1(1) : 82-85

国際学会発表

17th St.Gallen International Breast Cancer Conference 2021, Virtual, 2021/03/17 ~ 03/21

1. Komatsu H, Ishida K, Matsui Y, Amano S, Hashimoto M, Sasaki A. Treatment strategy for locally advanced breast cancer in our department. Poster presentation

17th MESDA HPB Virtual Meeting, Thailand, 2021/03/18 ~ 03/19

1. Nitta H. How I do it Laparoscopic central hepatectomy. Lecture

MASCC/ISOO ANNUAL MEETING, Virtual, 2021/06/24 ~ 06/26

1. Komatsu H, Ishida K, Matsui Y, Amano S, Hashimoto M, Sasaki A. Study On The Effect Of Mirogabalin On Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy. Poster presentation

Indian chapter of IHPBA Advanced minimally invasive HBP surgery, India, 2021/7/17

1. Nitta H. Clamp-Crushing technique with hybrid energy device. Lecture

広東省医師会第6回肝癌学術学会, China, 2021/12/18

1. Nitta H. Clamp-Crushing technique with hybrid energy device. Lecture

国内学会発表

第13回日本ロボット外科学会学術集会, 福岡, 2021/01/23

- * 大塚 幸喜. 一般口演 02. 座長

第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 東京, 2021/02/23 ~ 02/24

1. Nitta H. The forefront in HPB surgery - the latest techniques for better visualization, more effective transection, less bleeding, less stress and lower cost. Luncheon Seminar
 2. Kanno S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Umemura A, Ando T, Sasaki A. Investigation of predictive factors of early recurrence after pancreatectomy for a Pancreas cancer. Mini Symposium
 3. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Sasaki A. Objective numerical rating scale to predict the surgical difficulty of laparoscopic liver resectio. Mini Symposium
 4. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Ando T, Sasaki A. Indocyanine green fluorescence imaging via endoscopic nasal biliary drainage reveals a stapling device is not perfect during laparoscopic deroofing of liver cysts. Poster presentation
 5. Kimura T, Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Sasaki A. A case of pancreatic tail cancer arising in a tumor-forming pancreatitis with IgG4-related autoimmune pancreatitis. Poster presentation
 6. Ando T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takahara T, Nitta H. Modified Blumgart pancreaticojejunostomy: results from a single institution. Poster presentation
 7. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Umemura A, Ando T, Kimura T, Sasaki A. Treatment with everolimus for bile duct stenosis after liver transplantation. Requested session
 8. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Sasaki A. Our current strategy for biliary reconstruction in living-donor liver transplantation. Video session
- * Nitta H. Video Session4-1. Moderators

第38回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 福岡, 2021/02/26 ~ 02/27

- * 大塚 幸喜. 一般演題 1 ストーマ合併症. 座長

第93回日本胃癌学会総会, WEB開催, 2021/03/03 ~ 03/05

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対する Nivolumab 投与による重篤な皮膚障害にステロイドの全身投与が奏効した 1 例. 一般口演
2. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 上部胃癌に対するロボット支援下腹腔鏡下胃切除術の導入期における短期成績. 一般示説

第33回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2021/03/10 ~ 03/12

1. Nishinari Y, Amano S, Kato K, Sasaki A. An experience of reduced port surgery for Laparoscopic ileocecal resection. Digital Poster

2. Suzuki M, Koyama R, Uchida Y, Ogushi K, Otake S, Yamamoto H, Shirabe K. Single-incision laparoscopic surgery for the excision of an urachal remnant. Poster presentation
 3. Umemura A, Nitta H, Nikai H, Takahashi N, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Otsuka K, Sasaki A. Current status of metabolic surgery for non-alcoholic steatohepatitis in Japan. Symposium
 4. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下肝切除術の適応と手術手技. シンポジウム
 5. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 木村 拓, 菊池 晃司, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下肝切除の現状と展望. シンポジウム
 6. Nakamura Y, Kimura T, Takashimizu K, Yaegashi M, Fujii H, Matsuo T, Hasegawa Y, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Sasaki A. The Standardized Method of Laparoscopic Total Proctocolectomy and Our Results. Digital Poster
 7. 塩井 義裕, 伊藤 浩平, 石岡 秀基, 松谷 英樹, 大塚 幸喜. 人工肛門造設部位を用いた単孔式腹腔鏡下人工肛門閉鎖術:S状結腸穿通術 後の1例. デジタルポスター
 8. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下手術の定型化へ向けた取り組み. デジタルポスター
 9. Kanno S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Umemura A, Ando T, Kimura T, Sasaki A. Laparoscopic surgery for Gallbladder carcinoma. Work Shop
 10. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Kanno S, Umemura A, Ando T, Kimura T, Kimura T, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. A formulated procedure and outcomes of the reduced port laparoscopic left lateral sectionectomy. Oral presentation
 11. Takashimizu K, Otsuka K, Nakamura Y, Yaegashi M, Fujii H, Matsuo T, Kimura T, Hasegawa Y, Takahara T, Akiyama Y, Nitta H, Sasaki A. The safety and efficacy of a preoperative weight-loss program for obese colorectal cancer patients. Oral presentation
 12. Kikuchi K, Nitta H, Ogawa M, Makabe K, Kimura T, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. Pseudomyxoma peritonei: report of two cases. Oral presentation
 13. Takahashi N, Umemura A, Ariyoshi Y, Fujiwara H, Sudo T, Ando T, Kanno S, Katagiri H, Hasegawa Y, Takahara T, Nitta H, Sasaki A. Effects of cholecystitis severity in TG18 on clinical outcomes after laparoscopic cholecystectomy. Oral presentation
 14. Fujisawa R, Iwaya T, Sasaki N, Nikai H, Endo F, Baba S, Akiyama Y, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Sugimoto R, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Curative thoracoscopic resection of stage IV esophageal adenoid cystic carcinoma: a case report. Oral presentation
 15. Takahashi T, Fujii H, Takashimizu K, Matsuo T, Kimura T, Otsuka K, Nitta H, Sasaki A. Surgical outcome of laparoscopic total proctocolectomy. Oral presentation
 16. Kimura T, Katagiri H, Ando T, Umemura A, Kanno S, Hasegawa Y, Takahara T, Nitta H, Kimura T, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. Role of a certified associate surgeon as a scopist in laparoscopic hepatectomy. Oral presentation
 17. Kimura T, Otsuka K, Matsuo T, Fujii H, Takashimizu K, Nakamura Y, Yaegashi M, Hatanaka T, Hasegawa Y, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Sasaki A. Evaluated of introduction period of robotic surgery for rectal cancer in our department. Oral presentation
 18. Akiyama Y, Koeda K, Fujisawa R, Sasaki N, Nikai H, Endo F, Baba S, Hasegawa Y, Kimura T, Takahara T, Iwaya T, Nitta H, Otsuka K, Sasaki A. Short-term outcomes of totally laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy for early gastric cancer. Oral presentation
 19. 秋山 有史, 岩谷 岳, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対するロボット支援下食道切除術の導入期における短期成績. 一般示説
 20. Nishinari Y, Amano S, Kato K, Sasaki A. An experience of reduced port surgery for Laparoscopic ileocecal resection. Oral presentation
 - * 佐々木 章. Educational Lecture 12 肥満 2 型糖尿病に対する外科手術の方向性 ~更なる適応拡大を見据えて~. 司会
 - * 佐々木 章. ワークショップ 26 わが国における肥満外科手術. 司会
 - * 秋山 有史. 食道 術後合併症. 司会
 - * 新田 浩幸. 一般演題 30 肝臓:手術手技 2. 司会
 - * 新田 浩幸. シンポジウム 10 腹腔鏡下肝切除術と展望. 司会
 - * 大塚 幸喜. シンポジウム 22 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の有用性と治療成績. 司会
 - * 大塚 幸喜. Educational Lecture 11 3D で極める腹腔鏡下大腸がん手術 ~解剖からピットフォール対策まで~. 司会
- 第 57 回日本腹部救急医学会総会, WEB 開催, 2021/03/11 ~ 03/12**
1. 有末 篤弘, 岩崎 崇文, 高橋 正統, 大山 健一, 杉村 好彦. 炎症反応が乏しい上行結腸穿孔を伴った後腹膜血腫の 1 例. 一般口演
 - * 大塚 幸喜. 一般演題 28 大腸 7. 司会

第 41 回日本肥満学会・第 38 回日本肥満症治療学会学術集会, WEB 開催, 2021/03/20 ~ 03/21

1. 佐々木 章, 益崎 裕章, 山内 敏正, 野崎 剛弘, 島袋 充生, 庄嶋 伸浩, 笠間 和典, 齋木 厚人, 岡住 慎一, 植木 浩二郎, 門脇 孝, 龍野 一郎. 減量・代謝改善手術の導入要件と適応基準. シンポジウム
2. 佐々木 章. 川村賞 メタボリックサージェリーの普及と患者・内科治療への還元. 特別講演
3. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 石垣 泰, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 石岡 秀基, 大塚 幸喜, 岩谷 岳, 秋山 有史, 木村 聡元, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 術前減量効果から見た最適な腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の施行時期. パネルディスカッション

第 121 回日本外科学会定期学術集会, WEB 開催, 2021/04/08 ~ 04/10

1. 石岡 秀基, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の口腔内・腸内細菌叢の変化と減量・代謝改善効果. サージカルフォーラム
 2. 藤澤 良介, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 佐々木 教之, 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 開 勇人, 小泉 優香, 阿部 正和, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 井戸川 雅史, 新田 浩幸, 佐々木 章, 佐々木 泰史, 時野 隆至, 西塚 哲. Circulating tumor DNA の初期変動を用いた食道癌化学療法効果予測に関する検討. サージカルフォーラム
 3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 有吉 佑, 木村 拓, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 生体肝移植後胆道狭窄症に対する予防と対策. サージカルフォーラム
 4. 梅邑 晃, 二階 春香, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における肥満 2 型糖尿病の長期改善効果と膵β細胞機能. パネルディスカッション
 5. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 高齢者食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の手術成績. ポスター
 6. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 有吉 祐, 木村 拓, 佐々木 章. 肝内胆管癌に対する手術適応の現状. ポスター
 7. 石田 和茂, 清川 真緒, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 佐々木 章. 当科における乳癌術前 CT の意義に対する検討. ポスター
 8. 二階 春香, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 日本人高度肥満患者における高度肝線維化予測因子の検討. ポスター
 9. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 中村 侑哉, 松尾 鉄平, 平田 勇一郎, 畑中 智貴, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科におけるロボット支援下直腸手術の短期成績. ポスター
 10. 木村 拓, 高原 武志, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 脾臓 Side population 細胞の幹細胞移植細胞としての利用. ポスター
 11. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 天野 総, 橋元 麻生, 佐々木 章. 当科における Stage IIIc 乳癌の治療戦略. ワークショップ
 12. 屋成 信吾, 梅邑 晃, 二階 春香, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 閉塞性睡眠時無呼吸に対する減量・代謝改善手術の効果. 一般口演
- * 佐々木 章. パネルディスカッション 15 metabolic syndrome に対する外科治療の現状と展開. 司会
- * 大塚 幸喜. サージカルフォーラム (083) 大腸 - 鏡視下手術 3. 司会

第 110 回日本病理学会総会, 東京, 2021/04/22 ~ 04/24

1. 橋元 麻生, 上杉 憲幸, 杉本 亮, 永塚 真, 西谷 匡史, 刑部 光正, 柳川 直樹, 大塚 幸喜, 菅井 有. 進行大腸癌浸潤先進部の癌微小環境下における癌細胞と癌間質の臨床病理学のおよび 分子病理学的検討. 一般口演

第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2021/04/23 ~ 04/25

1. 佐々木 章, 梅邑 晃, 屋成 信吾, 新田 浩幸, 西島 嗣生, 櫻井 滋. OSA に対する減量・代謝改善手術. シンポジウム

第 58 回日本小児外科学会学術集会, 横浜, 2021/04/28 ~ 04/30

1. 小林 めぐみ, 早野 恵, 鈴木 信, 土屋 繁国, 鳥谷 由貴子, 松本 敦, 平井 みさ子, 矢内 俊裕, 佐々木 章. 超低出生体重児の先天性横隔膜ヘルニアに対する至適手術時期の検討. ポスター
2. 田金 恵, 小林 めぐみ, 安藤 太郎, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 平井 みさ子, 矢内 俊裕, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝細胞腺腫に対して用手補助腹腔鏡下肝右葉切除術を施行した 1 例. オンデマンド発表

第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会, WEB 開催, 2021/05/20 ~ 05/22

1. 佐々木 章. 肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関するコンセンサスステートメントとその意義. シンポジウム

第 19 回日本ヘルニア学会学術集会, 東京, 2021/05/21 ~ 05/22

1. 石橋 正久, 瀬川 武紀, 松井 雄介, 御供 真吾. 嵌頓ヘルニアに対する緊急手術でのメッシュ留置に関する検討. ワークショップ

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, WEB 開催, 2021/06/02 ~ 06/03

1. Kikuchi K, Nitta H, Kimura T, Makabe K, Takeda D, Umemura A, Kanno S, Katagiri H, Sasaki A. A Solid-Pseudopapillary Neoplasm discovered by gastrointestinal bleeding. Oral presentation
2. Kanno S, Nitta H, Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Kimura T, Kikuchi K, Sasaki A. Feasibility of surgical procedure for location of S8 / S7. Oral presentation

3. Kimura T, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Kikuchi K, Sasaki A. Utilization of spleen side population cells as transplant cells in stem cell transplantation. Oral presentation
 4. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Sasaki A. Laparoscopic left hepatectomy with middle hepatic vein resection for hepatocellular carcinoma with extrahepatic portal vein obstruction. Poster presentation
 5. Takeda D, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Makabe K, Kimura T, Kikuchi K, Sasaki A. Usefulness of laparoscopic hepatectomy for tumors in contact with and between hepatic vein roots. Video session
 6. Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Kimura T, Kikuchi K, Sasaki A. Standardized single-incision plus one port laparoscopic left lateral sectionectomy for zero morbidity. Oral presentation
 7. Makabe K, Katagiri H, Kikuchi K, Kimura T, Takeda D, Umemura A, Kanno S, Nitta H, Sasaki A. Technical improvement in modified Blumgart anastomosis for pancreaticoduodenectomy in our institution. Oral presentation
 8. Yoshida E. Anatomic analysis of the left renal artery course that can be the pitfalls in distal pancreatectomy. Poster presentation
- * Nitta H. Video Symposium 2. Moderators

第46回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2021/06/17 ~ 06/19

1. 石岡 秀基, 塩井 義裕. 急性虫垂炎に対する保存治療中に虚血性腸炎を発症した1例. 一般口演
 2. 棚橋 洋太, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 天野 怜, 中村 聖華, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. Peutz-Jeghers 症候群を背景に腸重積を発症した1例. 一般口演
 3. 奥津 美里, 畑中 智貴, 藤井 仁志, 伊藤 千絵, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 川村 英伸. 総胆管結石採石時のバスケット嵌頓に対し緊急開腹手術を施行した1例. 研修医口演
 4. 岩崎 崇文, 杉村 好彦, 有末 篤弘, 高橋 正統, 大山 健一. 繰り返すイレウスを契機に発見された原発不明の膵・消化管神経内分泌腫瘍の1例. 研修医口演
 5. 口田 脩太, 佐藤 慧, 石崎 力久, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 遊離大腿筋膜張筋・前外側大腿皮弁を用いて腹壁再建を行った人工肛門直下大腸癌の1例. 研修医口演
 6. 大塚 観喜, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 佐藤 慧, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 術前補助化学療法が著効した, 局所進行盲腸癌の一例. 研修医口演
 7. 高橋 真人, 梅邑 晃, 二階 春香, 屋成 信吾, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 安全な腹腔鏡下スリープ状胃切除術実施を目指した周術期の多職種連携. 要望演題
- * 佐々木 章. 教育講演 COVI-19: 手術患者における対策と特徴的な病態. 座長

第39回日本肝移植学会学術集会, WEB開催, 2021/06/24 ~ 07/30

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 佐々木 章. 完全腹腔鏡下ドナー肝切除の短期成績とそのラーニングカーブ ~悪性腫瘍に対する完全腹腔鏡下肝葉切除と比較して~. ワークショップ
 2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 菊地 晃司, 佐々木 章. 当科における脳死肝移植マージナルドナーの肝移植成績. ワークショップ
 3. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 佐々木 章. 門脈分岐異常生体ドナーからの門脈血栓症例に対する生体肝移植術の門脈分岐部再建時に自己肝静脈グラフトを用いた1例. 一般演題
 4. 新田 浩幸. 全部見せます・魅せます! 腹腔鏡下ドナー肝切除の実際. 共催セミナー
- * 新田 浩幸. ワークショップ6 低侵襲ドナー手術の成績と展望. 司会

第29回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2021/07/01 ~ 07/03

1. 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章. エリブリン治療における予後因子としてのリンパ球絶対数, 好中球/リンパ球比の有用性の検討. ミニポスター
2. 小松 英明, 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 川岸 涼子, 佐々木 章. 当科における乳癌既発症者へのBRACAnalysis[®]の経験と施行症例に関する検討. 一般口演
3. 石田 和茂, 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 小松 英明, 佐々木 章. Abemacicrib 初回投与で重篤な血小板減少をきたした2例. e-Poster
4. 清川 真緒, 川岸 涼子, 米澤 仁志, 早川 善郎. 脊髄圧迫症状を伴う乳癌骨転移に対し後方除圧術が有効であった1例. 一般口演
5. 川岸 涼子, 清川 真緒, 米澤 仁志, 早川 善郎. 当院における進行再発乳癌に対するCDK4/6阻害剤の有用性と安全性の検討. 一般口演

第30回日本小児泌尿器科学会学術集会, 大阪, 2021/07/02 ~ 07/04

1. 小林 めぐみ, 鈴木 信, 田金 恵, 小野寺 千夏, 古川 ひろみ, 石川 健, 矢内 俊裕, 佐々木 章. 新生児期に急性腎後性腎不全を発症し外科的治療を要した先天性中部尿管狭窄症の1例. 一般口演

第76回日本消化器外科学会総会, 京都, 2021/07/07 ~ 07/09

1. 大塚 幸喜. 守破離 ~大腸技術認定医取得の意義とコーチング~. ランチョンセミナー
2. 屋成 信吾, 梅邑 晃, 二階 春香, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の呼吸機能に対する効果. 一般演題

3. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 八重樫 瑞典, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術において肥満が短期手術成績に及ぼす影響の検討. 一般演題
4. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 木村 拓, 菊地 晃司, 屋成 信吾, 佐々木 章. Safety and Feasibility of Pancreatic Surgery for Pancreatic Cancer in Elderly Patients. 一般演題
5. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 平田 勇一郎, 畑中 智貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 切除可能な局所進行直腸癌における術前オキサリプラチンベース化学療法の有効性の検討. 一般演題
6. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胸腔鏡下食道切除術後の胸水貯留に対する積極的左胸腔ドレナージの必要性の検討. 一般口演
7. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 上部胃癌に対するロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術の導入期における短期成績. 一般口演
8. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. BR 膵癌に対する術前補助化学療法の現状. 主題関連演題
9. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行食道癌に対する DCF 療法による術前化学療法の効果. 主題関連演題
10. 木村 拓, 新田 浩幸, 佐々木 章. 脾臓 Side population 細胞の凍結保存耐性の検証. 専攻医セッション
11. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 木村 拓, 菊地 晃司, 屋成 信吾, 佐々木 章. 合併症予防のための定型化された Blumgart 変法. 要望演題ビデオ
12. 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船戸 治, 小林 慎, 高金 明典. 晩期合併症から考える, 人工肛門閉鎖術における閉鎖法の検討. 一般口演
13. 佐藤 慧, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船戸 治, 小林 慎, 高金 明典. 当院における局所進行直腸癌に対する術前治療の治療成績. 一般口演
 - * 佐々木 章. 要望演題 ロボット支援手術におけるデバイス選択の工夫 JSJGS. 座長
 - * 秋山 有史. 一般演題 226 消化器全般: ヘルニア 4. 座長
 - * 新田 浩幸. 主題関連演題 14 【肝】肝区域切除術の手法と工夫～開腹から腹腔鏡・ロボット支援手術～. 座長
 - * 大塚 幸喜. 要望演題ビデオ 11 【大腸】脾彎曲部結腸癌に対する手術アプローチ. 座長

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 神戸, 2021/07/21 ~ 07/22

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対する ERAS による周術期管理の取り組み. 一般口演

第 57 回日本移植学会総会, 東京, 2021/09/18 ~ 09/20

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 小島 正之, 佐々木 章, 須田 康一. 完全腹腔鏡下ドナー肝切除の短期成績とそのラーニングカーブ. シンポジウム
2. 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 眞壁 健二, 天野 怜, 菊地 晃司, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝臓手術後における Muse 細胞の動態. 一般口演

第 75 回日本食道学会学術集会, 東京 (ハイブリッド開催), 2021/09/23 ~ 09/24

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援下食道切除術の導入と短期治療成績. ポスター
2. 田金 恵, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 岩谷 岳, 杉本 亮, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 菅井 有, 佐々木 章. 食道癌盲腸転移の一例. ポスター
3. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 佐々木 教之, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における食道癌に対する Nivolumab の使用経験. 一般口演
 - * 秋山 有史. ポスター 54 症例 GIST・平滑筋腫. 座長

第 80 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2021/09/30 ~ 10/02

1. 小泉 優香, 西塚 哲. 進行胃癌患者におけるヘリコバクター・ピロリ菌感染による宿主免疫の活性化と予後の改善. ポスター
2. 岩谷 岳, 西塚 哲. 食道癌患者診療における digital PCR を用いた ctDNA モニタリング. 一般口演
3. 橋元 麻生, 上杉 憲幸, 刑部 光正, 柳川 直樹, 梶原 由規, 上野 秀樹, 菅井 有. ステージ II および III 期大腸癌における浸潤先進部の微小環境因子の発現パターンと Tenascin-C 発現の有用性に関する解析. 一般口演

第 59 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2021/10/21 ~ 10/23

1. 藤社 勉, 石黒 保直, 吉田 徹. 術前化学療法で pCR を得たにもかかわらず骨髄腫腫症で早期再発した乳癌の一例. ポスター
2. 平田 勇一郎, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 中村 侑哉, 高清水 清治, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 佐々木 章. 直腸癌術後再発に対する放射線治療後に腫瘍崩壊症候群をきたした 1 例. ポスター
 - * 新田 浩幸. 一般口演 5 胆嚢・胆道 基礎・手術療法・薬物療法. 座長

第 29 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 神戸, 2021/11/04 ~ 11/07

1. Umemura A, Nitta H, Sasaki A. Current status and necessity of new evidences about metabolic surgery from Japan. International Session
2. 石橋 正久, 瀬川 武紀, 松井 雄介, 御供 真吾. 直腸癌に対する腹腔鏡手術の治療成績 開腹手術との比較検討. ポスター
3. 石黒 保直, 藤社 勉, 川島 到真, 鳥居 拓磨, 細井 信之, 阿部 薫, 菅原 有子, 吉田 徹. 胃全摘後に食道裂孔の狭窄により挙上空腸の通過障害をきたした 1 例. 一般口演
4. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 高清水 清治, 平田 勇一郎, 中村 侑哉, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 直腸癌の一時的な回腸人工肛門造設後の腎機能障害とストーマ排液量の関係. 一般口演
- * 佐々木 章. International Session(Panel Discussion)2 肥満症・糖尿病に対する内視鏡的治療. 司会
- * 大塚 幸喜. デジタルポスターセッション 21(消化器外科学会)大腸(内視鏡下手術(悪性))1. 座長
- * 新田 浩幸. デジタルポスターセッション 46(消化器外科学会)肝臓(手術治療(悪性))2. 座長

第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会, 広島 (ハイブリッド開催), 2021/11/12 ~ 11/13

- * 大塚 幸喜. 一般演題(口演)45 外科 27 肥満症例に対する腹腔鏡手術. 座長

第 83 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2021/11/18 ~ 11/20

1. 天野 怜, 片桐 弘勝, 菊地 晃司, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡手術で切除し得た脾内副脾に生じた上皮性嚢胞の 3 例. ポスター
2. 鈴木 信, 田金 恵, 小林 めぐみ, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 岩手県における小児外科医療の現状. シンポジウム
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 天野 怜, 眞壁 健二, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 佐々木 章. 当科における肝移植後悪性疾患の検討. パネルディスカッション
4. 高橋 真人. 膵管腺癌を発症した分裂膵・胃重複嚢胞合併症例に対して根治手術を施行した一例. 一般口演
5. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下腹腔鏡下幽門側胃切除術の短期治療成績. 一般口演
6. 大塚 観喜, 木村 聡元, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 佐藤 慧, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 当院におけるロボット支援下直腸手術導入の一例. 特別講演
7. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対する多職種チーム介入による周術期管理の現状. 要望演題
8. 清川 真緒, 佐藤 慧, 大塚 観喜, 口田 脩太, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 木村 聡元, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 長期生存が期待できる直腸大細胞神経内分泌癌の一例. 一般口演
9. 口田 脩太, 佐藤 慧, 大塚 観喜, 清川 真緒, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 木村 聡元, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 外科研修中に経験した AYA 世代女性の直腸癌終末期の 1 例. 特別講演
10. 畑中 智貴, 中村 侑哉, 佐々木 秀策, 藤井 仁志, 皆川 幸洋, 川村 英伸. 巨大総胆管結石破砕時に ML の破損・迷入を来した緊急開腹手術を要した 1 例. 一般演題
11. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 天野 怜, 高原 武志, 長谷川 康, 佐々木 章. 教室における腹腔鏡下外側区域グラフト採取術の定型化と臨床成績. 要望演題
12. 石井 勇吾, 秋山 有史, 田金 恵, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 舌下神経麻痺による構音障害を契機に発見された骨転移を伴う進行胃癌の一例. 一般口演
13. 田金 恵, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 石井 勇吾, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. W-ED tube による減圧および栄養管理が有用であった特発性食道破裂術後縫合不全の一例. 一般示説
- * 佐々木 章. ビデオパネルディスカッション 肥満手術の実際. 司会
- * 大塚 幸喜. 私はこうして取りました ~女性外科医視点からの 大腸技術認定医~. 司会
- * 新田 浩幸. 要望演題(ビデオ)肝移植ドナーに対する手術手技. 座長

第 13 回日本 AcuteCareSurgery 学会学術集会, 長崎, 2021/11/26 ~ 11/27

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 櫻庭 実, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 天野 怜, 菊地 晃司, 佐々木 章. チーム医療で対応する肝胆膵・移植外科領域での動脈再建. 一般演題
2. 天野 怜, 菊地 晃司, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院で施行した Denver 型腹腔-静脈シャント留置後の DIC 治療. 一般口演
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 天野 怜, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 佐々木 章. 肝胆膵領域周術期の門脈血栓症に対するアンチトロンピンⅢ製剤とエドキサパンを用いた治療戦略. 一般口演
- * 佐々木 章. 一般演題 9 general surgery 胸部・鏡視下. 座長

第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 神戸, 2021/12/02 ~ 12/04

1. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援下食道切除術の短期治療成績. ミニオーラル

2. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃全摘術後のOverlap 再建の治療成績. ミニオーラル
3. 石井 勇吾, 秋山 有史, 田金 恵, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌リンパ節再発と胃 GIST との鑑別を要した小網原発 GIST の一例. ミニオーラル
4. 田金 恵, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 石井 勇吾, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 成人特発性胃軸捻転に対して腹腔鏡下胃固定術、胃瘻造設術を施行した一例. ミニオーラル
5. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術の導入と今後の課題. ミニオーラル
6. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 天野 怜, 眞壁 健二, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 下大静脈右縁での肝挙上操作を用いた前方アプローチによる腹腔鏡下肝右葉切除. ミニオーラル
7. 石橋 正久, 棚橋 洋太, 西成 悠. 当院における Laparoscopic Hartmann Reversal 手術の治療成績. 一般口演
8. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 鈴木 信, 佐々木 章. 日本人高度肥満症患者の肝生検の病理組織学的検討から見た新たな知見とその意義. シンポジウム
9. 鈴木 信, 田金 恵, 小林 めぐみ, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 調 憲, 佐々木 章. 膣下部孤状切開による単孔式尿管切除術. シンポジウム
10. 橋元 麻生, 片桐 弘勝, 菊地 晃司, 天野 怜, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 膣内副脾に生じた上皮性嚢胞に対し、腹腔鏡下脾切除術を施行した 4 症例. ミニオーラル
11. 二階 春香, 梅邑 晃. 肥満症外科手術認定施設における肥満関連健康障害を改善させる取り組み. ワークショップ
12. 川島 到真, 石黒 保直, 藤社 勉, 阿部 薫, 吉田 徹. Larrey 孔ヘルニアによる胃の通過障害に対し内視鏡下整復後に待機的腹腔鏡下修復術を施行した高齢者の 1 例. 一般口演
13. 伊藤 浩平, 大塚 幸喜, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 神経線維腫症 1 型に合併し、増大傾向を認めた虫垂神経線維腫の 1 例. 一般口演
14. 奥津 美里, 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 高清水 清治, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 直腸癌に対する側方郭清によって診断された前立腺癌の 1 例. 一般口演
15. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 天野 怜, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 肥満患者に対する腹腔鏡下肝切除術の手術成績. 一般口演
16. 高橋 真人, 梅邑 晃, 二階 春香, 屋成 信吾, 石岡 秀基, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術が血中ケトン体濃度に与える影響. 一般口演
17. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 奥津 美里, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における難易度予測指標の構築. 一般口演
18. 石岡 秀基, 塩井 義裕, 遠野 千尋. 下血による高度貧血で発症した直腸肛門部悪性黒色腫に対して腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した 1 例. 一般口演
19. 大塚 幸喜. 第 26 回 教育セミナー 2 大腸 技術認定審査のポイントと最近の傾向. 教育セミナー
20. 天野 怜, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 肝静脈根部に挟まれるように近接する腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除の有用性・安全性に関する検討. 一般口演
21. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 高清水 清治, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 奥津 美里, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下低位前方切除後の縫合不全を防ぐ術中の工夫とこだわり. 一般口演
22. 有吉 佑, 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 奥津 美里, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 低位前方切除術後縫合不全に対する腹腔鏡下手術の検討. 一般口演
23. 鈴木 信, 田金 恵, 小林 めぐみ, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 調 憲, 佐々木 章. 年齢・膀胱容量が気膀胱下膀胱尿管新吻合術に与える影響. 一般口演
24. 梅邑 晃, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 石岡 秀基, 新田 浩幸, 鈴木 信, 岩谷 岳, 秋山 有史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の治療効果からみた MAFLD の発症メカニズムと脂肪酸代謝の関連について. 特別企画
25. 佐々木 章, 梅邑 晃, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 石岡 秀基, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術の現状、課題と今後の展望. パネルディスカッション
26. 畑中 智貴, 中村 侑哉, 佐々木 秀作, 藤井 仁志, 川村 英伸. 腹腔鏡下に切除した膀胱癌結腸・胃転移の 1 例. ミニオーラル
 - * 佐々木 章. シンポジウム 4 肥満外科手術の最新のエビデンス. 司会
 - * 佐々木 章. 特別企画 1 わが国における肥満外科手術の基礎・臨床研究. 司会
 - * 新田 浩幸. シンポジウム 7 高難度腹腔鏡肝切除のための工夫 1. 司会
 - * 鈴木 信. Mini Oral 71 小児泌尿器・生殖器. 司会
 - * 大塚 幸喜. パネルディスカッション 15 横行結腸・脾彎曲部・下行結腸癌に対する郭清手技と治療成績 1 横行結腸. 司会
 - * 大塚 幸喜. Mini Oral 189 技術認定. 司会
 - * 梅邑 晃. パネルディスカッション 13 肥満外科手術の次世代への継承. 司会

講演会・研究会・セミナー

第 49 回 Nagasaki Digestive Organ Cancer Chemotherapy フォーラム, WEB 開催, 2021/01/08

1. 佐々木 章. メタボリックサージェリー ～わが国のエビデンスとトピックス～. 特別講演

第 29 回日本癌態治療研究会, 高崎, 2021/01/14 ~ 01/15

1. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. 食道癌患者の日常診療における circulating tumor DNA モニタリング. ワークショップ

東北外科漢方フォーラム, 仙台, 2021/02/05

1. 大塚 幸喜. 大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで -. web 講演

がんの教育講演会, 盛岡, 2021/02/15

1. 大塚 幸喜. がんになっても元気で生き残るためには - 大腸がんの治療を中心に -. 教育講演

第 1 回北東北 LAC セミナー, WEB 開催, 2021/02/19

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の技術認定医試験対策 - いかにか合格するか、させるか -. 特別講演

岩手肥満症・糖尿病ウィンターセミナー, WEB 開催, 2021/2/27

1. 梅邑 晃. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術患者におけるリビドミクス解析による新規サロゲートマーカーの探索. 一般講演
- * 佐々木 章. 一般講演 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術におけるリビドミクス解析による新規サロゲートマーカーの探索. 司会
- * 佐々木 章. 特別講演 ヒトに近い NASH モデル動物の開発と新しい分野技術の病態解析への応用. 司会

第 21 回腹腔鏡内視鏡合同手術研究会, WEB 開催, 2021/03/05

- * 秋山 有史. テーマ 1 苦労した症例～もったこうしなかった! どのように工夫すべきだったのか?. 司会

第 18 回日本乳癌学会東北地方会, WEB 開催, 2021/03/06 ~ 03/31

1. 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 小松 英明, 佐々木 章. 乳房全切除術に難渋した神経線維腫症 1 型 (レックリンハウゼン病) の 1 例. 一般口演
2. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 天野 総, 橋元 麻生, 佐々木 章. 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する診療体制. シンポジウム
3. 橋元 麻生, 岩崎 崇文, 有末 篤弘, 高橋 正統, 大山 健一, 一戸 克明, 杉村 好彦, 佐々木 章. プレドロン酸およびデノスマブの長期投与が原因と考えられた非定型大腿骨骨折の一例. 若手セッション
- * 小松 英明. シンポジウム 1 「遺伝性乳癌診療の現状と課題 1」. 座長

第 215 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2021/03/20

1. 鈴木 信. これまでの 20 年と北東北でのこれからの 20 年の取り組み. 特別講演

第 8 回兵庫若手腹腔鏡手術研究会, 神戸, 2021/03/23

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸・直腸切除術 - 認定医取得のためのコツ -. ハイブリット講演

外科分子細胞治療研究会, 幕張, 2021/04/09

1. 岩谷 岳. 食道癌日常診療における血漿中循環腫瘍 DNA モニタリングシステムの開発. 紙面掲載

Professional Training for Lap LAR リモートハンズオン, 盛岡, 2021/04/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下直腸切離の実際 - 計画的 2 回切離と間膜処理 -. web 講演

第 12 回肥満症総合治療セミナー, WEB 開催, 2021/05/14 ~ 05/15

1. 梅邑 晃. 合併症とその対処法. 招待講演
2. 佐々木 章. 日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会コンセンサスステートメント. 招待講演
- * 佐々木 章. モーニングセミナー. 座長

第 75 回手術手技研究会, 三島, 2021/05/14 ~ 05/15

1. 木村 拓, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 菊池 晃司, 木村 聡元, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における外科専攻医スコーピストに対する採点式評価表の効果. ポスター
2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 眞壁 健二, 木村 拓, 菊池 晃司, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 生体肝移植後胆道狭窄症ゼロを目指した手術手技. ポスター
3. 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 佐々木 章. 縫合不全ゼロを目指した腹腔鏡下低位前方切除術. エキスパートビデオ
4. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 眞壁 健二, 天野 怜, 菊池 晃司, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術の適応と手術手技の変遷. 主題

第 32 回内視鏡外科フォーラム in 福島, WEB 開催, 2021/05/22

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 菊池 晃司, 佐々木 章. Single-incision plus one port による腹腔鏡下肝外側区域切除術. 一般口演

2. 大塚 幸喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 有吉 佑, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 畑中 智貴, 中村 侑哉, 高橋 智子, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術の教育 - 東北から多くの技術認定医を輩出するためには - 指定演題
3. 秋山 有史, 岩谷 岳, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 田金 恵, 片桐 弘勝, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫とロボット支援下手術の可能性. 一般口演

第 15 回隣癌術前治療研究会, 奈良, 2021/05/29

1. 武田 大樹, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 木村 拓, 佐々木 章. 当科における BR 肺癌に対する術前補助化学療法の評価. 要望演題

第 3 回ラバロ FUKUSHIMA One Team セミナー, 郡山, 2021/05/29

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の技術認定医試験対策. 講演

エビデンスを重視した肥満 2 型糖尿病治療を考える会, WEB 開催, 2021/06/08

1. 佐々木 章. 肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術: エビデンスとセレンディピティ. 特別講演

第 179 回東北外科集談会, WEB 開催, 2021/06/12 ~ 06/12

1. 石岡 秀基, 塩井 義裕. 外科的切除により確定診断し得た胸囲結核の 1 例. 一般口演
2. 奥津 美里, 畑中 智貴, 藤井 仁志, 伊藤 千絵, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 川村 英伸. 魚骨誤飲による小腸穿孔に対し緊急手術を行った 1 例. 一般口演
3. 秋山 有史. 上部消化管 2. ディスカッション

岩手腫瘍免疫研究会, 盛岡, 2021/06/18

1. 二階 春香. 当院における消化器領域 (胃・食道) での Nivolumab の使用経験. 一般口演

第 13 回いわて肥満症治療セミナー, WEB 開催, 2021/06/22

- * 佐々木 章. 特別講演 糖負荷試験でみた減量・代謝改善手術後のインスリン分泌能および耐糖能の推移. 座長

CRC Interactive web seminar (Lilly), 盛岡, 2021/07/02

1. 八重樫 瑞典. 大腸癌治療の変遷と治療選択について. 講演

第 166 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会, WEB 開催, 2021/07/03

1. 二階 春香, 秋山 有史, 佐々木 章. 当院における Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery (LECS) の現状と課題. パネルディスカッション

第 146 回岩手医学会 (春季) 総会, 盛岡, 2021/07/4

- * 佐々木 章. 特別講演 腎臓病をめぐる公的研究の成果と展開. 座長
- * 佐々木 章. 特別講演 呼吸器外科診療における昨今の動向. 座長

第 36 回岩手ストーマ研究会, WEB 開催, 2021/07/10

1. 木村 拓, 箱崎 将規, 斎藤 匠, 石川 徹, 坂下 伸夫, 佐藤 一, 清水端 光子, 平野 涼子, 田中 康平, 清水 佳子. 当院でのストーマケアに難渋した 3 例〜ストーマ記録用紙を活用した手技の統一〜医師の視点から. 一般口演
- * 高清水 清治. 一般演題. 座長

中外 e セミナー (中外製薬), 盛岡, 2021/07/14

1. 八重樫 瑞典. 大腸癌における今日のがんゲノム医療. 講演
2. 高清水 清治. 当院における大腸癌治療. 講演

第 57 回日本肝癌研究会, 鹿児島, 2021/07/22 ~ 07/23

1. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 天野 怜, 菊地 晃司, 秋山 有史, 岩谷 岳, 佐々木. 腹腔鏡下肝切除の手術適応と課題. パネルディスカッション

第 17 回岩手甲状腺研究会, WEB 開催, 2021/07/24

- * 佐々木 章. 特別講演 甲状腺癌の治療 手術の薬物療法の変遷 今後の展望もふまえて. 座長

がん悪液質治療セミナー, WEB 開催, 2021/07/27

1. 秋山 有史. 消化器がん患者の栄養サポート. 特別講演
- * 新田 浩幸. Discussion がん患者の栄養管理と食欲に関して. 司会
- * 佐々木 章. 特別講演 消化器がん悪液質に対する新規治療法. 座長

第 23 回岩手内視鏡外科研究会, WEB 開催, 2021/07/31

- * 佐々木 章. 特別講演 AI がもたらす消化器外科手術のイノベーション. 座長

第 74 回道南医学会大会, 函館, 2021/08/19

1. 木村 聡元. 当院におけるロボット支援下直腸癌手術の導入と実際. 一般口演

第 10 回 E-Lap Remote Seminar, WEB 開催, 2021/08/21

1. 大塚 幸喜. 技術認定医試験対策 - 内側アプローチと直腸授動を極める -. web 講演

Japan Cancer Forum 2021, 東京, 2021/08/22

1. 岩谷 岳. 食道がん超高感度治療後ナビゲーション. 招待講演

第 7 回腹部集中治療研究会, WEB 開催, 2021/08/26

1. 天野 怜, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. Denver 型腹腔 - 静脈シャントに関連した DIC 治療. 一般口演
- * 佐々木 章. Denver 型腹腔 - 静脈シャントに関連した DIC 治療. 座長
- * 佐々木 章. 急性肝不全, DIC として発症した悪性リンパ腫の 1 剖検例. 座長

第 48 回日本瘻切研究会, WEB 開催, 2021/08/27 ~ 08/28

1. 吉田 瑛司, 船渡 治, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 文広, 木村 聡元, 米澤 仁志, 小林 慎, 高金 明典. 瘻切除トレーニングとしての想定手術記録について. 一般口演

Colorectal Cancer Forum In Iwate, 盛岡, 2021/09/03

1. 八重樫 瑞典. 抗 EGFR 抗体薬の恩恵. 講演

第 7 回日本臨床栄養代謝学会東北支部会, WEB 開催, 2021/09/04

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術における術後早期 Oral Nutritional Supplements の安全性の検討. 一般演題

大腸がんオンライン市民公開講座, 盛岡, 2021/09/05

1. 大塚 幸喜. コロナ禍でも安心して大腸がん治療を受けるために. ハイブリッド講演

第 4 回ラバロ FUKUSHIMA One Team セミナー, 郡山, 2021/09/11

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の技術認定医試験対策. 講演

第 7 回岩手県立病院総合学会, 盛岡, 2021/09/11

1. 木村 拓, 箱崎 将規, 石川 徹, 佐藤 一, 坂下 伸夫. 腹腔鏡下幽門側胃切除後に発症した乳糜腹水を伴う絞扼性イレウスの一例. 一般示説
2. 石岡 秀基, 前川 慶之, 駒木 裕一. 重症新型コロナウイルス感染症 8 例の経験: 腹臥位療法の新規導入と有用性について. 一般口演

第 16 回あきた手術手技セミナー, 秋田, 2021/09/17

1. 八重樫 瑞典. 技術認定医を目指して ~ 指導を受けた立場から ~. 講演

第 2 回 KIT 内視鏡外科手術アカデミー, WEB 開催, 2021/09/17

1. 大塚 幸喜. 技術認定医試験の現状とポイント. 講演

第 9 回腹腔鏡下スリーブ状胃切除術セミナー, WEB 開催, 2021/09/21 ~ 09/22

- * 佐々木 章. 特別講演 スリーブ状胃切除術の効果と合併症のエビデンス. 司会
- * 佐々木 章. スリーブ状胃切除術の手技と問題点. 司会
- * 佐々木 章. 特別講演 減量・代謝改善手術の現状: 適応とガイドラインを含めて. 司会

第 9 回東北食道外科セミナー, 東京 (ハイブリッド形式), 2021/9/22

1. 秋山 有史. 左上縦隔. 講演

第 180 回東北外科集談会, WEB 開催, 2021/09/25

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術の教育 - 技術認定医試験 いかにか合格するか、させるか -. 特別講演

第 27 回外科侵襲とサイトカイン研究会, 神戸, 2021/10/07

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菊地 晃司, 天野 怜, 真壁 健二, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 佐々木 章. 肝臓手術における Muse 細胞動態とその意義. 会長賞口演

Sapporo Colon and Rectal Cancer Forum, 札幌, 2021/10/08

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術の教育 - これまでの教育 これからの教育 -. 講演

第 19 回日本乳癌学会 北海道地方会, 札幌, 2021/10/09

1. 清川 真緒, 川岸 涼子, 米澤 仁志, 早川 善郎. 周期化学療法を施行した分泌癌の 1 例. 一般口演
2. 川岸 涼子, 清川 真緒, 米澤 仁志, 早川 善郎. 癌との鑑別を要した糖尿病性乳腺症の 1 例. 一般口演

第 2 回下部消化管外科 web 講演会, WEB 開催, 2021/10/14

1. 大塚 幸喜. 進行直腸癌に対する再発させない腹腔手術の基本手技と集学的治療. 講演

第 1 回いわて肝移植セミナー, WEB 開催, 2021/10/22

- * 佐々木 章. 特別講演 肝移植の最近の進歩と将来像. 座長

第 53 回腹腔鏡下大腸切除研究会 講習会, WEB 開催, 2021/10/23

* 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸切除術 ~内側アプローチ~ ~直腸授動・間膜処理~. 司会

第 9 回長岡大腸癌講演会, 長岡, 2021/10/29

1. 大塚 幸喜. 進行直腸癌に対する再発させない 腹腔手術の基本手技と集学的治療. web 講演

第 1 回技術認定取得を目指すセミナー, 大阪, 2021/10/30

1. 大塚 幸喜. 技術認定取得を目指すセミナー. パネリスト

第 42 回日本大腸肛門病学会北海道支部例会, 札幌, 2021/10/30

1. 木村 聡元. 技術認定医取得後 10 年を振り返って~教えることは学ぶこと~. 一般口演

第 10 回兵庫若手腹腔鏡手術研究会, 神戸, 2021/11/09

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下結腸切除の不得意分野を克服 - 技術認定医試験対策を中心に -. 講演

第 51 回胃外科・術後障害研究会, WEB 開催, 2021/11/11 ~ 11/12

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下噴門側胃切除術における Side-Overlap 法による機能温存の工夫. 一般口演

東北ヘルニア研究会, 仙台, 2021/11/13

1. 菊地 晃司, 梅邑 晃, 天野 怜, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 若手外科医にとっての腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 transabdominal preperitoneal repair(TAPP 法). 一般口演

第 14 回北東北 LAC 情報交換会, 盛岡, 2021/11/27

1. 八重樫 瑞典. 腹腔鏡下大腸癌手術を学ぶ~指導を受ける側から教える側へ~. 講演

東北膵胆道癌研究会, 仙台, 2021/11/27

1. 菊地 晃司, 片桐 弘勝, 天野 怜, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝外胆管原発神経内分泌腫瘍 G1/G2 症例の検討. 一般口演

AePA BootCamp 2021, WEB 開催, 2021/11/28

1. 新田 浩幸. 腹腔鏡下肝切除術のすすめ ~人医療における経験と普及活動に関与してきた立場から~. 講演

第 1 回消化器手術手技セミナー, 東京, 2021/11/30

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸手術の技術認定医試験対策 一いかに合格するか、させるか~. web 講演

東北消化器外科周術期管理セミナー, WEB 開催, 2021/11/30

* 佐々木 章. 特別講演 忙しい外科医のための SSI 対策. 座長

第 148 回日本小児科学会岩手地方会, WEB 開催, 2021/12/11

1. 鈴木 信. 未来ある子供達のために ~体だけでなく心にも傷を残さない外科医療を目指して~. 特別講演

第 1 回いわて上部消化管セミナー, WEB 開催, 2021/12/16

* 佐々木 章. 特別講演 2 LESC の「今まで」そして「これから」の教育に向けて. 座長

* 秋山 有史. 特別講演 1 胃癌治療における栄養サポートの重要性~エビデンスとチーム医療で体重減少に挑む~. 座長

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役 職	名 前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教 授	佐々木 章	1988	内分泌代謝	JSES 技術認定（食道）、消化器外科専門医、内分泌外科専門医
	新田 浩幸	1993	肝胆膵	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医
准 教 授	大塚 幸喜	1993	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、大腸肛門病専門医
	岩谷 岳	1995	上部消化管・リサーチ	消化器外科専門医
	秋山 有史	1999	上部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、食道外科専門医
	鈴木 信	2000	小児外科	小児外科専門医
講 師	片桐 弘勝	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	馬場 誠朗	2004	上部消化管	消化器外科専門医、日本ロボット外科学会国内 B 級専門医
	梅邑 晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医
特 任 講 師	八重樫瑞典	2009	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
助 教	菅野 将史	2004	肝胆膵	消化器外科専門医
	小松 英明	2004	乳腺	乳腺専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	乳腺専門医
	小林めぐみ	2007	小児外科	小児外科専門医
	武田 大樹	2008	肝胆膵	消化器外科専門医
	高清水清治	2010	下部消化管	消化器外科専門医、日本ロボット外科学会国内 B 級専門医
	二階 春香	2011	上部消化管	消化器外科専門医
	天野 怜	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
助教(任期付)	長瀬 勇人	2008	肝胆膵	消化器外科専門医
	天野 総	2013	乳腺	
	畑中 智貴	2014	下部消化管	消化器外科専門医
専門研修医	平田勇一郎	2015	下部消化管	
	川上亜紀子	2017		
	石井 勇吾	2019		
大学院 4年	有吉 佑	2012	下部消化管	消化器外科専門医
	田金 恵	2016	上部消化管	
	橋元 麻生	2016	乳腺	
	菊地 晃司	2017	肝胆膵	
	屋成 信吾	2017	内分泌代謝	
	佐々木智子	2018	リサーチ	
	小泉 優香	2018	リサーチ	
3年	伊藤 浩平	2017	リサーチ	
	高橋 真人	2017	内分泌代謝	

役職	名前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
大学院 2年	石岡 秀基	2015	内分泌代謝	
	岩崎 崇文	2018		
	岩佐 友寛	2020		
	大塚 観喜	2020		
	口田 脩太	2020		
1年	棚橋 洋太	2015		
	奥津 美里	2019		

非常勤医師

客員教授	寺島 雅典	静岡県静岡がんセンター 副院長
非常勤講師	阿部 正	岩手県予防医学協会
	杉立 彰夫	
	大森 浩明	雫石大森クリニック 院長
	川村 英伸	岩手県立久慈病院 院長
	池田健一郎	池田外科・消化器内科医院 院長
	笠原 群生	国立成育医療研究センター 臓器移植センター長
	富澤 勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡 院長
非常勤医師	島袋 誠守	東京ミッドタウンクリニック 先端医療研究所副所長 / がん診療部長兼部門幹事 / 外来診療部門幹事
	長谷川 康	慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器）専任講師（有期）
	高原 武志	藤田医科大学総合消化器外科 臨床教授
	藤村 匠	独立行政法人国立病院機構埼玉病院 小児外科部長
	安藤 太郎	かづの厚生病院
	有末 篤弘	八戸赤十字病院
	松井 雄介	県立二戸病院
	中村 侑哉	県立久慈病院
	木村 拓	県立釜石病院
藤澤 良介	県立久慈病院	

クオリティーの向上



人がいる、
心がある、
医療に貢献。

ISO 9001:登録企業



Registered
to ISO 9001



誠実・医療に奉仕

共立医科器械株式会社

●本社	〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町15-9	TEL (019) 623-1205 (代)	FAX (019) 653-5301
水沢支店	〒023-0826 岩手県奥州市水沢中田町4-38	TEL (0197) 25-6221 (代)	FAX (0197) 25-6223
さんりく営業所	〒026-0046 岩手県釜石市桜木町1-6-41	TEL (0193) 23-0491 (代)	FAX (0193) 23-0976
八戸支店	〒039-1166 青森県八戸市根城3-18-3	TEL (0178) 43-2923 (代)	FAX (0178) 44-1957
弘前営業所	〒036-8062 青森県弘前市大字青山4-20-3	TEL (0172) 55-5081	FAX (0172) 55-5082
青森営業所	〒030-0811 青森県青森市青柳1-8-19	TEL (017) 718-3205	FAX (017) 718-3206
六ヶ所営業所	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駸字野附1-35	TEL (0175) 71-1170	FAX (0175) 71-1171
秋田営業所	〒010-0041 秋田県秋田市広面字川崎107-3	TEL (018) 884-7464	FAX (018) 884-7465
共立サポートセンター	〒020-0813 岩手県盛岡市東山2-3-12	TEL (019) 652-8988	FAX (019) 623-4161
矢巾営業所	〒028-3609 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番12号	TEL (019) 613-6771	FAX (019) 613-6772

■医療機器 ■医療情報システム ■病・医院諸設備 ■理化学分析機器
■バイオテクノロジー機器 ■環境分析機器 ■実験動物機器

<http://www.kmic.co.jp/>

OLYMPUS

Reborn Flex Gives You Insight



HD画質で3D観察が可能な先端湾曲ビデオスコープ

ジョイスティックハンドルの採用

- ・直感的な操作とスムーズな視野展開が可能
- ・エルゴノミックデザインにより、両手でも片手でも安定した操作が可能

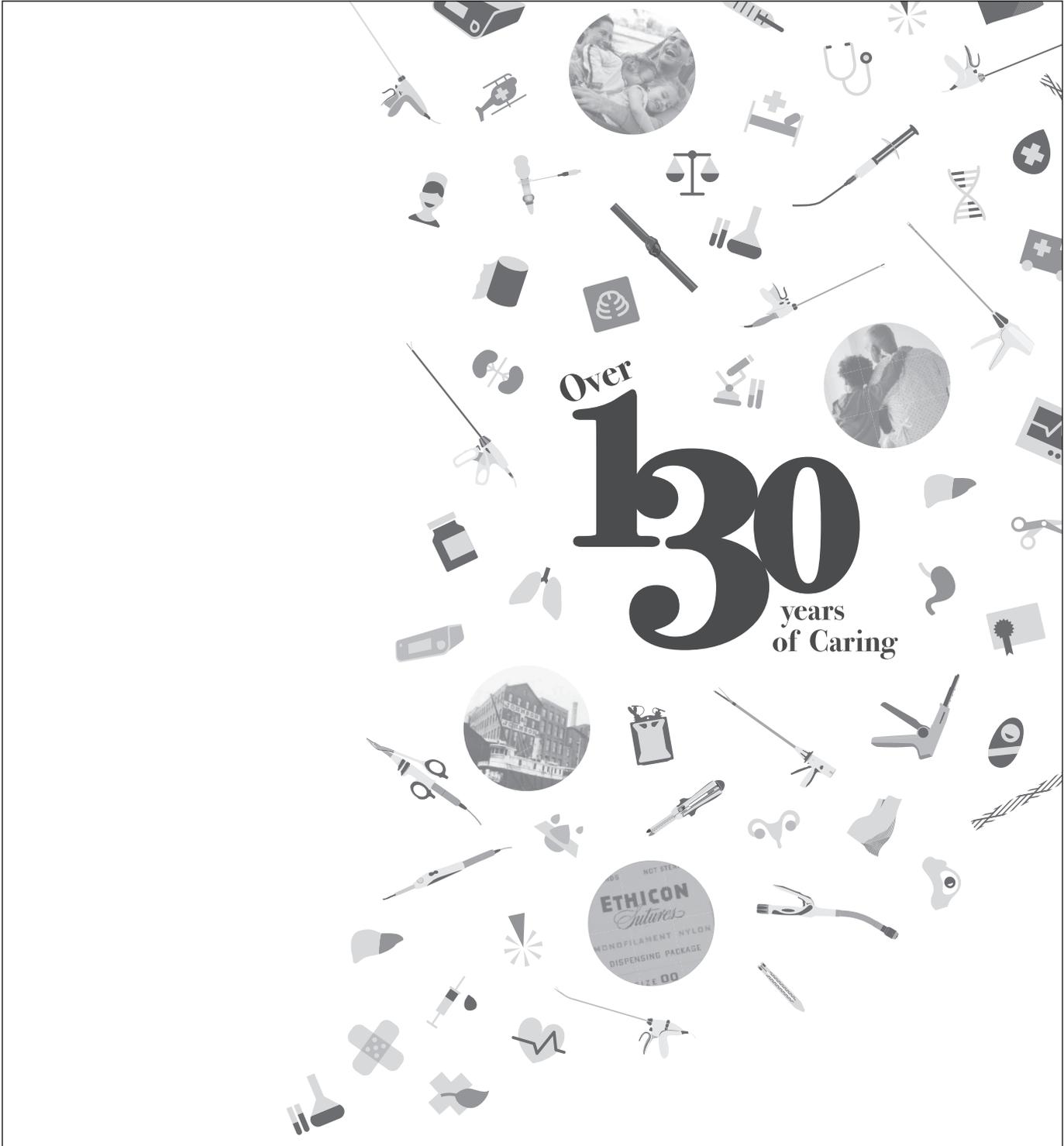
ホールド機能

- ・快適でスムーズな操作性を実現

ENDO EYE FLEX 3D

オリンパスマーケティング株式会社

www.olympus.co.jp



Over
130
years
of Caring

1886年からずっと。



ETHICON
PART OF THE *Johnson & Johnson* FAMILY OF COMPANIES

製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

133481-200226 ©J&JKK 2020

Reusableという選択

第三の選択 リポータブルのご提案

Reusable?
リユーズブル?



Disposable?
ディスポーズブル?

【YelloPort plus】 トロカール&カニューレ

Reusable
軽量、耐久性に優れた
PEEK樹脂を使用

Disposable
症例コスト
廃棄コスト

Reusable
初期導入コスト

Reusable

届出番号：13B1X00072001032
届出番号：13B1X00072001033
届出番号：13B1X00072001034
●製造販売元/株式会社アムコ ●製造元/Surgical innovations

【イオアドバンス電極】 電気メス用电極

Disposable
先端電極

Reusable

Disposable

●製造販売元/株式会社アムコ ●製造元/有限会社東京医科電機製作所
認証番号：222AIBZX00038000

【スリムラインハンドスイッチ】 電気メス用ハンドスイッチ

Reusable
100回使用可能

Reusable
ブラック：リユーズブル

Disposable
ブルー：ディスポーズブル

メス先端電極

※通電部も丸ごとウォッシャーディスイ
ンフエクタで洗浄できます。
※138℃までの高圧蒸気滅菌が可能です。

認証番号：223AFBZX00085000
承認番号：21600BZY00634000
承認番号：22000BZY00012000
●製造販売元/株式会社アムコ ●製造元/ERBE

【内視鏡下外科手術用鉗子】 マイクロライン

Disposable

Reusable

症例毎に切れ味を維持するため先端剪刀部はディスポ、
コスト削減を考えハンドルとシャフトはリユーズブルです。
*シャフト長は3種類、先端の形状は6種類からお選びいただけます。

●マイクロライン剪刀、
切れる理由：
刃と刃の間に隙間がありません。がたつきが出ないよう
パネによって適度な締め付けを行っています。

鉄を開いている時
鉄を閉じている時

●製造販売元/株式会社アムコ ●製造販売元/マイクロライン株式会社
認証番号：224AFBZX00092000
認証番号：224AFBZX00093000

アムコ ライブラリー

検索

会員登録頂くと、製品に関するケースレポート、講演会やセミナー動画、学会/セミナー記録集
などの情報をご覧頂けます。
医療関係者の方を対象としております。



株式
会社

アムコ

www.amco.co.jp

本 社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-7 TEL. 03 (3265) 4263 FAX. 03 (3265) 2796

A SMART STAPLER IN YOUR HANDS



Signia™ ステープリングシステム

販売名: Signiaステープリングシステム 医療機器認証番号: 228AABZX00088000 クラス: II
販売名: Signiaマニュアルアダプタツール 医療機器届出番号: 13B1X00069US0Z3A クラス: I

お問い合わせ先
コヴィディエンジャパン株式会社

Tel.: 0120-998-971

medtronic.co.jp

Medtronic



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。



Novartis Pharma K.K.

新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、
新しい発想で医療に貢献することです。

イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも
積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>

TERUMO



解熱鎮痛剤
アセトアミノフェン静注液

薬価基準収載

アセリオ[®] 静注液 **1000mg**
acelio[®] Intravenous Injection 1000mg

劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元：テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

資料請求先：テルモ株式会社 コールセンター ☎0120-12-8195(平日9:00-17:45受付)

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。 acelio、アセリオはテルモ株式会社の登録商標です。 ©テルモ株式会社 2016年6月 2016年6月作成



抗悪性腫瘍剤—抗HER2[®]抗体
トポイソメラーゼI阻害剤複合体

薬価基準収載



エンハーツ[®] 点滴静注用100mg

一般名/トラスツズマブ テルクステカン(遺伝子組換え)
(Trastuzumab Deruxtecan (Genetical Recombination))
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
※HER2: Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2
(ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称: c-erbB-2)

●「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)



第一三共株式会社

Daichi-Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1

2021年4月作成



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス® カプセル錠

25mg・125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules / Tablets パルボシクリブカプセル / 錠

劇薬 | 処方箋医薬品 | 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び製品の問い合わせ先:

製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467

販売情報提供活動に関するご意見:

0120-407-947

2021年6月作成
IBN72K005B



抗悪性腫瘍剤 / キナーゼ阻害剤

スチバーガ® 錠 40mg

Stivarga® tablets 40 mg

レゴラフェニブ錠

薬価基準収載

劇薬, 処方箋医薬品*

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果, 用法及び用量, 警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。



Bayer

製造販売元 [文献請求先及び問い合わせ先]

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<https://byl.bayer.co.jp/>

[コンタクトセンター] 0120-106-398

<受付時間> 9:00~17:30

(土日祝日・当社休日を除く)

(2020年2月作成) PP-STI-JP-0463-03-02

MARUKIは、
最新の情報と質の高いサービスの提供を通して
地域医療の発展に貢献して参ります

MARUKI



丸木医科器械株式会社
Maruki Medical Systems Inc.

- 仙台支店
〒981-1105 宮城県仙台市太白区西中田3-20-7
TEL 022-242-6001 (代)
- 鶴岡営業所
〒997-0046 山形県鶴岡市みどり町12-10 コアビル202
TEL 0235-29-1377 (代)
- 秋田営業所
〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋字中野64-1-B-13
TEL 018-889-6400 (代)
- 気仙沼出張所
〒988-0053 宮城県気仙沼市田中前3丁目6-8 メイプルハイツB号
FAX 0226-22-0880

- 山形支店
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘2-2-22
TEL 023-695-3000 (代)
- 岩手支店
〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第五地割313番
TEL 019-698-1567 (代)
- 秋田南営業所
〒013-0043 秋田県横手市安田字越廻37
TEL 0182-33-4751 (代)

- 庄内営業所
〒998-0875 山形県酒田市東町1-26-8
TEL 0234-23-7566 (代)
- 水沢営業所
〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字電神2-3
TEL 0197-25-7703 (代)
- 八戸営業所
〒039-1165 青森県八戸市石堂2-29-6-102
TEL 0178-21-8009 (代)

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
私たちの理念です。

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD003-TB-2103-1

人も地球も健康に Yakult



薬価基準収載

抗悪性腫瘍剤(イリノテカン塩酸塩水和物)
劇薬・処方箋医薬品※

カンプト® 点滴静注 40mg
100mg

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤(ペメトレキセドナトリウムヘミペンタ水和物)
劇薬・処方箋医薬品※

ペメトレキセド 点滴静注用 100mg
500mg「ヤクルト」

タキソイド系抗悪性腫瘍剤(ドセタキセル)
毒薬・処方箋医薬品※

ドセタキセル 点滴静注 20mg/1mL
80mg/4mL「ヤクルト」

アロマターゼ阻害剤、閉経後乳癌治療剤(レトロゾール)
劇薬・処方箋医薬品※

レトロゾール錠 2.5mg「ヤクルト」

副腎癌化学療法剤、副腎皮質ホルモン合成阻害剤(ミトタン)
劇薬・処方箋医薬品※

オペプリム®

抗悪性腫瘍剤(オキサリプラチン)
毒薬・処方箋医薬品※

エルプラット® 点滴静注液 50mg
100mg
200mg

抗悪性腫瘍剤/上皮成長因子受容体(EGFR)
チロシンキナーゼ阻害剤(ゲフィチニブ) 劇薬・処方箋医薬品※

ゲフィチニブ錠 250mg「ヤクルト」

抗悪性腫瘍剤(シスプラチン)
毒薬・処方箋医薬品※

シスプラチン 点滴静注 10mg
25mg「マルコ」

骨吸収抑制剤(ゾレドロン酸水和物)
劇薬・処方箋医薬品※

ゾレドロン酸 点滴静注 4mg/100mL 1mg/kg
4mg/5mL「ヤクルト」

抗悪性腫瘍剤(カペシタビン)
劇薬・処方箋医薬品※

カペシタビン錠 300mg「ヤクルト」

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤(ゲムシタビン塩酸塩)
劇薬・処方箋医薬品※

ゲムシタビン 点滴静注用 200mg
1g「ヤクルト」

抗悪性腫瘍剤/チロシンキナーゼインヒビター(イマチニブメシル酸塩)
劇薬・処方箋医薬品※

イマチニブ錠 100mg
200mg「ヤクルト」

活性型葉酸製剤(レボホリナートカルシウム水和物)
処方箋医薬品※

レボホリナート 点滴静注用 25mg
100mg「ヤクルト」

※注意一医師等の処方箋により使用すること

●「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

2021年9月作成

〈資料請求先〉

株式会社ヤクルト本社 〒105-8660 東京都港区海岸1-10-30

☎ **0120-589601** (医薬学術部 くすり相談室)

【受付時間】10:00~16:00(土、日、祝日ならびに当社休日を除く)



Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



明日の しあわせに 化ける術。

人知れずこっそり、世界中の“すきま”に潜んでいる。
火薬の力を使って瞬時にエアバッグを膨らませたり、
電子機器の半導体に使われる樹脂をつくったり、
また、人々の健康を守る抗がん剤などの医薬品や
食料の安定供給に欠かせない農薬を提供していたり。
私たちは、技術をしあわせに化けさせる会社です。
現在から未来へ。すきまから世界へ。これからの
暮らしになくてはならない価値を、次々と発想します。



世界的すきま発想。

 日本化薬

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

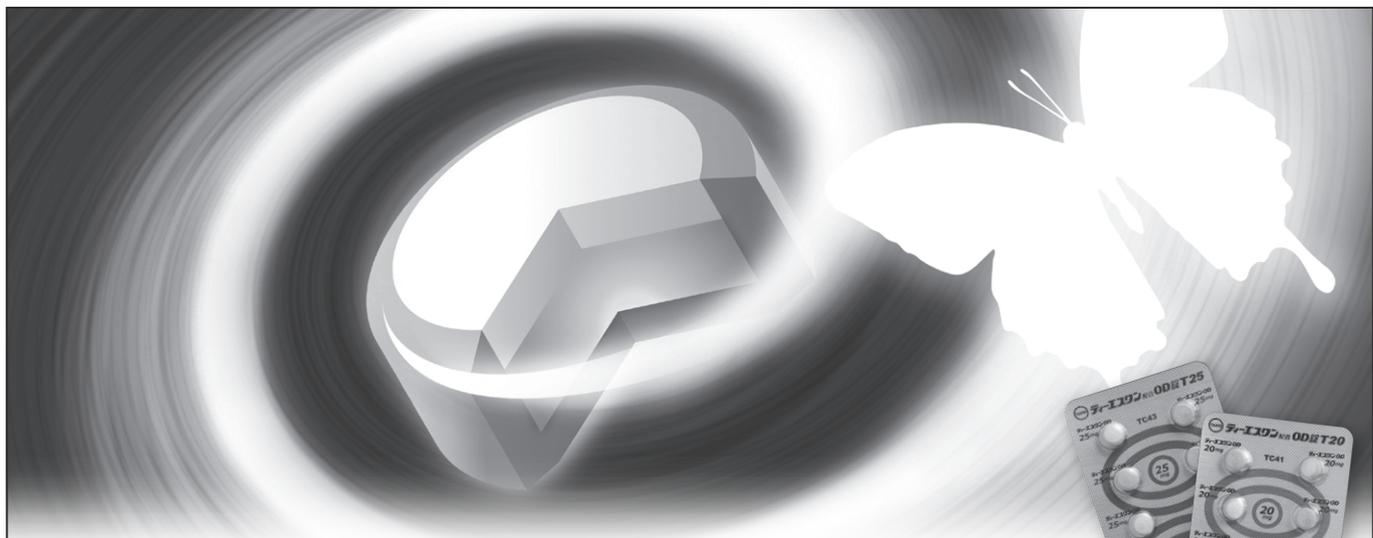
アステラスの、しごとです。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。

 **astellas**

アステラス製薬株式会社



代謝拮抗剤

劇薬、処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

ティエスワン® 配合OD錠 T20・T25

TS-1 combination OD tablet T20・T25

テガフルール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合有核型口腔内崩壊錠



※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、
効能・効果及び用法・用量に関連する使用上の注意等
については、添付文書をご参照ください。

文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>



2020年11月作成

患者さん自らが持つ免疫力を、
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか——。
小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブは、
従来のがん治療とは異なる
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。



私	の	免	疫	力	に、
が	ん	と	闘	う	力
を					

ONO 小野薬品工業株式会社

Bristol-Myers Squibb 株式会社



未来をひらくがん免疫療法

2021年4月作成

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、

より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

処方箋医薬品*

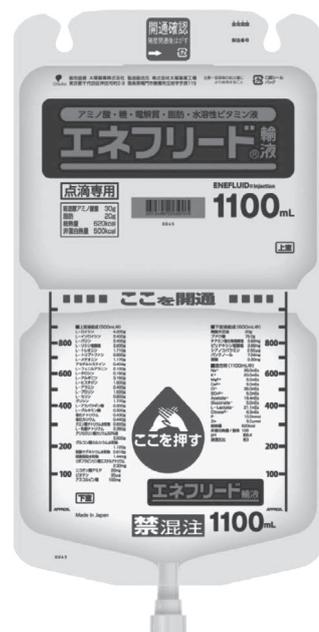
薬価基準収載

アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液

エネフリード® 輸液

ENEFLUID® Injection

*注意—医師等の処方箋により使用すること



◇効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む
使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

文献請求先及び問い合わせ先
株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2

<'21.03作成>



CYRAMZA[®]

(ramucirumab)

抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2^注モノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品*

サイラムザ[®] 点滴静注液 100mg
点滴静注液 500mg

CYRAMZA[®] Intravenous Injection ラムシルマブ(遺伝子組換え)注射液

注) VEGFR-2: Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2(血管内皮増殖因子受容体2)

*注意-医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告、禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

PP-RB-JP-3827
2020年12月作成

製造販売元(資料請求先)
日本イーライリリー株式会社

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120-360-605(医療関係者向け)
受付時間: 月~金 8:45~17:30

Lilly



生薬には、
個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。

ツムラ

株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

2021年4月制作 (審)

Seprafilm
ADHESION BARRIER

承認番号20900BZY00790000

高度管理医療機器 保険適用



癒着防止吸収性バリア

セプラフィルム®

ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

- 禁忌・禁止を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) **バクスター株式会社**
東京都中央区晴海一丁目8番10号

発売元
文献請求先
及び問い合わせ先



科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
医薬品情報サービス室

JP-A630-200100 V1.0
SPF04CP (2021年3月作成)

教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和4年3月30日

発行責任者／佐々木 章

発行 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通2丁目1-1

TEL 019-613-7111 (6220)

FAX 019-907-7344

編集者／馬場 誠朗

制作／有限会社ヤマダプランニング

お知らせ

第47回日本外科系連合学会学術集会開催のお知らせ

佐々木 章

この度、第47回日本外科系連合学会学術集会を2022年6月15日（水）から17日（金）に、盛岡市で開催させていただきます名誉を賜りましたこと、前理事長の内田英二先生、理事長の矢永勝彦先生をはじめ、会員の皆様方に心より感謝を申し上げます。

6月の盛岡のイベントといえば「チャグチャグ馬っこ」という行事で、100頭近くの農耕馬が、盛岡市内を「チャグチャグ」と鈴の音を響かせながら行進します。学会ポスターは、この「チャグチャグ馬っこ」をイメージとして、チャプター委員長30名の似顔絵を入れたものです。

本学会は、医師のみならず多職種も一緒に参加し、共通の問題に関してチームとして議論できる外科系分野の数少ない学術集会です。今回のテーマは、「チーム医療とセレンディピティの共有」とさせていただきます。プログラムでは、外科、

内科、歯学、薬学、看護学とのチーム医療で見つけた知見を共有し、明日からの教育、研究と診療に還元できるセッションを取り上げます。国内学会とのジョイントシンポジウムの企画、また、若手医師による英語発表のセッション（Wada Award Session）では、若手医師の英語教育の場として本学術集会をご活用いただき、積極的な発表と討論を期待します。

新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、盛岡を主軸とするハイブリッド形式で開催すべく準備を進めています。現時点では各セッションのライブ配信は行わず、現地参加と会期後に一部のセッションのみオンデマンド配信を行う予定です。詳細は、学術集会ホームページにて随時ご案内いたしますので、ご参加いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

第44回日本臨床栄養学会総会開催のお知らせ

佐々木 章

このたび、第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会を甲南女子大学医療栄養学部医療栄養学科教授の木戸康博先生（第43回日本臨床栄養協会総会会長）とともに、2022年10月7日（金）から9日（日）に、盛岡市で開催させていただくこととなりました。歴史と伝統のある本学会総会会長の名誉を賜りましたこと、機会を与えていただきました関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

今回のメインテーマは「未来を切り拓く臨床栄養学」、サブテーマは「臨床栄養学のリテラシー」とさせていただきます。近年の臨床現場と未来に向けて、科学的エビデンスに基づく食事・栄養療法を確立・発信していく

本学会の役割は非常に大きなものがあります。本大連合大会では、医師、管理栄養士、栄養に関わる多職種の皆様方が各疾患において栄養学的視点から栄養学の新知見を学び、明日からの教育・研究・診療に役立ち患者に寄与できるセッションを取り上げます。また他学会とのジョイントセッションも多く企画する予定です。

新型コロナウイルス感染症の影響で医療従事者の働き方や学びの場が変化していますが、「久しぶりに学会に、そうだ、盛岡に行こう」という想いを込めて、岩手医科大学外科学講座一丸となって学会準備に邁進してまいります。多くの皆様方にご参加いただけますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

表紙の説明

タイトル：「明けない夜はない 陽はまた昇る」

長引くコロナ禍の1日も早い収束を…、世界中の誰もがコロナに負けない安心して暮らせる世界になることを願っております。これからの明るい希望あるいわての未来を願って。

(大船渡湾の日の出)

編集後記

2022年も岩手医科大学外科学講座教室年報を無事に発行することができました。本年も新型コロナウイルス感染症の対応でお忙しいところ、ご執筆および編集に関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。形式についてはこれまでの形を引き継ぐこととしましたが、内容に関しては様々な方面から多くの先生方にご寄稿いただくことができ、充実した内容になっております。いただいたご寄稿を拝読しましたが、同門の先生方の同門会に対する強い思いとメッセージを感じました。

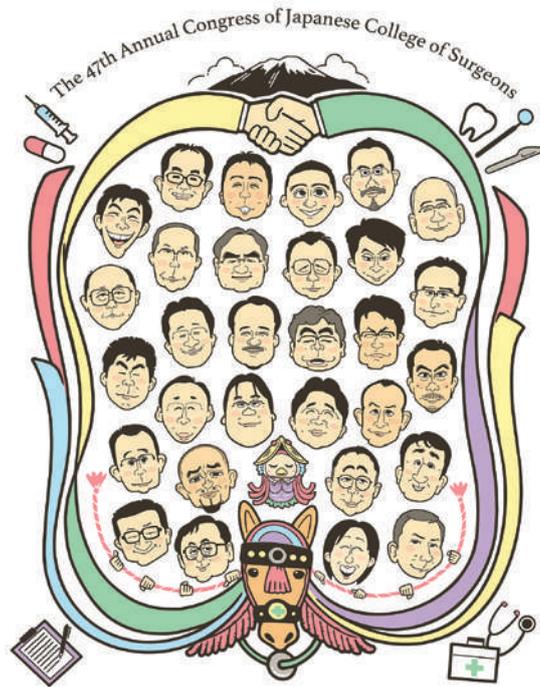
このたび佐々木章教授が還暦をお迎えになられましたこと、心よりお喜び申し上げます。いつも教育、研究、手術と活発にご活動されているお姿を拝見しておりますと、還暦とは到底思えません。今後も外科学教室の発展のために、これまで以上に教室員へご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。お忙しい毎日をお過ごしですので、時にはご自身のお体を労り奥様との時間も大切にしていきたいと思っております。これからも健康で素敵な人生をお過ごしください。さらなるご活躍をお祈りしております。

最後に同門会の先生方、ご執筆いただいた先生方、秘書の皆様、ヤマダプランニングの方々、ご協賛いただきました各社の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

編集委員長 馬場 誠朗



第47回 日本外科学系連合学会学術集会



会場 **アイーナ**
(いわて県民情報交流センター)
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
TEL: 019-606-1717

会長 **佐々木 章**
岩手医科大学医学部外科学講座 教授

事務局 ● 岩手医科大学医学部外科学講座
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-1-1
運営事務局 ● 日本コンベンションサービズ株式会社
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2
大岡生命館が関ビル 14 階
TEL: 03-3508-1214 FAX: 03-3508-1202
E-mail: jca47-admin@convention.co.jp

2022年
6/15 (水)
-17 (金)

演題登録期間 (予定)
2021年 2022年
12/15 (※) - **2/2** (※)

チーム医療とセレンディピティの共有

第44回 日本臨床栄養学会総会

佐々木 章 (岩手医科大学 外科学講座 教授)

第43回 日本臨床栄養協会総会

木戸 康博 (甲南女子大学 医療栄養学部 教授)

第20回 大連合大会



未来を切り拓く
臨床栄養学

～臨床栄養学のリテラシー～

2022年
10月7日 (金) ～ **9日** (日)

会場 **アイーナ** (いわて県民情報交流センター)
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 電話 019-606-1717

演題募集期間 **2022年**
3月2日 (※) ～ **4月27日** (※)